



Title	東京歯科大学研究年報 : 平成25年度
Journal	東京歯科大学研究年報, (): -
URL	http://hdl.handle.net/10130/3438
Right	

平成25年度

東京歯科大学研究年報 講座・研究室プロフィール

基礎系

更新履歴

Dec. 31, 2014 ver.1.0.0 最初の公開バージョン

無断で全部または一部を改変すること、電子的または印刷によって複製を作ること、再配布することを禁じます。

Copyright 2013-14, 東京歯科大学研究部 All rights reserved.

凡 例

1. これは、東京歯科大学における平成25年度(平成25年4月1日~平成26年3月31日)の講座・研究室のプロフィールと研究業績をまとめたものである。
2. 研究業績は、担当者の所属する講座、研究室の別に分け、それぞれ論文(総説・原著/原著論文・原著/臨床研究論文・原著/症例報告論文)、調査報告書、解説、単行図書、学会発表、その他の順に配列した。
3. 論文の記載は、①著者名、②題名、③掲載誌、④巻、⑤初頁-終頁、⑥発行西暦年の順とした。号の必要な時には、④巻のつぎに括弧で囲んで記入した。また学位論文には、⑥に続いて学位論文の種別を記入した。
4. 調査報告書の記載は、①著者名、②単著・共著・著分担・監修・編集・訳の別、③報告書名、④発行者名、⑤発行西暦年の順とした。一部を分担した場合には、④発行者名に続いて、分担部分の表題、その初頁-終頁を追記した。
5. 解説の記載は、①著者名、②題名・表題、③掲載誌、④巻、⑤初頁-終頁、⑥発行西暦年の順とした。
6. 単行図書の記載は、①著者名、②単著・共著・著分担・監修・編集・訳の別、③書名、④発行西暦年、⑤出版社または発行所、⑥出版都市名、⑦ISBN/ISSN番号の順とした。単行図書の一部を分担執筆した場合には、③書名に続いて、分担部分の表題、その初頁-終頁を追記した。
7. 学会発表の記載は、①演者名、②演題表題、③抄録掲載誌、④巻、⑤初頁-終頁、⑥発行西暦年、⑦発表学会、⑧開催地の順とした。
8. その他には、上記のカテゴリに該当しない学術的業績を記載した。
9. 学術学会に相当しない団体が開催するセミナー・研究会・カンファレンス等における発表・講演はプロフィールの「研究活動の特記すべき事項」の項目に記載した。
10. 医学知識の啓発を目的とする講演会(一般市民を対象とするもの)における講演・発表や、メディア等への掲載・出演は、プロフィールの「社会的貢献・社会に対する活動」の項目に記載した。
11. 各研究業績にはつぎの事項をその順序に従って附記した。①文科省科研費の種別、②その他の助成金・受賞等、③著者・発表者の所属機関の名称、④DOI、PubMed ID、URI、医学中央雑誌番号等の標識。
12. 発表者の所属機関は検索の利便を考慮して略記せず、可及的に正式な機関の名称を表記した。東京歯科大学の各部署の表記規則については後掲の別表に定めるところに拠った。
13. 欧文で発表されたものについては、氏名はICMJE (International Committee of Medical Journal Editors) が推奨する形式(Vancouver Style) に準じて、ローマ字で表記するものとした。
例:Nakamura T, Tanaka Y, Smith AJ.

所属機関の表記は検索の利便を考慮して、欧文で発表されたものであっても、本学および国内機関の名称は和名で表記した。これは同一の機関や部署であっても、発表ごとに英文表記が異なる場合が多いためである。
例 Dept. of Periodontology, Tokyo Dental College → 東京歯科大学歯周病学
14. 雑誌名は英文誌においてはNLM (National Library of Medicine)のNLM Catalog: Journals referenced in the NCBI Databases (<http://www.ncbi.nlm.nih.gov/nlmcatalog/journals>)の定めるところに拠って略記した。国内和文誌においては略記せず正式な誌名をそのまま表記した。

部署名表記の規則

1. 必ず東京歯科大学を先頭に付ける。
 - a. 水道橋病院、千葉病院、市川総合病院の講座および診療科はそれぞれの病院名称を東京歯科大学に続けて表記する。
2. 部署名の後に「講座」、「研究室」等の名称は表記しない。
3. 区切りスペースは用いない。
4. 東京歯科大学水道橋病院口腔健康臨床科学講座の各分野は、分野名を続けて表記する。
ただし分野名に付く「科」は省略する。
5. 中黒・は下記に限り使用する。
 - a. 東京歯科大学オーラルメディシン・口腔外科学

- b. 東京歯科大学千葉病院摂食・嚥下リハビリテーション・地域歯科診療支援科
 - c. 東京歯科大学口腔健康臨床科学講座の各分野
 - d. 東京歯科大学口腔科学研究センター・口腔インプラント研究部門
6. 学外の研究機関については業績の根拠となるデータ(論文・学会発表の抄録など)に記載された表記に拠る。
ただし下記については共著となる例が多いので統一規則を用いる。

慶應義塾大学医学部	例) 慶應義塾大学医学部眼科
東京慈恵会医科大学	例) 東京慈恵会医科大学耳鼻咽喉科
東京都立大塚病院口腔科	
東京都立府中病院歯科口腔外科	

平成25年度東京歯科大学研究年報 部署コード番号および表記の一覧

001	東京歯科大学解剖学
002	東京歯科大学口腔超微構造学
003	東京歯科大学生理学
004	東京歯科大学生化学
006	東京歯科大学微生物学
007	東京歯科大学薬理学
008	東京歯科大学歯科理工学
009	東京歯科大学衛生学
010	東京歯科大学法歯学
011	東京歯科大学社会歯科学
101	東京歯科大学歯科保存学
102	東京歯科大学歯周病学
104	東京歯科大学小児歯科学
105	東京歯科大学口腔外科学
106	東京歯科大学歯科麻酔学
107	東京歯科大学有床義歯補綴学
108	東京歯科大学クラウンブリッジ補綴学
109	東京歯科大学歯科矯正学
110	東京歯科大学歯科放射線学
111	東京歯科大学スポーツ歯科学
112	東京歯科大学臨床検査病理学
113	東京歯科大学口腔インプラント学
114	東京歯科大学千葉病院総合診療科
115	東京歯科大学千葉病院摂食・嚥下リハビリテーション・地域歯科診療支援科
219	東京歯科大学口腔がんセンター
201	東京歯科大学オーラルメディシン・口腔外科学
202	東京歯科大学市川総合病院内科
203	東京歯科大学市川総合病院外科
204	東京歯科大学市川総合病院循環器内科
205	東京歯科大学市川総合病院心臓血管外科
206	東京歯科大学市川総合病院消化器内科
207	東京歯科大学市川総合病院小児科
208	東京歯科大学市川総合病院脳神経外科
209	東京歯科大学市川総合病院整形外科
210	東京歯科大学市川総合病院産婦人科
211	東京歯科大学市川総合病院眼科
505	東京歯科大学市川総合病院角膜センター
212	東京歯科大学市川総合病院耳鼻咽喉科
213	東京歯科大学市川総合病院皮膚科
214	東京歯科大学市川総合病院泌尿器科
215	東京歯科大学市川総合病院放射線科
216	東京歯科大学市川総合病院麻酔科

- 217 東京歯科大学市川総合病院精神科
218 東京歯科大学市川総合病院臨床検査科
220 東京歯科大学市川総合病院形成外科
221 東京歯科大学市川総合病院神経内科
222 東京歯科大学市川総合病院呼吸器内科
- 300 東京歯科大学口腔健康臨床科学 (平成25年8月1日から)
301 東京歯科大学口腔健康臨床科学・歯科保存 (平成25年7月31日まで)
302 東京歯科大学口腔健康臨床科学・歯科補綴 (平成25年7月31日まで)
303 東京歯科大学口腔健康臨床科学・口腔外科 (平成25年7月31日まで)
304 東京歯科大学口腔健康臨床科学・歯科矯正 (平成25年7月31日まで)
305 東京歯科大学口腔健康臨床科学・小児歯科 (平成25年7月31日まで)
306 東京歯科大学口腔健康臨床科学・歯科麻酔 (平成25年7月31日まで)
307 東京歯科大学口腔健康臨床科学・口腔インプラント (平成25年7月31日まで)
308 東京歯科大学口腔健康臨床科学・総合歯科 (平成25年7月31日まで)
309 東京歯科大学口腔健康臨床科学・歯科放射線 (平成25年7月31日まで)
310 東京歯科大学水道橋病院眼科
311 東京歯科大学水道橋病院内科
- 401 東京歯科大学英語
402 東京歯科大学独語
403 東京歯科大学数学
404 東京歯科大学物理学
405 東京歯科大学化学
406 東京歯科大学生物学
407 東京歯科大学体育
408 東京歯科大学法人類学
- 501 東京歯科大学口腔科学研究センターHRCプロジェクト(hrc7, hrc8)
502 東京歯科大学口腔科学研究センター・口腔インプラント研究部門
504 東京歯科大学歯科医学教育開発センター

その他

放射線技師、看護師、歯科衛生士、歯科技工士、薬剤師等の所属を示す場合の例

東京歯科大学千葉病院放射線科
東京歯科大学千葉病院歯科衛生士部
東京歯科大学千葉病院医療安全管理室
東京歯科大学千葉病院看護部
東京歯科大学市川総合病院看護部
東京歯科大学市川総合病院歯科・口腔外科
東京歯科大学市川総合病院栄養管理室
東京歯科大学市川総合病院薬局
東京歯科大学水道橋病院放射線科
東京歯科大学水道橋病院歯科技工室

学生が著者の場合は 東京歯科大学(学生)とした。
名誉教授・元教授は元の所属講座が記載されていない場合に限って、東京歯科大学とした。

解剖学講座

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

教授	井出 吉信	歯科インプラントにおける偶発症抑止のための顎骨内部構造の解析
主任教授	阿部 伸一	上皮・結合組織・筋のハイブリッドシートの創製
講師	松永 智	材料工学的手法を用いた顎骨周囲における力学的環境の解明
助 教	木下 英明	失敗事例の擬似体験を可能にする口腔インプラント手術シミュレータの開発
大学院生	小林 史明	軟口蓋形成過程の3次元フィラメント構築の解明
	野口 拓	老化促進モデルマウスを用いた骨構造の比較
	原 陸喜	水分摂取時の嚥下機能評価
	山本 将仁	胎生期マウス外側翼突筋におけるデスミンの発現について
	福田 真之	歯科インプラントにおける偶発症抑止のための顎骨内部構造の解析
	山根 茂樹	細胞シート工学を利用した口腔粘膜組織の再生における細胞骨格関連タンパクの発現
	梅澤 貴志	細胞シート工学を利用した口腔粘膜組織の再生における細胞骨格関連タンパクの発現
	大峰 悠矢	インプラント応用を想定した上顎結節部における骨形態計測
	笠原 正彰	上顎骨臼歯部における骨質の解析
	小高 研人	デンタルインプラント周囲顎骨における生体アパタイト結晶配向性
	北村 啓	骨格筋内を走行する微小血管と神経の距離計測
	芹川 雅光	骨格筋細胞シートの解析
	山内 真人	舌神経の解剖学的走行形態

2. 成果の概要

1) 筋機能の再活性、成長・発育に関する因子の解析

筋機能の再活性は、高齢社会を迎えた現在において大きな課題である。筋幹細胞であるサテライト細胞は筋組織の中に存在し、筋肥大または修復など必要に応じて筋前駆細胞へ分化するが、この過程で様々な成長因子が関与することの一端を明らかにした。特に我々は、肝細胞増殖因子 (HGF) がサテライト細胞の活性と増殖に影響を与え、インスリン様成長因子 -1 (IGF-1) は筋芽細胞の増殖と分化を活性化していることを示唆した報告を行った。これら因子は筋の成長、発育にも重要な役割を担っていることが明らかとなった。また、筋の発生段階で発現する各種因子、特に筋内の神経、脈管の位置関係、発現するタンパクの観察などを行った。

Annals of Anatomy, 195:128-136, 2013.
Anatomy and Cell Biology, 46:39-48, 2013.
Anatomy and Cell Biology, 46:141-148, 2013.
European Archives of Oto-Rhino-Laryngology, 46:101-112, 2013.
Anatomy and Cell Biology, 46:101-112, 2013.
Annals of Anatomy, 195:441-448, 2013.
Journal of Urology, 190:1313-1319, 2013.
Surgical and Radiologic Anatomy, 35:765-773, 2013.
Archives of Oral Biology, 2014 (in press).

2) 上皮・結合組織・筋ハイブリッドシートの創製

マウス頬粘膜上皮から細胞を採取し作製した口腔粘膜上皮シート、頬粘膜下組織から細胞を採取し作製した結合組織細胞シート、胎生期マウスより採取した筋芽細胞を利用し作製した骨格筋細胞シートを積層後、24 時間までの経過を観察し良好な結果を得た。これはそれぞれの細胞シートを作製する時間を試行錯誤し、口腔粘膜上皮シートを 3 週間、結合組織細胞シートを 48 時間、骨格筋細胞シートを 36 時間とし、その後積層したものが最も良好な結果を得る可能性があることを見出したものである。特に積層後、それぞれの細胞シートが良好に接着すると上皮シート直下に細胞基質間の接着タンパクである Integrin が一層発現することをこれまで明らかにした。研究成果は、論文として現在投稿中である。

Journal of Hard Tissue Biology, 23:275-280, 2014.

3)材料工学的手法を用いた顎骨周囲における力学的環境の解明

歯工連携研究として、① CT データベースの三次元骨構造解析、②三次元有限要素法 (FEM) を用いた生体力学的解析、③顎骨の生体アパタイト (BAp) 結晶配向性と骨強度解析、④老年性骨粗しょう症および閉経後骨粗鬆症複合発症時の骨微細構造解析、⑤ 3D プリンターを用いた顎骨内部構造の再現精度検証、⑥失敗事例の疑似体験を可能にする口腔インプラント手術シミュレータの開発、についてそれぞれ研究を進めている。得られた各スケールにおけるデータは順調に蓄積されており、マルチスケールの顎骨シミュレータの開発は、道半ばではあるが着実に進行している。

Journal of Hard Tissue Biology, 22:171-176, 2013.

Dental Materials Journal, 32:425-432, 2013.

Journal of Hard Tissue Biology, 22(2):163-79, 2013.

3. 学外共同研究

担当者	研究課題	学外研究施設		
		研究施設	所在地	責任者
阿部 伸一 山本 将仁	筋発生過程における獲得タンパク	Universidad Complutense	Madrid, Spain	Rodríguez-Vázquez JF
阿部 伸一	シーラー法を用いた神経筋内分布	Yonsei University	ソウル、大韓民国	Kim HJ

4. 科学研究費補助金・各種補助金

研究代表者	研究課題	研究費
阿部 伸一	顎顔面再建治療へ向けた上皮-間葉ハイブリッド型細胞シートの創製プロジェクト	文部科学省科学研究費補助金・基盤研究(C)
阿部 伸一	上皮-間葉ハイブリッド型機能的細胞シートの創製と有効性の評価	私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
松永 智	アパタイト結晶配向性を指標とした顎骨骨梁のナノメカニクス	文部科学省科学研究費補助金・基盤研究(C)
木下 英明	失敗事例の疑似体験を可能にする口腔インプラント手術シミュレータの開発	文部科学省科学研究費補助金・若手研究(B)

5. 研究活動の特記すべき事項

受賞

受賞者名	年月日	賞名	テーマ	学会・団体名
木下 英明	2013. 9.14	デンツプライ賞	個体差を疑似体験できる口腔インプラントシミュレーター	日本口腔インプラント学会

シンポジウム

シンポジスト	年月日	講演演題	学会・研究会名	開催地
阿部 伸一	2013. 9.15	上皮免疫機能基礎研究およびトランスレーショナル研究の展望	第43回日本口腔インプラント学会学術大会	福岡市

学会招待講演・特別講演・教育講演

講演者	年月日	演題	学会・研究会名	開催地
阿部 伸一	2013.10. 5	7 topics for Implant	ICOI World Congress	Istanbul, Republic of Turkey

学術学会に相当しない団体が開催するセミナー・研究会・カンファレンス等における発表・講演

講演者	年月日	演題	会合の名称	開催地
阿部 伸一	2013. 9.23	口腔領域の基礎研究から発信したいウェルエイジングへ向けたエビデンス	第15回抗加齢歯科医学研究会	東京都千代田区

6. 教育に関する業績，活動

共用試験

氏名	年月日	種別	役割	開催地
松永 智	2014. 2.20	平成25年度東京歯科大学 第4学年CBT	共用試験実施委員	東京都千代田区

他の大学・研究機関等における学生・大学院生を対象とする講義・実習

担当者名	年月日	テーマ・演題	大学・機関	所在地
阿部 伸一	2013. 6. 2	Swallowing function.	Yonsei University	ソウル大韓民国
阿部 伸一	2013. 6. 9	Swallowing function.	College of Oral Medicine, Taipei Medical University	台北 中華民国
松永 智	2013.12.10	マイクロCTと骨形態計測について	東京歯科大学・口腔科学研究センター	東京都千代田区

原著/原著論文 16

25001018 原著/原著論文

Abe S1), Yamamoto M1), Noguchi T1), Yoshimoto T1), Kinoshita H1), Matsunaga S1), Murakami G2), Rodríguez-Vázquez JF3).

Fetal development of the minor lung segment.

Anat Cell Biol, 47(1), 12-17, 2014.

1) 東京歯科大学解剖学、2) 岩見沢江仁会病院内科、3) Dept. of Anatomy and Embryology II, Faculty of Medicine, Universidad Complutense

DOI : 10.5115/acb.2014.47.1.12 PubMed ID : 24693478

25001020 原著/原著論文

Hayashi K1), Sugisaki M1), Kino K2), Ishikawa T2), Sugisaki M3), Abe S3).

Absence of the articular disc in the tasmanian devil temporomandibular joint.

Anat Histol Embryol, 42(6), 415-419, 2013.

1) 東京慈恵医科大学歯科、2) 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科全人の医療開発学系包括診療歯科学講座顎関節咬合学、3) 東京歯科大学解剖学

DOI : 10.1111/ahel.12031 PubMed ID : 23438215

25001021 原著/原著論文

Rodríguez-Vázquez JF1), Sakiyama K2), Verdugo-López S1), Amano O2), Murakami G3), Abe S4).

Origin of the torus mandibularis: an embryological hypothesis.

Clin Anat, 26(8), 944-952, 2013.

1) Dept. of Human Anatomy and Embryology II, Faculty of Medicine, Univ., Complutense, 2) 明海大学歯学部形態機能成育学講座解剖学、3) 岩見沢江仁会病院内科、4) 東京歯科大学解剖学

DOI : 10.1002/ca.22275 PubMed ID : 23813628

25001022 原著/原著論文

Abe S1), Nakao T1), Yamane S1), Fukuda M1), Yamamoto M1), Santti R2), Murakami G3).

Morphology of plantar interdigital neuroma: a comparative cadaveric study of elderly Finnish and Japanese individuals.

Okajimas Folia Anat Jpn, 90(1), 1-5, 2013.

1) 東京歯科大学解剖学、2) Dept. of Anatomy, Turku Univ. School of Medicine、3) 岩見沢江仁会病院内科

PubMed ID : 23883772

25001023 原著/原著論文

Ide Y1), Nakahara T1), Nasu M2), Matsunaga S3), Iwanaga T4), Tominaga N1), Tamaki Y1).

Postnatal mandibular cheek tooth development in the miniature pig based on two-dimensional and three-dimensional X-ray analyses.

Anat Rec (Hoboken), 196(8), 1247-1257, 2013.

1) 日本歯科大学生命歯学部発生・再生医学、2) 日本歯科大学生命歯学部共同利用研究センター、3) 東京歯科大学解剖学、4) ジャパンファームクラウン研究所

DOI : 10.1002/ar.22725 PubMed ID : 23749549

25001024 原著/原著論文

Katori Y1), Hayashi S2), Takanashi Y3), Kim JH4), Abe S5), Murakami G6), Kawase T3).

Heterogeneity of glandular cells in the human salivary glands: an immunohistochemical study using elderly adult and fetal specimens.

Anat Cell Biol, 46(2), 101-112, 2013.

1) 仙台市立病院耳鼻咽喉科、2) 愛知医科大学医学部医学教育センター、3) 東北大学大学院医学系研究科医学部耳鼻咽喉頭頸部外科学、4) Dept. of Anatomy, Chonbuk National Univ. College of Medicine、5) 東京歯科大学解剖学、6) 岩見沢江仁会病院内科

DOI : 10.5115/acb.2013.46.2.101 PubMed ID : 23869257

25001025 原著/原著論文

Takanashi Y1, Shibata S2), Katori Y3), Murakami G4), Abe S5), Rodríguez-Vázquez JF6), Kawase T7).

Fetal development of the elastic-fiber-mediated entheses in the human middle ear.

Ann Anat, 195(5), 441-448, 2013.

1) 東北大学大学院医学系研究科医学部耳鼻咽喉頭頸部外科学、2) 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科顎顔面頸部機能再建学系顎顔面機構制御学講座顎顔面解剖学、3) 仙台市立病院耳鼻咽喉科、4) 岩見沢江仁会病院内科、5) 東京歯科大学解剖学、6) Dept. of Anatomy and Embryology II, Faculty of Medicine, Complutense Univ.、7) 東北大学大学院医学系研究科聴覚再建医学研究分野医学系研究科聴覚言語障害学

DOI : 10.1016/j.aanat.2013.03.010 PubMed ID : 23706648

25001026 原著/原著論文

Hinata N1)2), Murakami G3), Abe S4), Shibata S5), Morizane S1), Honda M1), Isoyama T1), Sejima T1), Takenaka A1).

Coexistence of elastic fibers with hyaluronic acid in the human urethral sphincter complex: a histological study.

J Urol, 190(4), 1313-1319, 2013.

1) 鳥取大学医学部泌尿器科、2) 神戸大学大学院医学研究科泌尿器科、3) 岩見沢江仁会病院内科、4) 東京歯科大学解剖学、5) 東京医科歯科大学顎顔面解剖学

DOI : 10.1016/j.juro.2013.04.023 PubMed ID : 23583858

25001027 原著/原著論文

Abe S1), Aoki M2), Nakao T1), Kasahara M1), Rodriguez-Vazquez JF3), Murakami G4), Cho BH5).

Variation of the subscapularis tendon at the fetal glenohumeral joint.

Okajimas Folia Anat Jpn, 90(4), 89-95, 2013.

1) 東京歯科大学解剖学、2) 札幌第一病院整形外科、3) Dept. of Anatomy and Embryology II, Faculty of Medicine, Universidad Complutense、4) 岩見沢江仁会病院内科、5) Dept. of Surgery, Chonbuk National Univ. College of Medicine

PubMed ID : 24815107

25001028 原著/原著論文

Ha YS1), Cho KH1), Abe S2), Abe H3), Rodríguez-Vázquez JF4), Murakami G5).

Early fetal development of the human vertebral artery especially at and above the occipitovertebral junction.

Surg Radiol Anat, 35(9), 765-773, 2013.

1) Dept. of Neurology, Jeonbuk Regional Cardiocerebrovascular Disease Center, Institute of Wonkwang Medical Science, Wonkwang Univ. Sch. of Medicine and Hospital、2) 東京歯科大学解剖学、3) 秋田大学医学部解剖学、4) Dept. of Anatomy and Embryology II, Faculty of Medicine, Complutense Univ.、5) 岩見沢江仁会病院内科

DOI : 10.1007/s00276-013-1129-x PubMed ID : 23636280

25001029 原著/原著論文

Kuwana M1), Watanabe H2), Abe S3), Yanagisawa T1), Sasaki J4).

Expression of Mn-SOD, iNOS and eNOS mRNAs in osteoblasts from the maxilla of osteopetrotic mice.

Anat Histol Embryol, 42(2), 124-129, 2013.

1) 東京歯科大学口腔超微構造学、2) 奥羽大学歯学部生体構造学口腔組織学、3) 東京歯科大学解剖学、4) 岡山大学医歯薬学総合研究科細胞組織学

DOI : 10.1111/j.1439-0264.2012.01173.x PubMed ID : 22783967

25001030 原著/原著論文

Abe S1)2), Fukuda M1), Yamane S1), Saka H1)2), Katori Y3), Rodríguez-Vázquez JF4), Murakami G5).

Fetal anatomy of the upper pharyngeal muscles with special reference to the nerve supply: is it an enteric plexus or simply an intramuscular nerve?

Anat Cell Biol, 46(2), 141-148, 2013.

1) 東京歯科大学解剖学、2) 東京歯科大学口腔科学研究センター・hrc8、3) 仙台市立病院耳鼻咽喉科、4) Dept. of Anatomy and Embryology II, Sch. of Medicine, Complutense University、5) 岩見沢江仁会病院内科

DOI : 10.5115/acb.2013.46.2.141 PubMed ID : 23869261

25001032 原著/原著論文

Noguchi T, Matsunaga S, Kinoshita H, Fukuda M, Saka H, Ide Y, Abe S.

A site-specific comparison of the trabecular structure in senescence-accelerated mice—evaluation of time-course changes in bone architecture using in vivo Micro-CT.

J Hard Tissue Biol, 22(2), 171-176, 2013.

東京歯科大学解剖学

25001033 原著/原著論文

Sakiyama K1), Takizawa S1,2), Bando Y1), Inoue K2), Sasaki A3), Kurokawa K4), Shimoo Y5), Suzuki M5), Abe S5), Amano O1).

Characteristics and effects of muscle fibers surrounding lingual carcinoma.

J Hard Tissue Biol, 22(2), 215-220, 2013.

1) 明海大学歯学部形態機能成育学講座解剖学、2) 明海大学歯学部病態診断治療学講座口腔顔面外科学、3) 明海大学歯学部形態機能成育学講座歯科矯正学、4) 東京歯科大学スポーツ歯学、5) 東京歯科大学解剖学

25001046 原著/原著論文

Kinoshita H1), Nakahara K2), Matsunaga S1), Usami A3), Yoshinari Y4), Takano N5), Ide Y1), Abe S1).

Association between the peri-implant bone structure and stress distribution around the mandibular canal: a three-dimensional finite element analysis.

Dent Mater J, 32(4), 637-642, 2013.

1) 東京歯科大学解剖学、2) 日本歯科大学新潟生命歯学部先端研究センター、3) 奥羽大学歯学部生体構造学口腔解剖学、4) 東京歯科大学口腔科学研究センター・口腔インプラント研究部門、5) 慶應義塾大学理工学部機械工学科

DOI : 10.4012/dmj.2012-175

25502003 原著/原著論文

Matsumoto T1)2), Matsunaga S1)3), Morioka T1)2), Nakano T4), Yoshinari M1), Yajima Y1)2).

Relationship between preferential alignment of biological apatite and Young's modulus at first molar in human mandible cortical bone.

J Hard Tissue Biol, 22(2), 163-170, 2013.

1) 東京歯科大学口腔科学研究センター・口腔インプラント研究部門、2) 東京歯科大学口腔インプラント学、3) 東京歯科大学解剖学、4) 大阪大学大学院工学研究科マテリアル生産科学

DOI : 10.2485/jhtb.22.163

原著/症例報告論文 1

25001019 原著/症例報告論文

Katori Y1), Kawamoto A1), Cho KH2), Ishii K3), Abe H4), Abe S5), Rodríguez-Vázquez JF6), Murakami G7), Kawase T8).

Transsphenoidal meningocele: an anatomical study using human fetuses including report of a case.

Eur Arch Otorhinolaryngol, 270(10), 2729-2736, 2013.

1) 仙台市立病院耳鼻咽喉科、2) Dept. of Neurology, Institute of Wonkwang Medical Science, Jeonbuk Regional Cardiocerebrovascular Disease Center, Wonkwang Univ. Sch. of Medicine、3) 仙台市立病院放射線科、4) 秋田大学医学部解剖学、5) 東京歯科大学解剖学、6) Dept. of Anatomy and Embryology II, Faculty of Medicine, Complutense University、7) 岩見沢江仁会病院内科、8) 東北大学大学院医学系研究科医学部耳鼻咽喉頭頸部外科学

DOI : 10.1007/s00405-013-2392-5 PubMed ID : 23408024

原著/臨床研究論文 1

25115001 原著/臨床研究論文

Hara M1)2), Ishida R1), Ohkubo M1), Sugiyama T1), Kawata T3), Ide Y2), Abe S2).

Influence of straw type on feeding development in infants.

Pediatr Dent J, 23(1), 32-36, 2013.

1) 東京歯科大学千葉病院摂食・嚥下リハビリテーション・地域歯科診療支援科、2) 東京歯科大学解剖学、3) コンビ株式会社

DOI : 10.1016/j.pdj.2013.03.005 医中誌 ID : NA02310005

解説 5

25001038 解説

阿部伸一

骨格筋における可塑性の解明

歯科学報, 114(1), 1-6, 2014.

東京歯科大学解剖学

25001039 解説

松永智、阿部伸一

イメージしよう！乳歯の多様な歯髄空形態

小児歯科臨床, 9, 12-17, 2013.

東京歯科大学解剖学

25001040 解説

阿部伸一

歯列ごとの解剖学的特徴を総復習しよう！

デンタルハイジーン, 33(7), 704-707, 2013.

東京歯科大学解剖学

医中誌 ID : 2013316893

25001041 解説

阿部伸一

口腔機能の衰えのサイン

歯科衛生士, 37(5), 91-92, 2013.

東京歯科大学解剖学

医中誌 ID : 2013243579

25001042 解説

阿部伸一

幼児・学童期における機能解剖学的知識 ―咀嚼・嚥下機能、味覚の獲得―

東京都学校歯科医師会会誌, 77, 2-7, 2014.

東京歯科大学解剖学

単行図書（分担） 2

25001043 単行図書（分担）

阿部伸一、中尾正

味覚を理解するための解剖学的知識

味覚とおいしさの科学, 6-10, 2014.

東京都学校歯科医会 東京都千代田区

東京歯科大学解剖学

25001044 単行図書（分担）

松永智

口腔顎顔面解剖ノート

口腔顎顔面解剖ノート, 分担部分不明, 2014.

株式会社学建書院 東京都文京区

東京歯科大学解剖学

学会発表・口演 18

25001001 学会発表・口演

山根茂樹、梅澤貴志、井出吉信、阿部伸一

上皮・間葉ハイブリッド型細胞シート合成過程に発現する細胞骨格関連タンパク

J Oral Biosci, (Suppl), 122, 2013.

第55回歯科基礎医学会学術大会・総会 岡山市

東京歯科大学解剖学

医中誌 ID : 2014097942

25001002 学会発表・口演

山本将仁、小林史明、北村啓、梅澤貴志、山根茂樹、阿部伸一

胎生期マウス内側翼突筋のdesminとvimentinの発現

第119回日本解剖学会総会・全国学術集会講演プログラム・抄録集, 112, 2014.

第119回日本解剖学会総会・全国学術集会 下野市

東京歯科大学解剖学

25001003 学会発表・口演

梅澤貴志、山根茂樹、阿部伸一

骨格筋筋芽細胞シートへの間葉系細胞の影響

第119回日本解剖学会総会・全国学術集会講演プログラム・抄録集, 109, 2014.

第119回日本解剖学会総会・全国学術集会 下野市

東京歯科大学解剖学

25001005 学会発表・口演

梅澤貴志1)、山根茂樹1)2)、比嘉一成2)3)、島崎潤2)3)、井出吉信1)、阿部伸一1)2)

上皮・筋ハイブリット型細胞シート合成過程に発現する細胞骨格関連タンパク

歯科学報, 113(2), 198, 2013.

第296回東京歯科大学学会（総会） 千葉市

1) 東京歯科大学解剖学、2) 東京歯科大学口腔科学研究センター・hrc8、3) 東京歯科大学市川総合病院眼科

25001006 学会発表・口演

梅澤貴志、山根茂樹、井出吉信、阿部 伸一

骨格筋筋芽細胞シートへの間葉系細胞の影響

日本解剖学会関東支部第101回学術集会プログラム・抄録集, 25, 2013.

日本解剖学会関東支部第101回学術集会 東京都品川区

東京歯科大学解剖学

25001007 学会発表・口演

北村啓、小林史明、山本将仁、山根茂樹、梅澤貴志、井出吉信、阿部伸一

胎生期マウス口蓋帆張筋におけるDesminとVimentinの発現

歯科学報, 113(4), 433, 2013.

第296回東京歯科大学学会（総会） 千葉市

東京歯科大学解剖学

25001008 学会発表・口演

芹川雅光)、梅澤貴志1)、山根茂樹1)、井出吉信1)、阿部伸一1)、比嘉 一成2)、島崎潤2)

骨格筋細胞シートの解析

歯科学報, 113(4), 432, 2013.

第296回東京歯科大学学会（総会） 千葉市

1) 東京歯科大学解剖学、2) 東京歯科大学市川総合病院角膜センター

25001009 学会発表・口演

山内真人、木下英明、松永智、井出吉信、阿部伸一

舌神経の解剖学的走行形態

歯科学報, 113(4), 434, 2013.

第296回東京歯科大学学会（総会） 千葉市

東京歯科大学解剖学

25001010 学会発表・口演

小高研人1)、笠原正彰1)、木下英明1)、松永智1)、吉成正雄2)、井出吉信1)、阿部伸一1)
デンタルインプラント周囲顎骨における生体アパタイト (BAp) 結晶配向性
歯科学報, 113(4), 429, 2013.

第296回東京歯科大学学会 (総会) 千葉市
東京歯科大学解剖学

25001011 学会発表・口演

大峰悠矢、福田真之、野口拓、木下英明、松永智、井出吉信、阿部伸一
ヒト上顎骨における大口蓋管の局所解剖学的な観察
歯科学報, 113(2), 197, 2013.

第296回東京歯科大学学会 (総会) 千葉市
東京歯科大学解剖学

25001013 学会発表・口演

福田真之、野口拓、大峰悠矢、木下英明、松永智、井出吉信、阿部伸一
三次元立体構築画像を用いた切歯管の構造に関する解剖学的研究
J Oral Biosci, (Suppl), 110, 2013.

第55回歯科基礎医学会学術大会・総会 岡山市
東京歯科大学解剖学

25001016 学会発表・口演

笠原正彰、松永智、木下英明、阿部伸一
ヒト上顎骨臼歯部皮質骨及び海綿骨における生体アパタイト結晶配向性解析
第119回日本解剖学会総会・全国学術集会講演プログラム・抄録集, 110, 2014.
第119回日本解剖学会総会・全国学術集会 下野市

東京歯科大学解剖学

25001034 学会発表・口演

松永智、阿部伸一
医療系ファウブラボの可能性
第1回日本顎顔面再建先進デジタルテクノロジー学会総会・学術大会プログラム・抄録集, 33, 2013.
第1回日本顎顔面再建先進デジタルテクノロジー学会総会・学術大会 東京都千代田区

東京歯科大学解剖学

25001035 学会発表・口演

木下英明1)、松永智1)、高野直樹2)、井出吉信1)、阿部伸一1)
顎骨海綿骨をドリリングする際の力覚体感型インプラント手術シミュレーターの開発
日本骨形態計測学会雑誌, 23(1), S94, 2013.

第33回日本骨形態計測学会 浜松市
1) 東京歯科大学解剖学、2) 慶應義塾大学理工学部機械工学科
医中誌 ID : 2014059244

25001036 学会発表・口演

木下英明1)、高野直樹2)、矢島安朝3)、井出吉信1)、阿部伸一1)
力覚体感型インプラント手術シミュレーターを用いた口腔インプラント学教育に向けて
第32回日本歯科医学教育学会総会および学術大会プログラム・抄録集, 84, 2013.

第32回日本歯科医学教育学会総会および学術大会 札幌市
1) 東京歯科大学解剖学、2) 慶應義塾大学理工学部機械工学科、3) 東京歯科大学口腔インプラント学
医中誌 ID : 2014045871

25001037 学会発表・口演

木下英明1)、高野直樹2)、矢島安朝3)、井出吉信1)、阿部伸一1)

教育用ツールとしての口腔インプラント手術シミュレーターの開発

日本口腔インプラント学会誌, 26(特別号), 310, 2013.

第43回日本口腔インプラント学会・学術大会 福岡市

1) 東京歯科大学解剖学、2) 慶應義塾大学理工学部機械工学科、3) 東京歯科大学口腔インプラント学

医中誌 ID : 2014030754

25011028 学会発表・口演

田代宗嗣1)、酒寄孝治1)、原睦喜2)3)、大平真理子4)、大久保真衣3)、杉山哲也3)、石田瞭3)、平田創一郎1)、眞木吉信1)、石井拓男1)

摂食・嚥下リハビリテーション臨床における簡易舌圧測定器を用いた舌機能評価の有用性

日本老年歯科医学会第24回学術大会プログラム・抄録集, 116, 2013.

日本老年歯科医学会第24回学術大会 大阪市

1) 東京歯科大学社会歯科学、2) 東京歯科大学解剖学、3) 東京歯科大学千葉病院摂食・嚥下リハビリテーション・地域歯科診療支援科、4) 東京歯科大学クラウンブリッジ補綴学

医中誌 ID : 2013332891

25115006 学会発表・口演

原睦喜1)2)、大久保真衣1)、杉山哲也1)、田代宗嗣1)、石田瞭1)

ストロー飲みにおける舌尖固定位置の変化が舌圧に及ぼす影響

障害者歯科, 34(3), 207, 2013.

第30回日本障害者歯科学会総会および学術大会 神戸市

1) 東京歯科大学千葉病院摂食・嚥下リハビリテーション・地域歯科診療支援科、2) 東京歯科大学解剖学

医中誌 ID : 2014115359

学会発表・示説 7

25001004 学会発表・示説

梅澤真志、山根茂樹、井出吉信、阿部 伸一

骨格筋芽細胞シートへの間葉系細胞の影響

J Oral Biosci, (Suppl), 143, 2013.

第55回歯科基礎医学会学術大会・総会 岡山市

東京歯科大学解剖学

医中誌 ID : 2014098025

25001014 学会発表・示説

大峰悠矢、福田真之、野口拓、木下英明、松永智、井出吉信、阿部伸一

ヒト上顎骨における大口蓋管の観察

J Oral Biosci, (Suppl), 147, 2013.

第55回歯科基礎医学会学術大会・総会 岡山市

東京歯科大学解剖学

医中誌 ID : 2014098041

25001015 学会発表・示説

笠原正彰、松永智、井出吉信、阿部伸一

ヒト上顎骨臼歯部皮質骨における生体アパタイト結晶配向性解析

J Oral Biosci, (Suppl), 148, 2013.

第55回歯科基礎医学会学術大会・総会 岡山市

東京歯科大学解剖学

25001017 学会発表・示説

大峰悠矢、福田真之、野口拓、木下英明、松永智、井出吉信、阿部伸一

大口蓋管の形態および周囲構造の局所解剖学的観察

第119回日本解剖学会総会・全国学術集会講演プログラム・抄録集, 153, 2014.

第119回日本解剖学会総会・全国学術集会 下野市

東京歯科大学解剖学

25011031 学会発表・示説

平木圭佑1)、杉山哲也2)、大久保真衣2)、山本昌直2)、原睦喜3)、大平真理子4)、酒寄孝治1)、眞木吉信1)、石田瞭2)、平田創一郎1)

摂食・嚥下リハビリテーション地域歯科診療支援科開設5年間の臨床統計

歯科学報, 113(4), 439, 2013.

第296回東京歯科大学学会（総会） 東京都千代田区

1) 東京歯科大学社会歯科学、2) 東京歯科大学千葉病院摂食・嚥下リハビリテーション・地域歯科診療支援科、3) 東京歯科大学解剖学、4) 東京歯科大学クラウンブリッジ補綴学

医中誌 ID : 2014135683

25115008 学会発表・示説

山本昌直1)、大久保真衣1)、杉山哲也、本多康聡1)、大平真理子2)、原睦喜3)、田代宗嗣4)、石田瞭1)

在宅療養中の多系統委縮症（MSA）患者における嚥下内視鏡検査所見

第19回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会抄録集, 562, 2013.

第19回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会 倉敷市

1) 東京歯科大学千葉病院摂食・嚥下リハビリテーション・地域歯科診療支援科、2) 東京歯科大学クラウンブリッジ補綴学、3) 東京歯科大学解剖学、4) 東京歯科大学社会歯科学

25505015 学会発表・示説

比嘉一成1)2)4)、山根茂樹3)4)、梅澤貴志3)4)、吉成正雄4)、島崎潤1)2)、阿部伸一3)4)

ウサギ口腔粘膜から上皮、間葉、筋の3層ハイブリッドの作製と解析

再生医療, 13(Suppl), 286, 2014.

第13回日本再生医療学会総会 京都市

1) 東京歯科大学市川総合病院角膜センター、2) 東京歯科大学市川総合病院眼科、3) 東京歯科大学解剖学、4) 東京歯科大学口腔科学研究センター

口腔超微構造学講座

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

教 授	山本 仁	歯と歯周組織を含む顎顔面口腔領域の発生に関する研究 プロタミン分解ペプチドの効果に関する基礎的研究
准 教 授	澤田 隆	萌出と機能に伴う歯と歯周組織の超微構造的変化 接合上皮内側基板制御因子の探索と特定
	見明 康雄	単結晶ナノチューブアパタイトの可能性 歯の耐酸性強化におよぼす唾液と添加物の効果
講 師	森口美津子	歯牙形成における誘導因子とシグナル伝達について
助 教	山崎 貴希	インプラント表面性状の違いによる周囲組織との結合能の違いとそれに対する薬剤の影響
専 攻 生	小鹿 真由	歯牙形成における誘導因子とシグナル伝達について

2. 成果の概要

1) 歯と歯周組織を含む顎顔面口腔領域の発生に関する研究

口蓋皺は硬口蓋に固有の構造であるが、ひだの数、配列、走行方向は、動物種間で異なる。今回、ワニ目爬虫類の口蓋の構造を形態学的に検討した。生後 60 日の Alligator mississippiensis の口蓋表層構造を実体顕微鏡と走査電子顕微鏡を用いて調べた。組織構造は H-E 染色、Azan 染色、尿素硝酸銀染色を施し光学顕微鏡にて観察した。その結果、ワニには横口蓋ひだは観察されなかったが、代わりに幅約 450-800 μ m、高さ約 500 μ m の乳頭様の小突起が多数観察された。これらの突起は角化重層扁平上皮と結合組織からなり、神経線維束が上皮の方へ向って走行していた。以上、硬口蓋にみられた小突起構造はその神経分布から横口蓋ひだと同じように感覚器官としての機能を備えている可能性が示唆された。

J Hard Tissue Biol 22(4):455-460, 2013.

2) 歯および骨形成に及ぼす薬剤の影響に関する形態学的研究

Bisphosphonate-Related Osteonecrosis of the Jaw (BRONJ) の発生機序については不明な点が多い。今回、9 週齢の卵巣摘出ラットに対して bisphosphonate (BIS) の一種である alendronate を投与し、抜歯後の治癒過程、特に新生骨形成にどのような影響を及ぼすかを H-E 染色切片、TRAP 染色切片、 μ -CT、および CMR を用いて検討した。その結果、抜歯後の新生骨形成量は BIS 投与群のほうが対照群よりも少なく、構造も鬆粗であった。以上より、BIS 投与は抜歯創の治癒過程において、比較的早期の段階で新生骨の形成を抑制し、さらに破骨細胞の異常に伴う密度の低い骨梁構造をもたらすことが明らかとなった。このような変化が BRONJ における炎症波及に影響を及ぼすと考えられた。

J Hard Tissue Biol 22(4):493-500, 2013.

3) 接合上皮内側基板制御因子の探索と特定

マウス歯肉上皮を用い基底膜成分である laminin5、laminin10、type IV collagen および amelotin の mRNA の発現を in situ hybridization 法により、併せてそれぞれの蛋白質の局在を免疫組織化学的に検索した。その結果、接合上皮細胞は laminin5 mRNA のみを発現し、その程度は歯冠側に向かい増強した。laminin 5 の免疫染色では内側基板に強い染色像がみられ、やはり歯冠側に向かって染色強度は増加した。amelotin は内側基板に局在していたが、接合上皮に amelotin mRNA の発現は認められなかった。以上、内側基板の

laminin 5 は接合上皮が産生するが、amelotin は成熟期エナメル芽細胞が産生したものであると考えられた。

J Mol Hist 45(3):293-302, 2014.

4) 歯牙形成における誘導因子とシグナル伝達について

ラット臼歯歯胚を用い SP1 と LEF1 の局在を免疫組織化学的に検索した。その結果、LEF1 は前象牙芽細胞に発現したが象牙芽細胞には発現は認められなかった。一方、SP1 は象牙芽細胞に発現していた。以上の染色結果から、LEF1 は象牙芽細胞の分化に、SP1 は象牙芽細胞の機能に関与していることが示唆された。

J Hard Tissue Biol 22(4):481-488, 2013.

3. 学外共同研究

担当者	研究課題	学外研究施設		
		研究施設	所在地	責任者
山本 仁	プロタミン分解ペプチドの治癒効果	日本大学松戸歯学部	松戸市	久保山 昇
澤田 隆	接合上皮内側基板制御因子の探索と特定	奥羽大学薬学部	郡山市	大島 光宏
澤田 隆	接合上皮内側基板制御因子の探索と特定	日本大学歯学部	東京都	山口 洋子
見明 康雄	キシリトールに関する一連の研究	ロッテ株式会社中央研究所	さいたま市	佐伯 洋二
見明 康雄	年齢による歯石構造の違いに関する研究	高知学園短期大学保健学部歯科衛生士学科	高知市	三島 弘幸
見明 康雄	天然アパタイトの生体応用の可能性	高知学園短期大学保健学部歯科衛生士学科	高知市	三島 弘幸
見明 康雄	天然アパタイトの生体応用の可能性	鶴見大学歯学部口腔解剖学	横浜市	下田 信治

4 科学研究費補助金・各種補助金

研究代表者	研究課題	研究費
見明 康雄	単結晶ナノチューブアパタイトの可能性	文部科学省科学研究費補助金・基盤研究(C)
見明 康雄	天然アパタイトの生体応用の可能性	大学連携等による共同研究
澤田 隆	接合上皮内側基板制御因子の探索と特定	文部科学省科学研究費補助金・基盤研究(C)

5. 研究活動の特記すべき事項

学術学会に相当しない団体が開催するセミナー・研究会・カンファレンス等における発表・講演

講演者	年月日	演題	会合の名称	開催地
山本 仁	2013. 7.14	歯と歯周組織の形態形成～再生療法に向けて～	歯科医師独協会第一回学術講演会	東京都文京区
山本 仁	2013. 9.25	臨床研究への基礎的分野からのアプローチ～再生治療・歯周病治療を例として～	東京歯科大学同窓会京橋支部学術講演	東京都中央区

山本 仁	2013.10.25	発生学的研究は役に立つ?基礎研究と臨床研究	東京歯科大学理工懇話会第580回例会	東京都千代田区
山本 仁	2014. 2. 9	臨床に役立つ?役に立たない?発生学的研究	東京歯科大学同窓会岡山県支部学術講演	岡山市

6. 教育に関する業績、活動

医学教育・歯学教育に関連する講演

講演者	年月日	演題	学会・研究会名	開催地
山本 仁	2013.11.18	平成25年度Elective Study 報告	東京歯科大学第127回教育セミナー	東京都千代田区
山本 仁	2014. 3.31	第3学年における学生サポート活動の実施状況報告	東京歯科大学第131回教育セミナー	東京都千代田区

教育ワークショップ・FD 研修

氏名	年月日	ワークショップ・研修会名	役割	開催地
山本 仁	2013. 9.27	平成25年度教育ワークショップ「学生支援・サポート体制のありかたについて」 1.概説 2.第3学年に対する取組みと課題	講演者	東京都千代田区
山本 仁	2013.12.5	医学・看護学・歯学チーム合同シンポジウム	シンポジスト	東京都千代田区
山本 仁	2014. 3.27	クリッカーの効果的な活用のための研修会	講師	東京都千代田区

他の大学・研究機関等における学生・大学院生を対象とする講義・実習

担当者名	年月日	テーマ・演題	大学・機関	所在地
山本 仁	2013. 6.14	歯髄	日本大学松戸歯学部	松戸市
山本 仁	2013.12. 4	歯の発生	奥羽大学歯学部	郡山市
澤田 隆	2013. 7.12	口唇裂・口蓋裂・口腔粘膜疾患	埼玉県立大学保健医療福祉学部健康開発学科	越谷市
澤田 隆	2013. 7.19	歯原性腫瘍・嚢胞	埼玉県立大学保健医療福祉学部健康開発学科	越谷市
見明 康雄	2013. 6.14	歯の発育異常	埼玉県立大学保健医療福祉学部健康開発学科	越谷市
見明 康雄	2013. 6.21	齲蝕	埼玉県立大学保健医療福祉学部健康開発学科	越谷市
見明 康雄	2013. 6.28	象牙質・歯髄複合体の病変	埼玉県立大学保健医療福祉学部健康開発学科	越谷市
見明 康雄	2013. 7. 5	歯周疾患	埼玉県立大学保健医療福祉学部健康開発学科	越谷市
見明 康雄	2013. 8. 2	まとめ講義	埼玉県立大学保健医療福祉学部健康開発学科	越谷市

原著/原著論文 9

25001029 原著/原著論文

Kuwana M1), Watanabe H2), Abe S3), Yanagisawa T1), Sasaki J4).

Expression of Mn-SOD, iNOS and eNOS mRNAs in osteoblasts from the maxilla of osteopetrotic mice.

Anat Histol Embryol, 42(2), 124-129, 2013.

1) 東京歯科大学口腔超微構造学、2) 奥羽大学歯学部生体構造学口腔組織学、3) 東京歯科大学解剖学、4) 岡山大学医歯薬学総合研究科細胞組織学

DOI : 10.1111/j.1439-0264.2012.01173.x PubMed ID : 22783967

25002001 原著/原著論文

Yamazaki T1), Yokoyama M2), Fujiseki M1), Moriguchi M1), Miake Y1), Sawada T1), Sohn WJ3), Kim JY3), Yamamoto H1).

Histological observation of the Palate in Alligator mississippiensis.

J Hard Tissue Biol, 22(4), 455-459, 2013.

1) 東京歯科大学口腔超微構造学、2) 日本大学松戸歯学部、3) Dept. of Biochemistry, Sch. of Dentistry, Kyungpook National Univ., Daegu, Korea.

医中誌 ID : NB07240010

25002002 原著/原著論文

Yamazaki T, Hiruma N, Miake Y, Moriguti M, Sawada T, Yamamoto H, Yanagisawa T.

The effect of bisphosphonate on bone formation after tooth extraction in ovariectomized rats.

J Hard Tissue Biol, 22(4), 493-499, 2013.

東京歯科大学口腔超微構造学

医中誌 ID : NB07240015

25002003 原著/原著論文

Moriguchi M1), Kosika M1) Miake Y1), Yamguchi Y2), Yamazaki T1), Yamamoto H1).

Immunolocalization of SP6, LEF1 and associated factors in the tooth germ of rat molars.

J Hard Tissue Biol, 22(4), 481-488, 2013.

1) 東京歯科大学口腔超微構造学、2) 新潟医療福祉大学医療技術学部理学療法学

医中誌 ID : NB07240013

25002004 原著/原著論文

三島弘幸1)、井上昌子2)、門田理佳3)、服部淳彦4)、鈴木信雄5)、笥光夫6)、松本敬7)、里村一人8)、見明康雄9)

象牙質の成長線の周期と体内時計の情報伝達分子のメラトニンの分泌リズムの関連

日本再生歯科医学会誌, 11(1), 27-39, 2013.

1) 高知学園短期大学医療衛生学科、2) 株式会社保健科学研究所、3) 高知学園短期大学専攻科応用生命科学専攻、4) 東京医科歯科大学教養部生物学、5) 金沢大学環日本海域環境研究センター、6) 明海大学歯学部口腔解剖学分野、7) 日本大学松戸歯学部付属病院病理診断科、8) 鶴見大学歯学部口腔内科学講座、9) 東京歯科大学口腔超微構造学

医中誌 ID : 2014250210

25002005 原著/原著論文

Sawada T1), Yamazaki T1), Shibayama K2), Kumazawa K3), Yamaguchi Y4), Ohshima M5).

Expression and localization of laminin 5, laminin 10, type IV collagen, and amelotin in adult murine gingiva.

J Mol Hist, 45, 293-302, 2014. 基盤研究 (C)

1) 東京歯科大学口腔超微構造学、2) 東京歯科大学微生物学、3) 東京歯科大学小児歯科学、4) 日本大学歯学部歯学科生化学、5) 奥羽大学薬学部生化学

DOI : 10.1007/s10735-013-9559-7

25002006 原著/原著論文

Sohn WJ1), Choi MA1), Yamamoto H2), Lee S3), Lee Y1), Jung JK4), Jin MU5), An CH6), Jung HS7), Suh JY8), Shin HI9), Kim JY1).

Contribution of mesenchymal proliferation in tooth root morphogenesis.

J Dent Res, 93(1), 78-83, 2014. 基盤研究 (C)

1) Dept. of Biochemistry, Sch. of Dentistry, IHBR, Kyungpook National Univ., 2) 東京歯科大学口腔超微構造学, 3) Sch. of Life Science and Biotechnology, Kyungpook National Univ., 4) Dept. of Oral Medicine, Sch. of Dentistry, Kyungpook National Univ., 5) Dept. of Conservative Dentistry, Sch. of Dentistry, Kyungpook National Univ., 6) Dept. of Oral and Maxillofacial Radiology, Sch. of Dentistry, IHBR, Kyungpook National Univ., 7) Division of Anatomy and Developmental Biology, Dept. of Oral Biology, Research Center for Orofacial Hard Tissue Regeneration, Brain Korea 21 Project, Oral Science Research Center, College of Dentistry, Yonsei Center of Biotechnology, Yonsei Univ., 8) Dept. of Periodontology, Sch. of Dentistry, IHBR, Kyungpook National Univ., 9) Dept. of Oral Pathology and Regenerative Medicine, Sch. of Dentistry, IHBR, Kyungpook National Univ.

DOI : 10.1177/0022034513511247 PubMed ID : 24155265

25104029 原著/原著論文

Ishioka M1), Ishizuka Y2), Shintani S1), Yanagisawa T3), Inoue T4), Sasaki J5), Watanabe H6).

Expression profiles of NOS isoforms in gingiva of nNOS knockout mice.

Tissue Cell, 46(2), 122-126, 2014. 学位論文 (甲)

1) 東京歯科大学小児歯科学, 2) 東京歯科大学歯科学, 3) 東京歯科大学口腔超微構造学, 4) 東京歯科大学臨床検査病理学, 5) 新見公立大学看護学部看護学科, 6) 奥羽大学歯学部生体構造学口腔組織学

DOI : 10.1016/j.tice.2013.12.003 PubMed ID : 24657074

25104043 原著/原著論文

Yonekura T1), Homma H1), Sakurai A1)2), Moriguchi M3), Miake Y3), Toyosawa S4), Shintani S1).

Identification, characterization, and expression of dentin matrix protein 1 gene in *Xenopus laevis*.

J Exp Zool B Mol Dev Evol, 320(8), 525-537, 2013. 学位論文 (甲) 萌芽研究

1) 東京歯科大学小児歯科学, 2) 東京歯科大学口腔科学研究センター・hrc8, 3) 東京歯科大学口腔超微構造学, 4) 大阪大学歯学部大学院歯学研究科口腔病理学

DOI : 10.1002/jez.b.22529 PubMed ID : 24106181

学会発表・口演 4

25002007 学会発表・口演

三島弘幸1)、門田理佳2)、井上昌子3)、服部淳彦4)、鈴木信雄5)、田畑純6)、寛光夫7)、松本敬8)、里村一人9)、見明康雄10)

象牙質の成長線形成と体内時計の情報伝達分子メラトニンの関連

化石研究会会誌, 46(1), 63-64, 2013.

第31回化石研究会総会・学術大会 甘楽郡下仁田町

1) 高知学園短期大学医療衛生学科歯科衛生専攻, 2) 高知学園短期大学専攻科応用生命科学, 3) 株式会社保健科学研究所, 4) 東京医科歯科大学教養部生物学, 5) 金沢大学環日本海域環境研究センター, 6) 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科生体硬組織再生講座硬組織構造生物, 7) 明海大学歯学部口腔解剖学, 8) 日本大学松戸歯学部付属病院病理診断科, 9) 鶴見大学歯学部口腔内科学, 10) 東京歯科大学口腔超微構造学

25002016 学会発表・口演

三島弘幸1)、寛光夫2)、門田理佳1)、見明康雄3)、笹川一郎4)

Eusthenopteron foodi (カナダ産デボン紀) の歯の組織構造と槽生性結合

平成25年度高知大学海洋コア総合研究センター共同利用・共同研究成果発表会プログラム, 1, 2014.

平成25年度高知大学海洋コア総合研究センター共同利用・共同研究成果発表会 高知市

1) 高知学園短期大学, 2) 明海大学, 3) 東京歯科大学口腔超微構造学, 4) 日本歯科大学

25109025 学会発表・口演

永田順也1)、野嶋邦彦1)、西井康1)、山崎貴希2)、見明康雄2)、末石研二1)

歯根吸収後の休止期間の有無が歯根に与える影響

第72回日本矯正歯科学会大会プログラム・抄録集, 314, 2013.

第72回日本矯正歯科学会大会 松本市

1) 東京歯科大学歯科矯正学, 2) 東京歯科大学口腔超微構造学

25404002 学会発表・口演

望月隆二1)8)、平田創一郎2)8)、山本仁3)8)、加藤哲男4)、橋本正次5)、河田英司6)8)、井出吉信7)

高学年で伸びるための初年次教育

第32回日本歯科医学教育学会総会および学術大会プログラム・抄録集, 77, 2013.

日本歯科医学教育学会 札幌市

1) 東京歯科大学物理学、2) 東京歯科大学社会歯科学、3) 東京歯科大学口腔超微構造学、4) 東京歯科大学化学、5) 東京歯科大学法人類学、6) 東京歯科大学歯理工学、7) 東京歯科大学、8) 東京歯科大学医学教育開発センター

医中誌 ID : 2014045858

学会発表・示説 14

25002008 学会発表・示説

山本仁1)、横山愛2)、藤関元也1)、山崎貴希1)、森口美津子1)、見明康雄1)、澤田隆1)、田村仁志3)、奥村重年4)、久保山昇5)

歯周病治療に対する新たな試みー1. 実験モデルの作成とプロタミン分解ペプチドの応用ー

第22回硬組織再生生物学会学術大会・総会プログラム・抄録集, 36, 2013.

第22回硬組織再生生物学会学術大会・総会 横浜市

1) 東京歯科大学口腔超微構造学、2) 日本大学松戸歯学部生理学講座、3) 田村歯科医院、4) ロート製薬株式会社、5) 日本大学松戸歯学部

25002009 学会発表・示説

小鹿真由1)、森口美津子1)、見明康雄1)、山口康昭2)、山本仁1)

ラット臼歯歯胚におけるSP6とLEF1に関する因子の免疫局在

第22回硬組織再生生物学会学術大会・総会プログラム・抄録集, 40, 2013.

第22回硬組織再生生物学会学術大会・総会 横浜市

1) 東京歯科大学口腔超微構造学、2) 新潟医療福祉大学医療技術学部理学療法学科

25002010 学会発表・示説

Sawada T.

Ultrastructural localization of laminin 5 at dentogingival border.

MC2013 Proceedings Life Sciences (LS) Multimodal and Interdiscrepancy Microscopies (MIM), 88-89, 2013. 基盤研究 (C)

The Microscopy Conference 2013 Regensburg, Germany

東京歯科大学口腔超微構造学

25002011 学会発表・示説

Mishima H1), Kakei M2), Sasagawa I3), Matui K4), Miake Y5).

Tooth and dermal exoskeleton of Eusthenopteron from devonian.

12th International Symposium on Biomineralization (Biomin 12) Abstracts, 23, 2013.

12th International Symposium on Biomineralization (Biomin 12) Saxony, Germany

1) 高知学園短期大学医療衛生学科、2) 明海大学歯学部口腔解剖学、3) 日本歯科大学新潟生命歯学部先端研究センター、4) 高知学園短期大学医療衛生学科、5) 東京歯科大学口腔超微構造学

25002012 学会発表・示説

山崎貴希、蛭間信彦、見明康雄、森口美津子、澤田隆、山本仁、柳澤孝彰

卵巣摘出ラットの抜歯窩新生骨形成におよぼすビスホスホネートの影響

J Oral Biosci, 2013(Suppl), 164, 2013.

第55回歯科基礎医学会学術大会・総会 岡山市

東京歯科大学口腔超微構造学

医中誌 ID : 2014098106

25002013 学会発表・示説

森口美津子1)、見明康雄1)、山口康昭2)、藤関元也1)、山本仁1)

ラット歯胚の象牙芽細胞におけるLEF1のユビキチン化

J Oral Biosci, 2013(Suppl), 193, 2013.

第55回歯科基礎医学会学術大会・総会 岡山市

1) 東京歯科大学口腔超微構造学、2) 新潟医療福祉大学医療技術理学療法

医中誌 ID : 2014098223

25002014 学会発表・示説

見明康雄1)、三島弘幸2)、下田信治3)

天然アパタイトの生体応用の可能性

J Oral Biosci, 2013(Suppl), 230, 2013.

第55回歯科基礎医学会学術大会・総会 岡山市

1) 東京歯科大学口腔超微構造学、2) 高知学園短期大学医療衛生学科歯科衛生、3) 鶴見大学歯学部口腔解剖学

医中誌 ID : 2014098371

25002015 学会発表・示説

澤田隆

ニホンザル歯-歯肉接合上皮におけるラミニン5の超微局在

第54回日本組織細胞化学会総会・学術集会講演プログラム・予稿集, 94, 2013. 基盤研究 (C)

第54回日本組織細胞化学会総会・学術集会 東京都港区

東京歯科大学口腔超微構造学

医中誌 ID : 2014022081

25002017 学会発表・示説

森口美津子1)、見明康雄1)、山口康昭2)、藤関元也1)、山本仁1)

ラット歯胚の象牙芽細胞におけるLEF1のユビキチン化とWnt/Ca2+経路

第119回日本解剖学会総会・全国学術集会講演プログラム・抄録集, 56, 2014.

第119回日本解剖学会総会・全国学術集会 下野市

1) 東京歯科大学口腔超微構造学、2) 新潟医療福祉大学医療技術解剖学

25002018 学会発表・示説

三島弘幸1)、門田理佳2)、井上昌子3)、服部淳彦4)、鈴木信雄5)、笈光男6)、松本敬7)、里村一人8)、見明康雄9)

象牙質の成長線形成とサーカディアンリズム同調因子メラトニンの関係

第8回バイオミネラルイゼーションワークショップ講演要旨集, 22, 2014.

第8回バイオミネラルイゼーションワークショップ 東京都文京区

1) 高知学園短期大学、2) 高知学園短期大学専攻科、3) 株式会社保健科学研究所、4) 東京医科歯科大学生物学、5) 金沢大学環日本海域環境研究センター、6) 明海大学歯学部口腔解剖学、7) 日本大学松戸歯学部付属病院、8) 鶴見大学歯学部口腔内科学、9) 東京歯科大学口腔超微構造学

25011008 学会発表・示説

平田創一郎1)2)3)、小川哲次2)、尾崎哲則2)、樫則章2)、木尾哲朗2)、山本龍生2)、

平田幸夫1)、山本仁3)4)、高橋俊之3)5)、杉原直樹3)6)、上田貴之7)、河田英司3)8)

歯科学生のための倫理・プロフェッショナリズム教育用ツールに関する考察

第32回日本歯科医学教育学会総会および学術大会プログラム・抄録集, 104, 2013.

第32回日本歯科医学教育学会総会および学術大会 札幌市

1) 東京歯科大学社会歯科学、2) 日本歯科医学教育学会、3) 東京歯科大学歯科医学教育開発センター、4) 東京歯科大学口腔超微構造学、5) 東京歯科大学千葉病院総合診療科、6) 東京歯科大学歯科衛生学、7) 東京歯科大学有床義歯補綴学、8) 東京歯科大学歯科理工学

医中誌 ID : 2014045907

25104007 学会発表・示説

Kumazawa K1), Sawada T2), Yanagisawa T2), Shintani S1).

Effect of single-dose amoxicillin on rat incisor odontogenesis.

Int J Paediatr Dent, 23(s1), 158, 2013.

The 24th Congress of the International Association of Paediatric Dentistry Seoul, Korea

1) 東京歯科大学小児歯科学、2) 東京歯科大学口腔超微構造学

DOI : 10.1111/ipd.12036 PubMed ID : 23734833

25104041 学会発表・示説

米倉智子1)、本間宏実1)、桜井敦朗1)、森口美津子2)、見明康雄2)、豊澤悟3)、新谷誠康1)

両生類*Xenopus laevis* (アフリカツメガエル) におけるDMP1遺伝子の同定および発現解析

J Oral Biosci, (Suppl), 186, 2013. 萌芽研究

第55回歯科基礎医学会学術大会・総会 岡山市

1) 東京歯科大学小児歯科学、2) 東京歯科大学口腔超微構造学、3) 大阪大学歯学部大学院歯学研究科口腔病理学

医中誌 ID : 2014098194

25104042 学会発表・示説

米倉智子1)、本間宏実1)、桜井敦朗1)、森口美津子2)、見明康雄2)、豊澤悟3)、新谷誠康1)

両生類*Xenopus laevis* (アフリカツメガエル) におけるDMP1遺伝子の同定および発現解析

小児歯科学雑誌, 51(2), 309, 2013. 萌芽研究

第51回日本小児歯科学会大会 岐阜市

1) 東京歯科大学小児歯科学、2) 東京歯科大学口腔超微構造学、3) 大阪大学歯学部大学院歯学研究科口腔病理学

医中誌 ID : 2014043357

生理学講座

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

教 授	田崎 雅和	口腔粘膜受容器の形態および機能に関する研究 (A79-0090-1)
講 師	遠藤 隆行	脳幹孤束核細胞の生理機能について (A04-0090-1)
	澁川 義幸	象牙質形成細胞の生理学的研究 (A95-0090-2)
		顎運動関連ミラーニューロンシステムの検討 (A02-0090-1)
助 手	佐藤 正樹	細胞外刺激に対する象牙芽細胞の感覚受容

2. 成果の概要

1) 培養象牙芽細胞を用いた細胞膜伸展刺激受容と反応象牙質形成との機能関連

象牙芽細胞に発現する TRP チャネルが細胞膜伸展刺激を受容し、細胞内にカルシウムイオンを流入させた。そのカルシウムイオンが Na^+ - Ca^{2+} 交換体によって濃度依存的に細胞外へ排出されることで反応性象牙質形成が駆動することを報告した。

J Endod 39:779-787, 2013.

2) 唾液腺に発現する温度感受性TRPチャネルの局在と機能検索

温度感受性 TRP チャネルは唾液腺の腺房細胞、導管細胞、筋上皮細胞に発現することが免疫組織化学、RT-PCR によって示された。またラット顎下腺を低温感受性 TRP チャネル阻害剤で灌流すると、カルバコールによる唾液分泌が阻害されることを報告した。

Cell Tissue Res 354(2):507-519, 2013.

3) 象牙芽細胞に発現する冷刺激受容体TRPM8とTRPA1の機能検索

低温感受性のある TRPM8 と TRPA1 は象牙芽細胞に機能的に発現することが、低温細胞外液灌流実験によって示された。また TRPA1 は機械刺激感受性があることが示された。

PLoS One 8(12):e82233, 2013.

4) 骨芽細胞におけるアンギオテンシンIIはカルシウム電流を調整する

細胞外液量や血圧の維持に関与するアンギオテンシンが、骨芽細胞に発現するカルシウムイオンチャネルに作用して、脱分極性応答による細胞内カルシウムイオン流入を増強することが whole cell patch clamp 法により示された。

Bull Tokyo Dent Coll 54(4):275-278, 2013.

5) 象牙芽細胞におけるTRPM8チャネルの発現検索

象牙芽細胞は知覚過敏に関与することが示唆されていることから、冷覚受容タンパク質の検索を行った。TRPM8 の選択的アゴニストであるメントール、イシリンに対して顕著な細胞内カルシウムイオンの増加が認められた。

医学と生物学 157(6-2): 985-990, 2013.

6) 象牙芽細胞における歯内治療薬グアヤコールの作用

グアヤコールはユージオールと同じフェノール類に分類される鎮静・鎮痛薬である。グアヤコールは象牙芽細胞に

一過性のカルシウムイオン増加を誘導した。またグアヤコールは TRPV2, TRPV4 以外のカルシウムイオンチャネルに作用することが示された。

歯科学報 116(6):593-598, 2013.

7) 三叉神経節細胞におけるP2X受容体の機能検索

三叉神経節細胞に発生する神経障害性疼痛の原因を検討した。三叉神経節細胞には ATP 感受性の P2X₂₋₃ の発現が、RT-PCR とカルシウムイメージングにより機能発現が示されたことを報告した。また P2X と Na⁺-Ca²⁺ 交換体の共発現も示された。

Neuroreport 23(13):752-6,2012.

Mol Pain 9:22, 2013.

3. 学外共同研究

担当者	研究課題	学外研究施設		
		研究施設	所在地	責任者
澁川 義幸 佐藤 正樹	唾液分泌の微細構造－機能連関	自然科学研究機構生理学研究所	岡崎市	村上 政隆
澁川 義幸	象牙芽細胞のTRPM8チャンネルに関する研究	鹿児島大学歯学部	鹿児島市	徳田 雅行
澁川 義幸	唾液腺細胞のAQP発現	岩手医科大学歯学部	盛岡市	佐原 資謹
澁川 義幸	唾液腺水分分泌機構	日本大学生産資源学部	藤沢市	杉谷 博士

4. 科学研究費補助金・各種補助金

研究代表者	研究課題	研究費
澁川 義幸	象牙芽細胞における新規ATP輸送タンパク質を介する神経－石灰化情報伝達	文部科学省科学研究費補助金・基盤研究(C)
佐藤 正樹	象牙芽細胞における歯内治療薬の作用と応用：侵害刺激受容と修復象牙質形成の機能連関	文部科学省科学研究費補助金・若手研究(B)
佐藤 正樹	象牙芽細胞間情報伝達機構の解明	東京歯科大学・学長奨励研究助成

5. 研究活動の特記すべき事項

学術学会に相当しない団体が開催するセミナー・研究会・カンファレンス等における発表・講演

講演者	年月日	演題	会合の名称	開催地
澁川 義幸	2013. 8. 1	東京都児童・生徒の大規模味覚調査から見えること	第64回関東甲信越静学校保健大会歯科職域部会	東京都新宿区

6. 教育に関する業績、活動

共用試験

氏名	年月日	種別	役割	開催地
----	-----	----	----	-----

澁川 義幸	2014. 2.19	平成25年度東京歯科大学 第4学年CBT	監督者	東京都千代田区
澁川 義幸	2014. 3.12	平成25年度東京歯科大学 第4学年CBT	監督者	東京都千代田区

他の大学・研究機関等における学生・大学院生を対象とする講義・実習

担当者名	年月日	テーマ・演題	大学・機関	所在地
澁川 義幸	2013.10.10	体性感覚機能の役割	日本大学松戸歯学部	松戸市
澁川 義幸	2013.10.24	口腔感覚	日本大学松戸歯学部	松戸市

7. 社会的貢献・社会に対する活動

医学の啓蒙を目的とする講演会（市民を対象とするもの）

講演者	年月日	演題	講演会名	開催地
澁川 義幸	2013. 8. 1	東京都児童・生徒の大規模味覚感受性調査から見えること	第64回関東甲信越静学校保健大会歯科職域部会	東京都新宿区

その他メディア等への掲載・出演

氏名	年月日	タイトル	掲載誌・放送局番組名・URL
澁川 義幸	2013.10.12	ジョブチューン〜アノ職業のヒミツぶっちゃけます！	TBS

原著/原著論文 10

25003002 原著/原著論文

Sato M1), Sobhan U1), Tsumura M1)2), Kuroda H1)3), Soya M1)3), Masamura A1)3), Nishiyama A4), Katakura A4), Ichinohe T3), Tazaki T2), Shibukawa Y1)2).

Hypotonic-induced stretching of plasma membrane activates transient receptor potential vanilloid channels and sodium-calcium exchangers in mouse odontoblasts.

J Endod, 39(6), 779-787, 2013.

1) 東京歯科大学口腔科学研究センター、2) 東京歯科大学生理学、3) 東京歯科大学歯科麻酔学、4) 東京歯科大学オーラルメディスン・口腔外科学

DOI : 10.1016/j.joen.2013.01.012 PubMed ID : 23683279

25003013 原著/原著論文

Tsumura M1), Sobhan U1)2), Sato M1), Shimada M3), Nishiyama A4), Kawaguchi A5), Soya5), Kuroda H6), Tazaki M1), Shibukawa Y1).

Functional expression of TRPM8 and TRPA1 channels in rat odontoblasts.

PLoS One, 16(8), e82233, 2013.

1) 東京歯科大学生理学、2) 国立成育医療研究センター、3) 東京歯科大学口腔健康臨床科学・小児歯科、4) 東京歯科大学オーラルメディスン・口腔外科学、5) 東京歯科大学歯科麻酔学、6) 東京大学医学部麻酔学

DOI : 10.1371/journal.pone.0082233 PubMed ID : 24358160

25003014 原著/原著論文

Tazaki M1), Endoh T1), Kobayashi H2), Ohkubo M3), Sueishi K2).

Angiotensin II induces modulation of calcium channel currents in osteoblasts.

Bull Tokyo Dent Coll, 54(4), 275-278, 2013.

1) 東京歯科大学生理学、2) 東京歯科大学歯科矯正学、3) 東京歯科大学千葉病院・摂食嚥下リハビリテーション・地域歯科診療支援科

PubMed ID : 24521554

25101016 原著/原著論文

Muramatsu T1)2)3), Hashimoto S2)4), Shibukawa Y3)5), Yuasa K1), Furusawa M1), Shimono M2).

Immunoelectron microscopic observation of connexin43 in rat odontoblasts.

Microsc Res Tech, 76(10), 988-991, 2013.

1) 東京歯科大学歯科保存学、2) 東京歯科大学病理学、3) 東京歯科大学口腔科学研究センター・hrc8、4) 東京歯科大学生物学、5) 東京歯科大学生理学

DOI : 10.1002/jemt.22271 PubMed ID : 23922183

25106059 原著/原著論文

Soya M1), Sato M2), Sobhan U2), Tsumura M2), Ichinohe T1), Tazaki M2), Shibukawa Y2).

Plasma membrane stretch activates transient receptor potential vanilloid and ankyrin channels in Merkel cells from hamster buccal mucosa.

Cell Calcium, 55(4), 208-218, 2014. 学位論文 (乙)

1) 東京歯科大学歯科麻酔学、2) 東京歯科大学生理学

DOI : 10.1016/j.ceca.2014.02.015. PubMed ID : 24642224

25308007 原著/原著論文

鵜田みゆき1)、津村麻記2)、佐藤正樹2)、Sobhan U2)、大多和由美1)、山下秀一郎3)、田崎雅和2)、澁川義幸2)

グアヤコールは象牙芽細胞の細胞内Ca²⁺流入を活性化する

歯科学報, 113(6), 593-598, 2013.

1) 東京歯科大学口腔健康臨床科学・総合歯科、2) 東京歯科大学生理学、3) 東京歯科大学口腔健康臨床科学・歯科補綴

医中誌 ID : 2014141581

25501003 原著/原著論文

高橋史子1)、津村麻記2)3)、Sobhan Ubaidus2)、佐藤正樹2)、田崎雅和3)、澁川義幸2)3)

象牙芽細胞におけるtransient receptor potential melastatin subfamily member 8チャネルの発現の検索

医学と生物学, 157(6), 985-990, 2013.

1) 東京歯科大学、2) 東京歯科大学口腔科学研究センターhrc8、3) 東京歯科大学生理学

医中誌 ID : 2013303374

25501005 原著/原著論文

Muramatsu T1)2)3), Yuasa K2), Ebihara K2), Shibukawa Y1)4), Ohta K5), Furusawa M2), Shimono M3).
Glucose-free conditions induce the expression of AMPK in dental pulp cells.
Arch Oral Biol, 58(11), 1603-1608, 2013.

1) 東京歯科大学口腔科学研究センター・hrc8、2) 東京歯科大学歯科保存学、3) 東京歯科大学病理学、4) 東京歯科大学生理学、5) 東京医科大学生物医学
DOI : 10.1016/j.archoralbio.2013.08.009 PubMed ID : 24112725

25501006 原著/原著論文

Sobhan U1), Sato M1), Shinomiya T1)2), Okubo M1)2), Tsumura M1)3), Muramatsu T1)4), Kawaguchi M2), Tazaki M3), Shibukawa Y1)3).
Immunolocalization and distribution of functional temperature-sensitive TRP channels in salivary glands.
Cell Tissue Res, 354(2), 507-519, 2013.

1) 東京歯科大学口腔科学研究センター・hrc8、2) 東京歯科大学歯科薬理学、3) 東京歯科大学生理学、4) 東京歯科大学歯科保存学
DOI : 10.1007/s00441-013-1691-x PubMed ID : 23942896

25501009 原著/原著論文

Kuroda H1)2)3), Sobhan U1), Sato M1), Tsumura M1)3), Ichinohe T2), Tazaki M3), Shibukawa Y1)3).
Sodium-calcium exchangers in rat trigeminal ganglion neurons.
Mol Pain, 9(1), 22, 2013. 学位論文 (甲)

1) 東京歯科大学口腔科学研究センター・hrc8、2) 東京歯科大学歯科麻酔学、3) 東京歯科大学生理学
DOI : 10.1186/1744-8069-9-22 PubMed ID : 23628073

原著/臨床研究論文 1

25003017 原著/臨床研究論文

Kodama S1)2), Otonari-Yamamoto M2), Sano T3), Sakamoto J4), Imoto K2), Wakoh M2).
Signal intensity on fluid-attenuated inversion recovery images of condylar marrow changes correspond with slight pain in patients with temporomandibular joint disorders.
Oral Radiol, 2014. 学位論文 (甲)

1) 東京歯科大学生理学、2) 東京歯科大学歯科放射線学、3) 昭和大学歯学部口腔病態診断科学講座歯科放射線医学、4) 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科歯学系専攻口腔機能再構築学講座口腔放射線医学
DOI : 10.1007/s11282-014-0165-5

学会発表・口演 7

25003011 学会発表・口演

佐藤正樹1)、津村麻記1)、Sobhan Ubaidus1)、児玉紗耶香1)、鵜田みゆき2)、西山明宏3)、望月浩幸1)、小倉一宏1)、田崎雅和1)、澁川義幸1)
マウス由来象牙芽細胞における細胞膜伸展受容TRPチャネルとNa⁺-Ca²⁺ exchangerの機能関連
J Oral Biosci, (Suppl), 117, 2013.

第55回歯科基礎医学会学術大会・総会 岡山市

1) 東京歯科大学生理学、2) 東京歯科大学口腔健康臨床科学・小児歯科、3) 東京歯科大学オーラルメディスン・口腔外科学
医中誌 ID : 2014097920

25003015 学会発表・口演

澁川義幸

口腔アンチエイジング部門

平成25年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショッププログラムおよび抄録集, 73, 2014.

平成25年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップ 東京都千代田区

東京歯科大学生理学

25003016 学会発表・口演

佐藤正樹1)、津村麻記1)、征矢学2)、川口綾2)、西山明宏3)、小倉一宏1)、望月浩幸1)、児玉紗耶香1)、澁川義幸1)、田崎雅和1)
TRP チャネル活性化後のATP によって仲介される象牙芽細胞－象牙芽細胞情報伝達
第91回日本生理学会大会プログラム集, 2014.

第91回日本生理学会大会 鹿児島市

1) 東京歯科大学生理学、2) 東京歯科大学歯科麻酔学、3) 東京歯科大学オーラルメディシン・口腔外科学

25106039 学会発表・口演

川口綾1)、征矢学1)、黒田英孝1)、佐藤正樹2)、田.雅和2)、一戸達也1)、澁川義幸2)

ラット三叉神経節細胞P2Y12受容体は細胞内cAMP産生を抑制することで細胞内Ca²⁺を動員する
歯科学報, 113(4), 426, 2013.

第296回東京歯科大学学会（総会） 東京都千代田区

1) 東京歯科大学歯科麻酔学、2) 東京歯科大学生理学

医中誌 ID : 2014135656

25406005 学会発表・口演

村上政隆1)、魏飛2)、成田貴則3)、福島美和子4)、橋本貞充5)、澁川義幸6)、佐藤正樹6)

ラット顎下腺細胞間分泌細管の微細形態 急速凍結固定割断試料の電顕観察と高速共焦点レーザー顕微鏡観察
日本唾液腺学会誌, 54, 20, 2013.

第58回日本唾液腺学会学術集会 東京都文京区

1) 自然科学研機構生理学研究所、2) 総合研究大学院大学生理学、3) 日本大学生物資源科学、4) 日本大学歯学部生理学、5) 東京歯科大学生物学、6) 東京歯科大学生理学

医中誌 ID : 2014108183

25501002 学会発表・口演

Shibukawa Y1)2), Sato M1), Tsumura M1)2), Kuroda H1)3), Sobhan U1), Tazaki M2).

Odontoblast as sensory receptor cell: TRP channels, pannexin 1 and P2X3 receptor coupling mediate sensory transduction in dentin.

11th International Conference on Tooth Morphogenesis and Differentiation Plenary poster sessions abstract program, 2013.

11th International Conference on Tooth Morphogenesis and Differentiation La Londe Les Maures, France

1) 東京歯科大学口腔科学研究センター・hrc8、2) 東京歯科大学生理学、3) 東京歯科大学歯科麻酔学

25501004 学会発表・口演

澁川義幸1)2)、富岡俊也3)、松浦信幸1)4)、住谷昌彦3)、新谷益朗1)、一戸達也1)4)、田崎雅和1)2)、芳賀信彦5)、山田芳嗣3)

先天性無痛無汗症における大脳皮質投射

第12回釧路ニューロサイエンスワークショッププログラム, 29, 2013.

第12回釧路ニューロサイエンスワークショップ 釧路市

1) 東京歯科大学口腔科学研究センター・hrc8、2) 東京歯科大学生理学、3) 東京大学医学部附属病院麻酔科・痛みセンター、4) 東京歯科大学歯科麻酔学、5) 東京大学医学部附属病院リハビリテーション科

学会発表・示説 14

25003007 学会発表・示説

Murakami M1), Narita T2), Matsuki-Fukushima M3), Hashimoto S4), Shibukawa Y5), Sato M5), Wei F6).

Confocal microscope observation on paracellular fluid transport in salivary gland.

91st General Session of the International Association for Dental Research Program, 2013.

91st General Session of the International Association for Dental Research Washington, USA

1) 自然科学研機構生理学研究所、2) 日本大学生物資源科学部、3) 日本大学松戸歯学部、4) 東京歯科大学生物学、5) 東京歯科大学生理学、6) 総合研究大学院大学

25003008 学会発表・示説

Murakami M1), Wei F1), Narita T,2) Fukushima-Matsuki M3), Hashimoto S4), Shibukawa Y5), Sato M5)
Confocal microscope observation of paracellular fluid transport in isolated perfused submandibular salivary gland.
37th World Congress of the International Union of Physiological Sciences (IUPS2013) Program, 541, 2013.
37th World Congress of the International Union of Physiological Sciences (IUPS2013) Birmingham, UK

1) 自然科学研究機構生理学研究所、2) 日本大学生物資源科学部、3) 日本大学松戸歯学部、4) 東京歯科大学生理学、5) 東京歯科大学生理学

25003009 学会発表・示説

Endoh T1), Kobayashi H2), Tazaki M1), Sueishi K2)
Adrenomedullin-induced modulation of calcium channels in osteoblasts.
37th World Congress of the International Union of Physiological Sciences (IUPS2013) Program, 968, 2013.
37th World Congress of the International Union of Physiological Sciences (IUPS2013) Birmingham, UK

1) 東京歯科大学生理学、2) 東京歯科大学歯科矯正学

25003012 学会発表・示説

津村麻記1)、佐藤正樹1)、Sobhan U1)、児玉紗耶香1)、鵜田みゆき2)、西山明宏3)、田崎雅和1)、澁川義幸1)
象牙芽細胞におけるアルカリ感受性の検討
J Oral Biosci, (Suppl), 152, 2013.
第55回歯科基礎医学会学術大会・総会 岡山市

1) 東京歯科大学生理学、2) 東京歯科大学口腔健康臨床科学・小児歯科、3) 東京歯科大学オーラルメディスン・口腔外科学
医中誌 ID : 2014098059

25106055 学会発表・示説

Kawaguchi A1), Sato M2), Tazaki M2), Ichinohe T1), Shibukawa Y2).
Activation of P2Y12-BK receptor coupling disarms the cAMP-mediated inhibitory effect on ryanodine receptor channel-induced Ca²⁺ release in trigeminal ganglion neurons.
The Journal of Physiological Sciences, 64(Suppl), 167, 2014.
第91回日本生理学会大会 鹿児島市

1) 東京歯科大学歯科麻酔学、2) 東京歯科大学生理学

25110007 学会発表・示説

檜垣卓生1)、佐々木秀憲2)、児玉紗耶香2)、音成（山本）実佳2)、今泉晶子2)、神尾崇2)、和光衛2)、西川慶一2)、佐野司2)4)
下顎頭骨髄変化に対するダブルエコー法MRIで作成した簡易T2像の検出能 その1 視覚評価による検討
日本歯科放射線学会第54回総会・学術大会プログラム・抄録集, 96, 2013.
日本歯科放射線学会第54回総会・学術大会 福岡市

1) 東京歯科大学千葉病院放射線科、2) 東京歯科大学歯科放射線学、3) 東京歯科大学生理学、4) 昭和大学歯学部口腔病態診断科学講座歯科放射線医学

25110008 学会発表・示説

佐々木秀憲1)、檜垣卓生2)、児玉紗耶香3)、音成（山本）実佳1)、今泉晶子1)、神尾崇1)、和光衛1)、西川慶一1)、佐野司1)4)
下顎頭骨髄変化に対するダブルエコー法MRIで作成した簡易T2像の検出能 その2 T2値についての定量評価による検討
日本歯科放射線学会第54回総会・学術大会プログラム・抄録集, 97, 2013.
日本歯科放射線学会第54回総会・学術大会 福岡市

1) 東京歯科大学歯科放射線学、2) 東京歯科大学千葉病院放射線科、3) 東京歯科大学生理学、4) 昭和大学歯学部口腔病態診断科学講座歯科放射線医学

25110017 学会発表・示説

音成実佳1)、井本研一2)、児玉紗耶香3)、和光衛1)、佐野司4)
各関節円板状態におけるJoint effusionのFLAIR像での信号強度と疼痛との関連
日本顎関節学会雑誌, 25(Suppl), 90, 2013.
第26回日本顎関節学会総会・学術大会 東京都千代田区

1) 東京歯科大学歯科放射線学、2) 東京歯科大学口腔健康臨床科学・歯科放射線、3) 東京歯科大学生理学、4) 昭和大学歯学部口腔病態診断科学講座歯科放射線医学
医中誌 ID : 2014044783

25201069 学会発表・示説

西山明宏1)、佐藤正樹2)、津村麻記2)、片倉朗1)、田崎雅和2)、澁川義幸2)

マウス由来象牙芽細胞系細胞におけるグルタミン酸受容体の機能発現

第91回日本生理学会大会プログラム集, 184, 2014.

第91回日本生理学会大会 鹿児島市

1) 東京歯科大学オーラルメディシン・口腔外科学、2) 東京歯科大学生理学

25305007 学会発表・示説

陽田みゆき1)、津村麻記2)、佐藤正樹2)、Sobhan U2)、田崎雅和2)、澁川義幸2)

Guaiacolは象牙芽細胞のTRPV3チャネルに作用する

J Oral Biosci, (Suppl), 192, 2013.

第55回歯科基礎医学会学術大会・総会 岡山市

1) 東京歯科大学口腔健康臨床科学・小児歯科、2) 東京歯科大学生理学

医中誌 ID : 2014098219

25406010 学会発表・示説

Murakami M1), Wei F1), Narita T2), Fukushima-Matsuki M3), Hashimoto S4), Shibukawa Y5), Sato M5).

Confocal microscope observation on paracellular fluid transport in the vascularly perfused submandibular gland.

37th World Congress of the International Union of Physiological Sciences (IUPS2013) Program, 2013.

37th World Congress of the International Union of Physiological Sciences (IUPS2013) Birmingham, UK

1) 自然科学研機構生理学研究所、2) 日本大学生物資源科学、3) 日本大学松戸歯学部生理学、4) 東京歯科大学生物学、5) 東京歯科大学生理学

25501001 学会発表・示説

Sato M1), Tsumura M1)2), Sobhan U1), Tazaki M2), Shibukawa Y1)2).

Expression of TRPM8 and TRPA1 channels in rat odontoblasts.

11th International Conference on Tooth Morphogenesis and Differentiation Plenary poster sessions abstract program, 2013.

11th International Conference on Tooth Morphogenesis and Differentiation La Londe Les Maures, France

1) 東京歯科大学口腔科学研究センター-hrc8、2) 東京歯科大学生理学

25501007 学会発表・示説

Kawaguchi A1)2), Shibukawa Y1)3), Kuroda H1)2), Soya M1)2), Sato M1), Tazaki M3), Ichinohe T2).

Expression of purinergic P2Y12 receptors in rat trigeminal ganglion neurons.

IUPS 2013 Program, 2013.

IUPS 2013 Birmingham, UK

1) 東京歯科大学口腔科学研究センター・hrc8、2) 東京歯科大学歯科麻酔学、3) 東京歯科大学生理学

25501008 学会発表・示説

Soya M1)2), Kuroda H1)2), Kawaguchi A1)2), Sato M1), Sobhan U1), Tazaki M3), Ichinohe T2), Shibukawa Y1)3).

Expression of TRP channels in isolated single Merkel cells from hamster oral mucosa.

IUPS 2013 Program, 2013.

IUPS 2013 Birmingham, UK

1) 東京歯科大学口腔科学研究センター・hrc8、2) 東京歯科大学歯科麻酔学、3) 東京歯科大学生理学

生化学講座

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

教 授	東 俊文	幹細胞移植を用いた再生医療の基礎的、臨床的検討 (A04-0325-1)
准 教 授	佐藤 裕	口腔レンサ球菌のプラーク定着機構の分子遺伝学的解析 (A95-0129-1)
助 教	小野寺晶子	幹細胞移植を用いた再生医療の基礎的、臨床的検討 (A04-0325-1)
助 手	齋藤 暁子	幹細胞移植を用いた再生医療の基礎的、臨床的検討 (A04-0325-1)

2. 成果の概要

1) 幹細胞移植を用いた再生医療の基礎的、臨床的検討 (A04-0325-1)

前年度までの研究で、ヒト歯根膜(HPDL)細胞の骨芽細胞への分化にはPI3Kの活性化が重要であることがわかった。そこでPI3K/Akt経路に注目しTGF- β 、BMP-2/-7、dexamethasone (Dex)を用いてHPDL細胞を骨芽細胞へ分化させたところ、TGF- β の存在下でDexはPI3Kの主なターゲット分子であるAktのリン酸化およびIGF-1発現を上昇させることがわかった。一方BMP-2/-7存在下ではDex添加によりIGF-1発現の減少およびリン酸化Aktの亢進が認められた。これらの結果から、TGF- β とDexの併用投与はIGF-1発現を介して骨芽細胞分化を促進するが、BMP-2/-7とDexの併用投与はIGF-1発現とは非依存的に骨芽細胞分化を促進することが示唆された。

J Hard Tissue Biol 23(1):9-14, 2014.

骨と象牙質はどちらも石灰化組織で似た構造をもつが、歯髄(DP)幹細胞は骨髄幹細胞と異なり間質細胞による支持がないなど両者の幹細胞ニッチは異なることが知られる。また骨髄などの組織をHoechst 33342色素で染色しFACS解析を行うと、ごく少数のHoechst陰性を示す集団(SP細胞)が得られ、このSP細胞は幹細胞性を有することが知られる。そこでこのSP分離濃縮方法を用いて、ラット切歯より採取した歯髄(DP)細胞および歯根(DG)細胞からSP細胞を分離し、骨髄SP細胞との表面抗原マーカーの違いを検討した。その結果、DG由来SP細胞は骨髄由来SP細胞と同様に表面抗原マーカーを発現していたが、一方でDP由来SP細胞は骨髄SP細胞と比較し特にc-kit, sca-1の発現に違いがあった。これらの結果から、DPの幹細胞ニッチがDP幹細胞のphenotypeに影響を及ぼす可能性が示唆された。

J Hard Tissue Biol 23(1):119-124, 2014.

2) 口腔レンサ球菌のプラーク定着機構の分子遺伝学的解析 (A95-0120-1)

前年度までの研究で、*Streptococcus mutans*のmalQはグルカノトランスフェラーゼをコードしており、マルトース代謝には必須遺伝子であることが分かった。細胞内に取り込まれたマルトールはこの酵素の働きでグルコースとマルトオリゴ糖が生成する。グルコースはエネルギー代謝に利用され、その最初の反応を触媒するグルコキナーゼによるリン酸化が必須と考えられたが、そのコード遺伝子glkを欠失してもマルトースを代謝することが出来る。そのメカニズムを調べた結果、グルコースは細胞内でリン酸化されるのではなく、一度細胞外に放出されグルコースPTS(manL遺伝子等にコードされる)により再び細胞内に取り込まれると同時にリン酸化される可能性が、glk, manL二重変異株で培養上清中にグルコースが検出されることから、示唆された。

J Oral Microbiol. 2013 Aug 6;5. doi: 10.3402/jom.v5i0.21285. Print 2013.

原著/原著論文 2

25004001 原著/原著論文

Sato Y1), Okamoto-Shibayama K2), Azuma T1)3).

The malQ gene is essential for starch metabolism in *Streptococcus mutans*.

J Oral Microbiol, 2013.

1) 東京歯科大学学生化学、2) 東京歯科大学微生物学、3) 東京歯科大学口腔科学研究センター

DOI : 10.3402/jom.v5i0.21285 PubMed ID : 23930155 研究課題番号: A95-0120-1

25104020 原著/原著論文

Yamashita H1), Ochiai H2,3), Saito A2,3), Shintani S1), Azuma T2,3)

Phosphoinositide 3-Kinase (PI3K) Activation is Differentially Regulated during Osteogenesis induced by TGF- 1 and BMP-2/BMP-7.

J Hard Tissue Biol, 23(1), 9-14, 2014. 学位論文 (甲)

1) 東京歯科大学小児歯科学、2) 東京歯科大学学生化学、3) 東京歯科大学口腔科学研究センター・hrc8

DOI : 10.2485/jhtb.23.9

学会発表・口演 4

25101001 学会発表・口演

吉澤佑世1)、篠宏美2)、月野和隆1)、小野寺晶子2)、齋藤暁子2)、森永一喜1)、村松敬1)、東俊文2)、古澤成博1)
TGF- β 1 による骨形成抑制作用時のWISP-2発現と骨形成との関与

歯科学報, 113(2), 204, 2013.

第295回東京歯科大学学会 (例会) 千葉市

1) 東京歯科大学歯科保存学、2) 東京歯科大学学生化学

25101002 学会発表・口演

月野和隆1)、小野寺晶子2)、吉澤佑世1)、篠宏美2)、齋藤暁子2)、東俊文2)、森永一喜1)、村松敬1)、古澤成博1)
新たな骨分化メカニズムの解明 WNT活性化機序との関連

歯科学報, 113(2), 204, 2013.

第295回東京歯科大学学会 (例会) 千葉市

1) 東京歯科大学歯科保存学、2) 東京歯科大学学生化学

25102012 学会発表・口演

鈴木瑛一1)、篠宏美2)3)、青木栄人1)、小野寺晶子2)、齋藤暁子2)、齋藤淳1)3)、東俊文2)3)

TGF- β 1 による骨芽細胞分化におけるPI3K/Aktシグナル伝達経路の役割

第22回硬組織再生生物学会学術大会・総会プログラム・抄録集, 16, 2013.

第22回硬組織再生生物学会学術大会・総会 横浜市

1) 東京歯科大学歯周病学、2) 東京歯科大学学生化学、3) 東京歯科大学口腔科学研究センター・hrc8

25219011 学会発表・口演

石崎憲1)2)、野村武史1)3)、片倉朗4)、東俊文5)6)、柴原孝彦1)3)、櫻井薫2)

「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」における顎顔面補綴コースの概要

日本顎顔面補綴学会第30回総会・学術大会プログラム・抄録集, 41, 2013.

日本顎顔面補綴学会第30回総会・学術大会 郡山市

1) 東京歯科大学口腔がんセンター、2) 東京歯科大学有床義歯補綴学、3) 東京歯科大学口腔外科学、4) 東京歯科大学オーラルメディスン・口腔外科学、5) 東京歯科大学口腔科学研究センター・hrc8、6) 東京歯科大学学生化学

学会発表・示説 9

25004002 学会発表・示説

齋藤暁子、篠宏美、小野寺晶子、東俊文

ヒトiPS細胞のEB形成時におけるALP発現の動態に関する検討

第86回日本生化学会大会プログラム, 12, 248, 2013.

第86回日本生化学会大会 横浜市

東京歯科大学生化学

25004003 学会発表・示説

佐藤裕1)、柴山和子2)、東俊文1)3)

マルトオリゴ糖の分解に関与する*S. mutans* malQ遺伝子の特徴付け

J Oral Biosci, 55(Suppl), 220, 2013.

第55回歯科基礎医学会学術大会・総会 岡山市

1) 東京歯科大学生化学、2) 東京歯科大学微生物学、3) 東京歯科大学口腔科学研究センター

研究課題番号: A95-0120-1

25004004 学会発表・示説

落合-篠宏美1)、加藤宏2)、齋藤暁子1)、小野寺晶子1)、佐藤裕1)、東俊文1)

ヒトiPS細胞から骨細胞への効果的な誘導

第86回日本生化学会大会プログラム, 2013. 若手研究 (B)

第86回日本生化学会大会 横浜市

1) 東京歯科大学生化学、2) 東京歯科大学口腔外科学

25004005 学会発表・示説

小野寺晶子1)、月野和隆2)、篠宏美1)、齋藤暁子1)、東俊文1)

BMP/SMAD経路を介したデキサメタゾンのWNT阻害因子への関与

第36回日本分子生物学会年会プログラム, 2013. 基盤研究 (C) 分担

第36回日本分子生物学会年会 神戸市

1) 東京歯科大学生化学、2) 東京歯科大学歯科保存学

25004006 学会発表・示説

齋藤暁子、篠宏美、小野寺晶子、東俊文

ヒトiPS細胞の骨芽細胞への分化誘導時におけるALP発現の動態についての検討

再生医療, 13(Suppl), 260, 2014.

第13回日本再生医療学会総会 京都市

東京歯科大学生化学

25004007 学会発表・示説

小野寺晶子1)、月野和隆2)、齋藤暁子1)、篠宏美1)、東俊文1)

BMP/SMAD経路を介したデキサメタゾンのWNT阻害因子への関与

再生医療, 13(Suppl), 342, 2014. 基盤研究 (C) 分担

第13回日本再生医療学会総会 京都市

1) 東京歯科大学生化学、2) 東京歯科大学歯科保存学

25101011 学会発表・示説

月野和隆1)、小野寺晶子2)、吉澤佑世1)、篠宏美2)、齋藤暁子2)、手銭親良1)、間奈津子1)、東俊文2)、森永一喜1)

新たな骨分化メカニズムの解明 WNT活性化機序との関連

日本歯科保存学会学術大会プログラムおよび講演抄録集138回, 221, 2013.

日本歯科保存学会2013年度春季学術大会 (138回) 福岡市

1) 東京歯科大学歯科保存学、2) 東京歯科大学生化学

医中誌 ID : 2014081997

25101012 学会発表・示説

吉澤佑世1)、篠宏美2)、月野和隆1)、小野寺晶子2)、齋藤暁子2)、手銭親良1)、間奈津子1)、東俊文2)、森永一喜1)

TGF- β 1による骨形成抑制作用時のWISP-2発現と骨形成との関与

日本歯科保存学会学術大会プログラムおよび講演抄録集138回, 222, 2013.

日本歯科保存学会2013年度春季学術大会(138回) 福岡市

1) 東京歯科大学歯科保存学、2) 東京歯科大学学生化学

医中誌 ID : 2014081998

25105035 学会発表・示説

林宰央1)、恩田健志1)、長谷川大悟1)、加藤宏1)、大畠仁1)、高野伸夫2)、柴原孝彦1)、東俊文3)

FK506(タクロリムス)を用いたラット尾椎皮膚移植における拒絶反応の検討

Jpn J Maxillo Facial Implants, 12(3), 189, 2013.

第17回日本顎顔面インプラント学会総会・学術大会 東京都千代田区

1) 東京歯科大学口腔外科学、2) 東京歯科大学口腔がんセンター、3) 東京歯科大学学生化学

医中誌 ID : 2014139179

微生物学講座

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

教授	石原 和幸	歯周病原性菌の遺伝学的研究 (A89-0180-1)
講師	柴山 和子	<i>Candida albicans</i> の病原性に関与する遺伝子の解析
助教	国分 栄仁	上皮細胞に対する細菌の侵入経路および細胞動態の検索
	菊池有一郎	<i>Porphyromonas gingivalis</i> のシグマ因子の解析
大学院生	藤瀬 和隆	<i>Treponema denticola</i> のシグマ因子に関する解析

2. 成果の概要

1) 歯周病予防ワクチンの開発

Porphyromonas gingivalis の持つシステインプロテアーゼ gingipain はその病原性に重要な役割をもっている。本研究は乳酸菌に gingipain の 44-kDa 付着 / 赤血球凝集ドメイン (Hgp44) を発現させ、それによるワクチンの可能性を検討した。Hgp44 の一部を pSGANC332 に挿入した plasmid (plSTY210, pCOL, pSHGRP44A) を作成し、*Lactococcus lactis* に発現させた。タンパク発現を調べた結果、発現を認めるものの十分な発現量が得られなかった。Hgp44 内の 3 個の cysteine を置換すると発現の上昇が認められ、さらにもう一つの cysteine の置換は抗原性の低下を引き起こした。これは、*L. lactis* 細胞の表面上への Hgp44 の発現には S-S 結合によるタンパクの立体構造の変化が必要であることを示している。これらの結果から、本抗原を表現する *L. lactis* は *P. gingivalis* に対する抗体を誘導する有望なワクチンの候補であることが示唆された。

Bull Tokyo Dent Coll 54 (4):233-41, 2013.

2) 細菌の細胞侵入機構の解析

Vinculin は 116kDa の細胞骨格を形成するタンパクであり、細胞の付着に関与しているが他の機能について明らかではない。本研究は本タンパクの *Staphylococcus aureus* の細胞内への取り込みがある作用を解析した。Vinculin の過剰発現により *S. aureus* の侵入を増加を引き起こした。Vinculin は Rab5 と結合し、Rab5 の欠損は *S. aureus* の感染を減少させた。これらの結果から、細菌の感染には、Vinculin と Rab5 が結合して侵入に関わることが明らかになった。

PLoS One 2014 Jan 23;9 (1):e87373.

3) 口腔細菌検査機器の開発

口腔内菌数測定機器である誘電泳動インピーダンス測定 (DEPIM) システムの有効性を明確にするため、生菌数測定により得られた結果と DEPIM システムによる値を、口腔細菌を中心とした 13 菌種について検討した。DEPIM を用いた菌数算定は生菌数との相関性を示し、2 つの細菌種の混合細菌懸濁液 (105 から 108 cfu/ml) でも同様であった。さらに、酵素により菌を分散させた DEPIM を用いた菌数測定においても菌数に影響が無いことから、菌の凝集による影響を受けないことが明らかになった。本研究は DEPIM によって得られた菌数が実測値と同等であり菌数測定器として使用可能であることを明らかにした。

Biocontrol Science 19(1): 45-49, 2014.

3. 学外共同研究

担当者	研究課題	学外研究施設		
		研究施設	所在地	責任者
石原 和幸	歯周病原因子の遺伝学的解析	Dept. of Oral Biology, State University of New York at Buffalo	Buffalo, USA	Sharma A
石原 和幸	歯周病原細菌の共凝集解析	長崎大学歯学部	長崎市	中山 浩次
石原 和幸	歯周炎の細菌叢の解析	九州大学歯学部	福岡市	山下 喜久
石原 和幸 国分 栄仁	食食に対する黄色ブドウ球菌の影響	国立長寿研究センター	大府市	萩原 真

4. 科学研究費補助金・各種補助金

研究代表者	研究課題	研究費
石原 和幸	Polymicrobial infectionによる病原性変化の分子機構の解明	文部科学省科学研究費補助金・基盤研究(C)
国分 栄仁	<i>Treponema denticola</i> の細胞侵入に関する病原性の解明	文部科学省科学研究費補助金・若手研究(B)
菊池有一郎	口腔内バイオフィルム形成及び歯周病原性発現におけるECFシグマ因子の役割	文部科学省科学研究費補助金・若手研究(B)

5. 研究活動の特記すべき事項

学会招待講演・特別講演・教育講演

講演者	年月日	演題	学会名	開催地
石原 和幸	2013.10.26-27	心身障害者口腔ケアについて	Taiwan Dental Association	台北 中華民国

6. 教育に関する業績、活動

他の大学・研究機関等における学生・大学院生を対象とする講義・実習

石原 和幸	2014. 7. 5	歯周病原性菌のタンパク分解酵素と全身疾患	九州歯科大学	小倉市
石原 和幸	2014. 1. 7	口腔スピロヘータ	長崎大学	長崎市

原著/原著論文 6

25002005 原著/原著論文

Sawada T1), Yamazaki T1), Shibayama K2), Kumazawa K3), Yamaguchi Y4), Ohshima M5).
Expression and localization of laminin 5, laminin 10, type IV collagen, and amelotin in adult murine gingiva.
J Mol Hist, 45, 293-302, 2014. 基盤研究 (C)
1) 東京歯科大学口腔超微構造学、2) 東京歯科大学微生物学、3) 東京歯科大学小児歯科学、4) 日本大学歯学部歯学科生化学、5) 奥羽大学薬学部生化学
DOI : 10.1007/s10735-013-9559-7

25004001 原著/原著論文

Sato Y1), Okamoto-Shibayama K2), Azuma T1)3).
The malQ gene is essential for starch metabolism in Streptococcus mutans.
J Oral Microbiol, 2013.
1) 東京歯科大学生化学、2) 東京歯科大学微生物学、3) 東京歯科大学口腔科学研究センター
DOI : 10.3402/jom.v5i0.21285 PubMed ID : 23930155 研究課題番号: A95-0120-1

25006001 原著/原著論文

Yamamoto I1), Ishihara K1), Muramatsu K1), Wada Y1), Kiwaki M2), Kushiro A2), Okuda K1).
Expression of Porphyromonas gingivalis gingipain antigen Hgp44 domain on surface of Lactococcus lactis.
Bull Tokyo Dent Coll, 54(4), 233-241, 2013. 学位論文 (甲)
1) 東京歯科大学微生物学、2) ヤクルト中央研究所
PubMed ID : 24521549

25006002 原著/原著論文

Hagiwara M1, Kokubu E2, Sugiura S1, Komatsu T1, Tada H1, Isoda R1, Tanigawa N1, Kato Y1, Ishida N1, Kobayashi K1, Nakashima M1, Ishihara K2, Matsushita K1.
Vinculin and Rab5 complex is required for uptake of Staphyrococcus aureus and interleukin-6 expression.
PLoS One, 23(9), e87373, 2014.
1) 国立長寿医療研究センター口腔疾患研究部、2) 東京歯科大学微生物学
DOI : 10.1371/journal.pone.0087373 PubMed ID : 24466349

25006004 原著/原著論文

Hirota K1), Inagaki S2), Hamada R3), Ishihara K2), Miyake Y1).
Evaluation of a rapid oral bacteria quantification system using dielectrophoresis and the impedance measurement.
Biocontrol Sci, 19(1), 45-49, 2014.
1) 徳島大学大学院口腔科学教育部口腔微生物学、2) 東京歯科大学微生物学、3) パナソニックヘルスケア株式会社開発センター
PubMed ID : 24670618 医中誌 ID : O328280003

25112006 原著/原著論文

Yuasa K1), Kokubu E2)3), Kokubun1)2), Matsuzaka K1)2), Shiba K4), Kashiwagi K5), Inoue T1)2).
An artificial fusion protein between bone morphogenetic protein 2 and titanium-binding peptide is functional in vivo.
J Biomed Mater Res A, 102(4), 1180-1186, 2013.
1) 東京歯科大学臨床検査病理学、2) 東京歯科大学口腔科学研究センター・hrc8、3) 東京歯科大学微生物学、4) がん研究所蛋白創製研究部、5) がん研究会
DOI : 10.1002/jbm.a.34765 PubMed ID : 23625448

学会発表・口演 7

25006005 学会発表・口演

菊池有一郎
歯周病原細菌のバイオフィルム形成因子の探索
日本細菌学会第7回若手研究者育成のためのワークショッププログラム, 4, 2013.
日本細菌学会第7回若手研究者育成のためのワークショップ 東京都新宿区
東京歯科大学微生物学

25101013 学会発表・口演

額賀智之1)、田中公子2)、菊池有一郎3)、新谷誠康2)、村松敬1)、古澤成博1)、石原和幸3)
Treponema denticolaにおけるBacteriocin ABC transporter様遺伝子の解析
歯科学報, 113(4), 423, 2013.

第296回東京歯科大学学会（総会） 東京都千代田区

1) 東京歯科大学歯科保存学、2) 東京歯科大学小児歯科学、3) 東京歯科大学微生物学
医中誌 ID : 2014135651

25102002 学会発表・口演

今村健太郎1)2)、国分栄仁2)3)、喜田大智1)、太田功貴1)、白石友子4)、石原和幸2)3)、齋藤淳1)2)
タバコ煙がPorphyromonas gingivalisと歯肉上皮細胞との相互作用に及ぼす影響
日本歯周病学会会誌, 55(春季), 94, 2013.

第56回春季日本歯周病学会学術大会 東京都江戸川区

1) 東京歯科大学歯周病学、2) 東京歯科大学口腔科学研究センター・hrc8、3) 東京歯科大学微生物学、4) 白石歯科医院
医中誌 ID : 2013294782

25102033 学会発表・口演

今村健太郎1)、国分栄仁2)3)、喜田大智1)、太田功貴1)、石原和幸2)3)、齋藤淳1)2)
タバコ煙抽出液の曝露とPorphyromonas gingivalis感染がヒト歯肉上皮細胞の機能に及ぼす影響
歯科学報, 113(4), 423, 2013.

第296回東京歯科大学学会（総会） 東京都千代田区

1) 東京歯科大学歯周病学、2) 東京歯科大学口腔科学研究センター・hrc8、3) 東京歯科大学微生物学
医中誌 ID : 2014135650

25104052 学会発表・口演

Tanaka, K1), Kikuchi, Y2), Shintani, S1), Kuramitsu, HK3), Ishihara, K2)
Characterization of bacteriocin associated protein in Treponema denticola
Gordon Conference, Spirochetes, Biology of 2014, Program,
Gordon Conference, Spirochetes, Biology of 2014 Ventura, USA

1) 東京歯科大学小児歯科学、2) 東京歯科大学微生物学、3) Dept. of Oral Biology, States Univ. of New York at Buffalo

25104053 学会発表・口演

Tanaka, K1), Kikuchi, Y2), Shintani, S1), Kuramitsu, HK3), Ishihara, K2)
Characterization of bacteriocin associated protein in Treponema denticola.
Adv Dent Res, 26, 58, 2013.
50th Anniversary Symposium of the University at Buffalo Oral Biology Graduate Program Ventura, USA

1) 東京歯科大学小児歯科学、2) 東京歯科大学微生物学、3) Dept. of Oral Biology, States Univ. of New York at Buffalo

25405004 学会発表・口演

加藤哲男1)、国分栄仁2)、谷口正之3)、齋藤淳4)、齋藤英一5)、石原和幸2)
米由来CLペプチドの内毒素活性に対する抑制効果

J Oral Biosci Suppl, 2013(Suppl), 129, 2013. 農水省委託研究プロジェクト

第55回歯科基礎医学会学術大会・総会 岡山市

1) 東京歯科大学化学、2) 東京歯科大学微生物学、3) 新潟大学工学部大学院自然科学研究科、4) 東京歯科大学歯周病学、5) 新潟工科大学環境科学科
医中誌 ID : 2014097967

学会発表・示説 7

25004003 学会発表・示説

佐藤裕1)、柴山和子2)、東俊文1)3)
マルトオリゴ糖の分解に関与するS. mutans malQ遺伝子の特徴付け
J Oral Biosci, 55(Suppl), 220, 2013.

第55回歯科基礎医学会学術大会・総会 岡山市

1) 東京歯科大学学生化学、2) 東京歯科大学微生物学、3) 東京歯科大学口腔科学研究センター
研究課題番号: A95-0120-1

25006007 学会発表・示説

門田枝里子1)、石原和幸2)

吸引歯ブラシ洗浄後の菌数の測定

日本歯科衛生士学会第8回学術大会プログラム, 5, 2013.

日本歯科衛生士学会第8回学術大会 神戸市

1) 東京歯科大学歯科衛生士専門学校、2) 東京歯科大学微生物学

25006009 学会発表・示説

萩原真1)、国分栄仁2)、杉浦進介1)、小松寿明1)、多田浩之1)、磯田竜太郎1)、谷川順美1)、加藤佳子1)、石田直之1)、小林かおる1)、石原和幸2)、松下健二1)

Staphylococcus aureusの細胞内侵入におけるvinculinとRab5の相互作用

第65回日本細胞生物学会プログラム・抄録集, 62, 2013.

第65回日本細胞生物学会 名古屋市

1) 国立長寿医療研究センター口腔疾患研究部、2) 東京歯科大学微生物学

25102009 学会発表・示説

Imamura K1) 2), Kita D1), Kokubu E2)3), Ishihara K2)3), Saito A1)2).

Effect of cigarette smoke condensate on in vitro wound healing of human gingival epithelial cells.

50th Anniversary Symposium, University at Buffalo Oral Biology Graduate Program, Program,

50th Anniversary Symposium, University at Buffalo Oral Biology Graduate Program New York, USA

1) 東京歯科大学歯周病学、2) 東京歯科大学口腔科学研究センター、3) 東京歯科大学微生物学

25102039 学会発表・示説

喜田大智1)、菊池有一郎2)、国分栄仁2)、柴山和子2)、齋藤淳1)、石原和幸1)

Capnocytophaga ochraceaのバイオフィーム形成へのPor分泌機構の関与

第55回歯科基礎医学会学術大会・総会 プログラム・抄録集, 2013(Suppl), 229, 2013.

第55回歯科基礎医学会学術大会・総会 岡山市

1) 東京歯科大学歯周病学、2) 東京歯科大学微生物学

医中誌 ID : 2014098368

25105026 学会発表・示説

岩本昌士1)、井本大智1)、村松恭太郎1)、高野伸夫1)、柴原孝彦1)、石原和幸2)、竹下徹3)、山下喜久3)

歯性感染症患者の膿汁における細菌のT-RFLP解析 (第三報)

日本口腔感染症学会雑誌, 20(1), 36, 2013.

第22回日本口腔感染症学会総会学術大会 伊勢原市

1) 東京歯科大学口腔外科学、2) 東京歯科大学微生物学、3) 九州大学大学院歯学研究院口腔保健促進学

医中誌 ID : 2013372250

25201003 学会発表・示説

齊藤教子1)、三條祐介1)、酒井克彦1)、石原和幸2)、片倉朗1)

Capnocytophaga ochraceaのAuto-inducer-2のバイオフィーム形成における役割

日本口腔科学会雑誌, 63(1), 182-183, 2013.

第67回日本口腔科学会学術集会 宇都宮市

1) 東京歯科大学オーラルメディシン・口腔外科学、2) 東京歯科大学微生物学

医中誌 ID : 2014317626

学会発表・シンポジウム/パネルディスカッション 1

25006010 学会発表・シンポジウム/パネルディスカッション

石原和幸

歯周炎と心冠状動脈疾患

日本臨床腸内微生物学会誌, 15(1), 19-21, 2013.

第15回日本臨床腸内微生物学会 八王子市

東京歯科大学微生物学

医中誌 ID : 2013302446

薬理学講座

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

教 授	川口 充	唾液腺機能診断解析のためのsiRNAと超音波を応用した遺伝子抑制法の開発 唾液腺における抑制機能調節機構の発現に関する研究 成長発育と唾液分泌抑制機構の発達との相関性に関する研究
講 師	大久保みぎわ	ラット耳下腺腺房細胞におけるアミラーゼ分泌抑制機構へのGABA _A 受容体の関与 唾液腺の末梢型ベンゾジアゼピン受容体の細胞生物学的解析についての研究
助 教	四宮 敬史	放射線性唾液腺障害に対する薬物の効果に関する研究 DMXシート®の効能に関する研究
	塚越 絵里	唾液腺に発現するジアゼパム結合阻害因子(DBI)を介した口腔乾燥の分子機構
大学院生	阿部 裕之	糖尿病ラットの唾液腺細胞におけるAQP5発現動態に関する研究

2. 成果の概要

1. メタンフェタミン断薬ストレスはラット唾液腺においてPACAP-DBI pathway を活性化し唾液分泌を抑制する

これまでにラット唾液腺細胞において、メタンフェタミン断薬ストレスがステロイド合成系の最初に産生されるプレグネノロンの合成酵素である CYP11A1 産生を促進すること、ラット顎下腺灌流実験においてプレグネノロンが唾液分泌を抑制することを明らかにした。本研究では、ラット唾液腺においてこのストレスが CYP11A1 産生を促進する経路と唾液分泌に及ぼす影響について検索した。ラット耳下腺、顎下腺および舌下腺において diazepam-binding inhibitor (DBI) および pituitary adenylate cyclase-activating polypeptide (PACAP) の産生を促進することが Western blot 法と qPCR 法により明らかとなった。また、耳下腺、顎下腺および舌下腺導管にカニューレーション法によるピロカルピン刺激唾液分泌を低下した。以上の結果からメタンフェタミン断薬ストレスは PACAP-DBI 系を介してステロイド産生系を活性化し唾液分泌を抑制することが示唆された。

Tokai J Exp Clin Med 38(2):55-61, 2013.

2. GABA_A受容体の抑制性調節機構解明のためのラット顎下腺灌流法

本研究は抑制性伝達物質である GABA が唾液腺に対して直接作用し分泌を抑制することを明らかにするとともに、この解明のための顎下腺灌流法の確立を目的とし行った。神経支配を保つために顎下腺を摘出することなく顎下腺の動脈、静脈、および、導管にカニューレーションし灌流装置を作成した。また、間欠的に刺激を与えることで分泌機能を低下させずに数回の実験に耐え得る灌流系を構築した。HBSS (Hepes : pH7.4) を 0.5ml/min の速度で灌流した時、5 分間の 1 μ M カルバコール刺激を、30 分おきに 8 回以上、繰り返し行っても安定した分泌を得ることができた。この灌流装置を用いたところ GABA_A-agonist の GABA およびムシモールはカルバコールによる顎下腺唾液分泌を用量依存性に抑制した。またこの抑制作用は GABA_A-antagonist のビククリンにより遮断され、central type benzodiazepine-agonist のクロナゼパムにより増強した。以上の結果からこの灌流法が GABA_A 受容体の抑制性調節機構解明に有用であることが明らかとなった。

J Pharmacol Sci 122:42-50, 2013.

3. 学外共同研究

担当者	研究課題	学外研究施設		
		研究施設	所在地	責任者
川口 充	歯科口腔領域における遺伝子治療	Molecular Physiology & Therapeutics Branch, NIDCR, NIH, DHHS	Bethesda, USA	Baum BJ
四宮 敬史	耳下腺に対する遺伝子導入による合成タンパク質の仮想的分泌経路の分子生物学的解析に関する研究	Molecular Physiology & Therapeutics Branch, NIDCR, NIH, DHHS	Bethesda, USA	Baum BJ
川口 充 四宮 敬史	受容体の成長発育に関する分子生物学的解析 Developmental changes in mRNA levels of opioid peptide precursor proteins (OPPPs) and receptors (ORs) in rat stomach and brain	東海大学医学部臨床薬理学	伊勢原市	小林 広幸
川口 充 四宮 敬史 大久保みぎわ 塚越 絵里	DMXシート®の効能に関する研究	ロート製薬株式会社	大阪市	奥村 重年

4. 研究活動の特記すべき事項

学会招待講演・特別講演・教育講演

講演者	年月日	演題	学会名	開催地
川口 充	2013.10.19	薬理学、NIH、唾液、口腔乾燥	第296回東京歯科大学学会	東京都千代田区

シンポジウム

シンポジスト	年月日	講演演題	学会・研究会名	開催地
川口 充	2013. 9.20	唾液腺におけるGABA受容体機能の新しい展開	第55回歯科基礎医学会学術大会・総会 サテライトシンポジウム6「第27回唾液腺談話会」	岡山市
四宮 敬史	2013. 9.28	放射線粘膜炎に対するDMXシート®の効果	第15回応用薬理シンポジウム	東京都品川区
川口 充	2014. 3.19	D- アミノ酸と唾液腺	第87回日本薬理学会年会	仙台市

原著/原著論文 2

25007014 原著/原著論文

Miura M1), Yoshikawa M2)3), Watanabe M1), Takahashi S2), Ajimi J,1) Ito K1), Ito M1), Kawaguchi M3), Kobayashi H2), Suzuki T1)

Increase in antinociceptive effect of [Leu5] enkephalin after intrathecal administration of mixture of three peptidase inhibitors.

Tokai J Exp Clin Med, 38(2), 62-70, 2013.

1) 東海大学医学部麻酔学、2) 東海大学医学部臨床薬理学、3) 東京歯科大学薬理学

PubMed ID : 23868737 医中誌 ID : 2014299099

25501006 原著/原著論文

Sobhan U1), Sato M1), Shinomiya T1)2), Okubo M1)2), Tsumura M1)3), Muramatsu T1)4), Kawaguchi M2), Tazaki M3), Shibukawa Y1)3).

Immunolocalization and distribution of functional temperature-sensitive TRP channels in salivary glands.

Cell Tissue Res, 354(2), 507-519, 2013.

1) 東京歯科大学口腔科学研究センター・hrc8、2) 東京歯科大学薬理学、3) 東京歯科大学生理学、4) 東京歯科大学歯科保存学

DOI : 10.1007/s00441-013-1691-x PubMed ID : 23942896

学会発表・口演 7

25007008 学会発表・口演

松浦玄嗣、川口充、四宮敬史、大久保みぎわ

向精神薬による口渴に対する白虎加人参湯および人参養栄湯の作用

歯科学報, 113(4), 427, 2013.

第296回東京歯科大学学会（総会） 東京都千代田区

東京歯科大学薬理学

医中誌 ID : 2014135658

25007009 学会発表・口演

阿部裕之、川口充、四宮敬史、大久保みぎわ、王久子、原理枝子

成長発育と唾液腺分泌抑制機構の発達の相関性に関する研究

歯科学報, 113(4), 427, 2013.

第296回東京歯科大学学会（総会） 東京都千代田区

東京歯科大学薬理学

医中誌 ID : 2014135659

25007010 学会発表・口演

馬場裕史、川口充、大久保みぎわ、四宮敬史

ベンゾジアゼピン化合物の受容体親和性と唾液分泌抑制相関

日本唾液腺学会誌, 54, 15, 2013.

第58回日本唾液腺学会学術集会 東京都文京区

東京歯科大学薬理学

医中誌 ID : 2014108178

25007012 学会発表・口演

川口充、大久保みぎわ、四宮敬史、塚越絵里、澤木康平

末梢型ベンゾジアゼピン受容体 (PBR) を介したミトコンドリアCa²⁺放出によるK⁺チャネル機能促進とNa⁺/K⁺/2Cl⁻共役輸送の活性化

J Pharmacol Sci, (Sppul), 116P, 2014.

第87回日本薬理学会年会 仙台市

東京歯科大学薬理学

25007015 学会発表・口演

吉川正信1)、大久保みぎわ2)、三次百合香3)、浜瀬健司3)、金野柳一4)、川口充2)

D-アミノ酸と唾液分泌

第9回D-アミノ酸研究会学術講演会プログラム, 32, 2013.

第9回D-アミノ酸研究会学術講演会 吹田市

1) 東海大学医学部臨床薬理学、2) 東京歯科大学薬理学、3) 九州大学大学院薬学研究院生体分析化学、4) 国際医療福祉大学医療生命薬学

25107002 学会発表・口演

辻将1)、上田貴之1)、森一成1)、小畑朋邦1)、澤木康平2)、川口充2)、櫻井薫1)

二酸化チタンコーティングを施した床用レジンの口腔粘膜への安全性の検討

日本補綴歯科学会第122回学術大会プログラム・抄録集, 5, 120, 2013.

日本補綴歯科学会第122回学術大会 福岡市

1) 東京歯科大学有床義歯補綴学、2) 東京歯科大学薬理学

25201018 学会発表・口演

矢島由香1)、川口充2)、大久保みぎわ2)、四宮敬史2)、片倉朗1)

癌細胞と正常細胞におけるシスプラチン（DDP）の細胞内輸送に及ぼすジメルカプト化合物の相反的作用機構の解析
歯科薬物療法, 32(2), 96, 2013.

第33回日本歯科薬物療法学会・学術大会 東京都文京区

1) 東京歯科大学オーラルメディシン・口腔外科学、2) 東京歯科大学薬理学

医中誌 ID : 2013327045

学会発表・示説 4

25007005 学会発表・示説

四宮敬史1)、吉川正信1)2)、川口充1)、奥村重年3)、大久保みぎわ1)

放射線粘膜炎に対するDMXシートの効果

J Oral Biosci Suppl, 13(Suppl), 172, 2013.

第55回歯科基礎医学会学術大会・総会 岡山市

1) 東京歯科大学薬理学、2) 東海大学医学部臨床薬理学、3) ロート製薬（株）

医中誌 ID : 2014098140

25007006 学会発表・示説

大久保みぎわ、四宮敬史、塚越絵里、川口充

メタンフェタミン断薬ストレスはラット唾液腺においてPACAP-DBI pathwayを活性化し唾液分泌を抑制する

J Oral Biosci Suppl, 13(Suppl), 198, 2013.

第55回歯科基礎医学会学術大会・総会 岡山市

東京歯科大学薬理学

医中誌 ID : 2014098243

25007013 学会発表・示説

四宮敬史1)、吉川正信1)2)、奥村重年3)、川口充1)、大久保みぎわ1)

マウス放射線粘膜炎に対するプロタミン加水分解産物の効果

J Pharmacol Sci, (Sppul), 175P, 2014.

第87回日本薬理学会年会 仙台市

1) 東京歯科大学薬理学、2) 東海大学医学部臨床薬理学、3) ロート製薬株式会社

25201002 学会発表・示説

矢島由香1)、川口充2)、大久保みぎわ2)3)、佐藤一道1)4)、片倉朗1)

CDDP抗癌毒性に対するSH化合物の延命促進効果

日本口腔科学会雑誌, 63(1), 140, 2013.

第67回日本口腔科学会学術集会 宇都宮市

1) 東京歯科大学オーラルメディシン・口腔外科学、2) 東京歯科大学薬理学、3) 東京歯科大学口腔科学研究センター・hrc8、4) 東京歯科大学口腔がんセンター

医中誌 ID : 2014317504

学会発表・シンポジウム/パネルディスカッション 3

25007003 学会発表・シンポジウム/パネルディスカッション

四宮敬史1)、吉川正信1)2)、奥村重年3)、川口充1)

次世代を担う応用薬理研究を考える 放射線粘膜炎に対するDMXシート(R)の効果

応用薬理, 85(1-2), 37, 2013.

第15回応用薬理シンポジウム 東京都港区

1) 東京歯科大学薬理学、2) 東海大学医学部臨床薬理学、3) ロート製薬株式会社

医中誌 ID : 2014145736

25007004 学会発表・シンポジウム/パネルディスカッション

川口充

唾液腺におけるGABA受容体機能の新しい展開

J Oral Biosci Suppl, 13(Suppl), 84, 2013.

第55回歯科基礎医学会学術大会・総会 岡山市

東京歯科大学薬理学

医中誌 ID : 2014097844

25007011 学会発表・シンポジウム/パネルディスカッション

吉川正信1)、大久保みぎわ2)、三次百合香3)、浜瀬健司3)、村山千恵子1)、金野柳一4)、小林広幸1)、川口充2)

D-アミノ酸と唾液腺

J Pharmacol Sci, (Sppul), 35P, 2014.

第87回日本薬理学会年会 仙台市

1) 東海大学医学部臨床薬理学、2) 東京歯科大学薬理学、3) 九州大学大学院薬学研究院生体分析化学、4) 国際医療福祉大学医療生命薬学

学会発表・特別講演 1

25007007 学会発表・特別講演

川口充

薬理学、NIH、唾液、口腔乾燥

歯科学報, 113(4), 414, 2013.

第296回東京歯科大学学会（総会） 東京都千代田区

東京歯科大学薬理学

医中誌 ID : 2014135641

歯科理工学講座

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

教 授	小田 豊	歯科用合金の電気化学的耐食性に関する研究
		歯科材料製品の物性調査と改良研究
		歯科用CAD/CAMの光造形複合加工への展開
講 師	河田 英司	口腔内雰囲気における合着材,充填材の機械的諸性質について
		高濃度過酸化水素による生活菌漂白の是非
		セラミックス薄膜形成技術による金属表面改質
レジデント	吉成 正雄	Tissue Engineering用Scaffoldの生体機能化
		Tissue Engineeringによる顎骨再生
		歯科鑄造用チタン合金の開発
大学院生	服部 雅之	歯科用CAD/CAMの光造形複合加工への展開
		Ti系合金の口腔環境下での界面反応の解明
		副島 寛貴 歯科材料製品の物性調査と改良研究
大学院生	原田 麗乃	歯科材料製品の物性調査と改良研究

2. 成果の概要

1) 歯科材料製品の物性調査と改良研究

セルフアドヒーシブレジンセメントと従来型接着性レジンセメント（以降 従来型セメント）を用いてファイバーポストを牛歯歯根に合着し、そのポストの維持力に及ぼす保存期間および熱的ストレスの影響を検討した。従来型セメントのエッチングと水洗、またはセルフエッチングプライマーで歯質を前処理するタイプでは接着初期より高い維持力を示し、熱的ストレスの影響も少なかった。一方で、セルフアドヒーシブレジンセメントは接着初期にはポストの維持力が従来型のセメントより劣るものの、14日の保存により従来型のセメントと同程度の維持力が得られた。また、熱的ストレスはポストの維持力に影響を及ぼさないことを明らかにした。

Dent Mater J 32(4):659-666, 2013.

正方晶ジルコニアにベニア陶材との焼き付け強さを向上させることを目的として、ジルコニアとベニア陶材との間に中間セラミックス（二ケイ酸リチウム粉末または長石系陶材粉末）を介してその焼付強さに及ぼす影響を検討した。その結果、中間セラミックスの焼成温度が高くて剪断焼付強さが大きくなった。特に、二ケイ酸リチウム粉末を焼成した場合で大きく、EPMAでの表面分析の結果、二ケイ酸リチウムがジルコニア表面に残存していることを明らかにした。これらのことから、高強度二ケイ酸リチウムを高温で中間セラミックスとしてジルコニアに焼き付けることにより、ジルコニアへのベニア陶材の焼付強さを向上させることができることを明らかにした。

Dent Mater J 32(5):734-743, 2013.

2) 歯科用合金の電気化学的耐食性に関する研究, Ti系合金の口腔環境下での界面反応の解明, 歯科鑄造用チタン合金の開発

7種類のチタン合金を過酸化水素含有酸性生理食塩水に浸漬し、その変色および表面構造を調べた。Ti-55Ni合金は変色も溶出も多かったが、他の合金は変色が大きくても溶出は少なかった。変色が認められた純チタン表面には厚い酸化層が形成していた。これらのことから、酸性過酸化水素溶液中では酸化物の厚みの増加によって変色が起こることを明らかにした。

Dent Mater J 32(1), 19-24, 2013

アルカリ性過酸化水素含有義歯洗浄剤に4種類のチタン合金を浸漬し、その変色程度と光沢度の変化を評価するとともにその表面特性を調べた。義歯洗浄剤に浸漬した純チタンは浸漬時間が長いと色差が大きくなり、光沢度の低下が認められた。表面分析の結果、変色程度の大きかったTi-6Al-4V合金およびTi-6Al-7Nb合金表面は主にチタン酸化物で構成され、その酸化物層の厚みは純チタンの4倍以上であったが、変色程度の小さかったTi-20Cr合金の酸化物層の厚みは純チタンの約1/3であった。このことから、アルカリ性過酸化水素系義歯洗浄剤に浸漬したチタン合金は過酸化水素の酸化反応によって表面が酸化されるが、Ti-20Cr合金では酸化による影響が少ないことが明らかになった。

日本歯科理工学会雑誌 32(3), 213-219, 2013.

3) ジルコニアセラミックスのインプラントへの応用

ジルコニアセラミックス、特に正方晶安定型ジルコニアは、高強度で耐久性に富むセラミックスとして、生体材料への応用が期待されている。しかし、本材料を生体用、特に歯科インプラント材料として応用する場合、骨伝導性、生物学的封鎖性、バイオフィーム形成阻止能など、解決すべき問題が山積している。本研究は、現在までのチタンの生体機能化に関する研究成果を活かし、ジルコニアに対して骨伝導性の付与、機能性タンパク、接着性タンパク、各種薬剤の固定化をはかり、生体材料への応用の可能性を検討する。昨年度に引き続き以下を検討した。

ジルコニアに骨形成能を付与する表面改質
ジルコニアの生体環境下における疲労特性
ジルコニアに対するベニア陶材の焼付強度

日本口腔インプラント学会雑誌 26:3-12, 2013.

Dent Mater J 32(5):1-10, 2013.

Biomed Mater 9 (2014) 025005 (8pp) doi:10.1088/1748-6041/9/2/025005.

Dent Mater J 33:39-47, 2014.

Int J Prosthodont Restor Dent 3:92-95, 2013.

4) Tissue Engineering用Scaffoldの生体機能化ータンパク質固定化技術の確立ー

(1) スタチン系薬剤の骨形成能

スタチン系薬剤は骨粗鬆症モデルラットの骨系に有効に作用することが明らかとなった、

J Hard Tissue Biology 22: 301-310, 2013.

J Hard Tissue Biology 22: 451-454, 2013.

J Hard Tissue Biology 22: 461-472, 2013.

(2) チタンイオンによる炎症性サイトカインの発現が調査された。

Int J Oral Maxillofac Imp 29:472-477, 2014.

5) インプラント埋入に伴う顎骨生体アパタイト配向性の変化

顎骨の生体アパタイト配向性は顎骨の力学的性質（ヤング率）と正の相関があることを明らかにした。

J Hard Tissue Biol 22:163-170, 2013.

3. 学外共同研究

担当者	研究課題	学外研究施設		
		研究施設	所在地	責任者

小田 豊 服部 雅之	歯科用CAD/CAMの光造形複合加工への展開	松浦機械製作所	福井市	天谷 浩一
武本 真治	歯科インプラントの表面処理による石灰化促進とその評価	ナイメヘン大学生体材料	Nijmegen, The Nether- land	Jansen JA Leeuwenburgh SCG

4. 科学研究費補助金・各種補助金

研究代表者	研究課題	研究費
服部 雅之	歯科用CAD/CAMの積層造形への展開	私立大学経常費補助金特別補助・大学間連携等による共同研究
武本 真治	歯周病原性菌の付着によるチタン合金の初期腐食評価	文部科学省科学研究費補助金・若手研究(B)

5. 研究活動の特記すべき事項

受賞

受賞者名	年月日	賞名	テーマ	学会・団体名
武本 真治	2013. 4.13	発表優秀賞	フッ化物溶液中でのTi-Nb-Ta-Zr合金の電気化学腐食挙動	第61回日本歯科理工学会学術講演会・日本歯科理工学会

学会招待講演・特別講演・教育講演

講演者	年月日	演題	学会名	開催地
小田 豊	2013.10.20	チタンの歯科応用の最前線	第296回東京歯科大学会	東京都千代田区
小田 豊	2013.11.19	チタンの歯科応用とCAD/CAMへの展開	北海道医療大学歯学会	札幌市

学術学会に相当しない団体が開催するセミナー・研究会・カンファレンス等における発表・講演

講演者	年月日	演題	会合の名称	開催地
小田 豊	2013. 4.11	歯科チタンの現況と展望	第541回歯科理工学懇話会	名古屋市
小田 豊	2013.11.16	Ti-Cr合金の歯科応用に向けて	金属光造形複合加工医療機器フォーラム第5回シンポジウム	東京都大田区
小田 豊	2013.11.20	歯科用CAD/CAM の積層造形への展開	北海道機械工業会主催 2013ものづくり技術セミナー	札幌市
小田 豊	2014. 3.14	破折歯接着修復へのアプローチ	585回理工懇談会	東京都千代田区
小田 豊	2014. 3.15	歯科医療機器の開発と国際規格	アジアデンタルフォーラム 2014 シンポジウム	東京都千代田区
服部 雅之	2014. 3. 6	高耐食チタン合金の特性と歯科臨床応用への展開	公益社団法人砥粒加工学会 次世代固定砥粒加工プロセス専門委員会第53回研究会	東京都千代田区

6. 教育に関する業績、活動

医学教育・歯学教育に関連する講演

講演者	年月日	演題	学会・研究会名	開催地
河田 英司	2013. 8.30-31	東京歯科大学の15年	大阪歯科大学FDワークショップ	大阪市

教育ワークショップ・FD 研修

氏名	年月日	ワークショップ名	役割	開催地
服部 雅之	2013. 9.27	平成25年度教育ワークショップ	委員	東京都 千代田区

共用試験

氏名	年月日	種別	役割	開催地
河田 英司	2013. 4.27	CBT問題作成のためのワークショップ(岩手医科大学)	講師	盛岡市
河田 英司	2014. 2.20	平成25年度東京歯科大学 第4学年CBT	実施委員長	東京都 千代田区
河田 英司	2014. 2.23	平成25年度東京歯科大学 第4学年OSCE本試験	実施委員長	東京都 千代田区
河田 英司	2014. 3.12	平成25年度東京歯科大学 第4学年CBT追・再試験	実施委員長	東京都 千代田区
服部 雅之	2014. 2.20	平成25年度東京歯科大学 第4学年CBT	サイト マネージャー	東京都 千代田区
服部 雅之	2014. 3.12	平成25年度東京歯科大学 第4学年CBT追・再試験	サイト マネージャー	東京都 千代田区

原著/原著論文 6

25008001 原著/原著論文

Yu SH1), Ahn DH2), Park JS3), Chung YS4), Han IS5), Lim JS6), Oh S1), Oda Y7), Bae JM1).

Comparison of denture base resin reinforced with polyaromatic polyamide fibers of different orientations.

Dent Mater J, 32(2), 332-340, 2013.

1) Department of Dental Biomaterials and Institute of Biomaterials・Implant, College of Dentistry, Wonkwang Univ., 2) College of Dentistry, Wonkwang Univ., 3) Iksan Health Center., 4) Department of Textile Engineering, Chonbuk National Univ.、5) Engineering Research Institute, Kolon Central Research Park, Kolon Industries, Inc.、6) Functional Film&Sheet (FFS) Team, R&D Center, LG Hausys Ltd.、7) 東京歯科大学歯科理工学
DOI : 10.4012/dmj.2012-235 PubMed ID : 23538771

25008011 原著/原著論文

小田豊、服部雅之、副島寛貴、原田麗乃、河田英司、吉成正雄

ファイバーポストを用いた支台築造体の破断強度

日本歯科産業学会誌, 27(1), 31-37, 2013.

東京歯科大学歯科理工学

医中誌 ID : 2014016668

25008012 原著/原著論文

武本真治、服部雅之、吉成正雄、河田英司、小田豊

アルカリ性過酸化水素系義歯洗浄剤中でのチタン合金の変色とその表面分析

日本歯科理工学会誌, 32(3), 213-219, 2013.

東京歯科大学歯科理工学

医中誌 ID : 2013327184

25008014 原著/原著論文

Hattori M, Oda Y.

EQCM analysis of titanium corrosion in peroxide- or fluoride-containing solutions.

Bull Tokyo Dent Coll, 54(3), 135-140, 2013.

東京歯科大学歯科理工学

PubMed ID : 24334626 医中誌 ID : NB15060002

25008015 原著/原著論文

Soejima H, Takemoto S, Hattori M, Yoshinari M, Kawada E, Oda Y.

Effect of adhesive system on retention in posts comprising fiber post and core resin.

Dent Mater J, 32(4), 659-666, 2013. 学位論文 (甲)

東京歯科大学歯科理工学

PubMed ID : 23903651 医中誌 ID : N808260020

25502005 原著/原著論文

Matsumoto N1)2), Yoshinari M1)2), Takemoto S2), Hattori M2), Kawada E2), Oda Y2).

Effect of intermediate ceramics and firing temperature on bond strength between tetragonal zirconia polycrystal and veneering ceramics.

Dent Mater J, 32(5), 1-10, 2013.

1) 東京歯科大学口腔科学研究センター・口腔インプラント研究部門、2) 東京歯科大学歯科理工学

DOI : 10.4012/dmj.2013-070 PubMed ID : 24088828

原著/臨床研究論文 1

25008020 原著/臨床研究論文

吉山昌宏1)、小田豊2)、山本一世3)、今里聡4)、中村洋5)、川浪雅光6)、菅谷勉6)、林美加子7)、西谷佳浩1)

接着技法を応用した破折歯の治療術式の検討

日本歯科医学会誌, 33, 69-73, 2014.

1) 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科歯科保存修復学、2) 東京歯科大学歯科理工学、3) 大阪歯科大学歯科保存学、4) 大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学、5) 愛知学院大学歯学部歯内療法学、6) 北海道大学大学院歯学研究科口腔健康科学、7) 大阪大学大学院歯学研究科口腔分子感染制御学

医中誌 ID : 2014192184

解説 5

25008002 解説

小田豊

積層造形技術

バイオマテリアル-生体材料, 31(4), 212-219, 2013.

東京歯科大学歯科理工学

医中誌 ID : 2014184086

25008003 解説

小田豊、服部雅之

接着修復した破折歯の耐久性評価 ファイバーポストによる支台築造の有用性を巡って
補綴臨床, 46(6), 660-664, 2013.

東京歯科大学歯科理工学

医中誌 ID : 2014063696

25008017 解説

小田豊、服部雅之

歯科用CAD/CAM 切削加工から三次元造形へ
補綴臨床, 47(1), 50-56, 2013.

東京歯科大学歯科理工学

医中誌 ID : 2014107849

25008018 解説

小田豊

ファイバーの種類と性質

日本歯科理工学会誌, 32(6), 433-436, 2013.

東京歯科大学歯科理工学

医中誌 ID : 2014201347

25502020 解説

吉成正雄1)2)

ジルコニアのインプラントへの応用の可能性

歯科学報, 113(5), 485-494, 2013.

1) 東京歯科大学口腔科学研究センター・口腔インプラント研究部門、2) 東京歯科大学歯科理工学

医中誌 ID : 2014086262

学会発表・口演 5

25008006 学会発表・口演

吉成正雄1)2)、原田麗乃1)、副島寛貴1)、武本真治1)、服部雅之1)、河田英司1)、小田豊1)

表面を粗造化したジルコニアの静的強さと疲労強さ

日本歯科理工学会誌, 32(5), 379, 2013.

第62回日本歯科理工学会学術講演会 新潟市

1) 東京歯科大学歯科理工学、2) 東京歯科大学口腔科学研究センター・口腔インプラント研究部門

医中誌 ID : 2014147526

25008007 学会発表・口演

副島寛貴、河田英司、小田豊

ファイバーポストの維持力に及ぼす直接法・直接間接法の影響

第138回日本歯科保存学会2013年度春季学術大会プログラムおよび講演抄録集, 39, 2013.

第138回日本歯科保存学会2013年度春季学術大会 福岡市

東京歯科大学歯科理工学

医中誌 ID : 2014081815

25008010 学会発表・口演

小田豊、服部雅之、副島寛貴、河田英司、吉成正雄

ファイバーポストを用いた支台築造体の破断強度

日本歯科産業学会誌, 27(1), 63, 2013.

第28回日本歯科産業学会・学術講演会 郡山市

東京歯科大学歯科理工学

医中誌 ID : 2014016678

25008013 学会発表・口演

服部雅之、原田麗乃、副島寛貴、吉成正雄、河田英司、小田豊

新規硬質レジンシステムと金銀パラジウム合金の接着耐久性

歯科学報, 13(2), 197, 2013.

第296回東京歯科大学学会（総会） 千葉市

東京歯科大学歯科理工学

医中誌 ID : 2013301732

25404002 学会発表・口演

望月隆二1)8)、平田創一郎2)8)、山本仁3)8)、加藤哲男4)、橋本正次5)、河田英司6)8)、井出吉信7)

高学年で伸びるための初年次教育

第32回日本歯科医学教育学会総会および学術大会プログラム・抄録集, 77, 2013.

日本歯科医学教育学会 札幌市

1) 東京歯科大学物理学、2) 東京歯科大学社会歯科学、3) 東京歯科大学口腔超微構造学、4) 東京歯科大学化学、5) 東京歯科大学法人人類学、6) 東京歯科大学歯科理工学、7)

東京歯科大学、8) 東京歯科大学医学教育開発センター

医中誌 ID : 2014045858

学会発表・示説 4

25008008 学会発表・示説

服部雅之、武本真治、吉成正雄、河田英司、小田豊

新規硬質レジンシステムの接着耐久性 リテンションビーズの有無について

日本歯科理工学会誌, 32(2), 156, 2013.

第61回日本歯科理工学会学術講演会 東京都江戸川区

東京歯科大学歯科理工学

医中誌 ID : 2014043143

25008016 学会発表・示説

Oda Y, Takemoto S, Hattori M, Soejima H, Yoshinari M, Kawada E.

Corrosion behavior of dental alloys in Albumin- and Peroxide-containing solution.

The 2nd Meeting of the International Association of Dental Research - Asia Pacific Region (IADR-APR) Scientific Program, 2013.

The 2nd Meeting of the International Association of Dental Research - Asia Pacific Region (IADR-APR) Bangkok, Thailand

東京歯科大学歯科理工学

25011008 学会発表・示説

平田創一郎1)2)3)、小川哲次2)、尾崎哲則2)、樫則章2)、木尾哲朗2)、山本龍生2)、

平田幸夫1)、山本仁3)4)、高橋俊之3)5)、杉原直樹3)6)、上田貴之7)、河田英司3)8)

歯科学学生のための倫理・プロフェッショナリズム教育用ツールに関する考察

第32回日本歯科医学教育学会総会および学術大会プログラム・抄録集, 104, 2013.

第32回日本歯科医学教育学会総会および学術大会 札幌市

1) 東京歯科大学社会歯科学、2) 日本歯科医学教育学会、3) 東京歯科大学歯科医学教育開発センター、4) 東京歯科大学口腔超微構造学、5) 東京歯科大学千葉病院総合診療

科、6) 東京歯科大学歯科衛生学、7) 東京歯科大学有床義歯補綴学、8) 東京歯科大学歯科理工学

医中誌 ID : 2014045907

25114014 学会発表・示説

亀山敦史1)、春山亜貴子1)、加藤広之2)、大久保信貴3)、武本真治4)、服部雅之4)、河田英司4)、小田豊4)、高橋俊之1)、石井拓男2)5)、齋藤淳3)

保存科臨床実習における「歯科理工学と保存修復学との連携講義」および「個別問題演習とグループ討議を組み合わせた協同学習」について

歯科学報, 113(2), 211, 2013.

第295回東京歯科大学学会（例会） 千葉市

1) 東京歯科大学千葉病院総合診療科、2) 東京歯科大学歯科保存学、3) 東京歯科大学歯周病学、4) 東京歯科大学歯科理工学、5) 東京歯科大学社会歯科学
医中誌 ID : 2013301761

学会発表・特別講演 2

25008004 学会発表・特別講演

小田豊

チタンの歯科応用の最前線

歯科学報, 113(4), 417, 2013.

第296回東京歯科大学学会（総会） 東京都千代田区

東京歯科大学歯科理工学

医中誌 ID : 2014135644

25502019 学会発表・特別講演

吉成正雄1)2)

オッセオインテグレーションの本態とそれを決めるインプラント表面因子

神奈川歯学, 48, 3, 2013.

横須賀市

1) 東京歯科大学口腔科学研究センター・口腔インプラント研究部門、2) 東京歯科大学歯科理工学

医中誌 ID : 2014103340

衛生学講座

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

教 授	松久保 隆	咬合咀嚼機能の客観的および主観的評価に関する研究 (A92-0260-4) 全身機能にかかわる口腔機能(咬合・咀嚼)の解析 (A01-0260-1) 口腔保健情報のデータベース構築とその活用 (A92-0260-5) 学齢期の食育と口腔機能に関連する要因について (A92-0206-4)
准 教 授	杉原 直樹	根面う蝕のコホート研究に基づいたう蝕予防ガイドラインの作成
助 教	石塚 洋一	老化促進モデルマウス (SAM) P8 の顎関節軟骨退行性変化における <i>Ihh</i> シグナリングの関与
大学院生	佐藤 涼一	時計遺伝子 <i>BMAL1</i> プロモーター領域の DNA メチル化

2. 成果の概要

1) 根面う蝕のコホート研究に基づいたう蝕予防ガイドラインの作成

健康な 60 ～ 94 歳の 153 名を解析した。根面う蝕のリスクファクターとしては、歯肉退縮が多いこと、歯周疾患の罹患歯が多いこと、口渇があることであり、歯肉退縮のリスクファクターとしては、居住環境 (施設入所)、現在歯数が多いこと、喫煙習慣であった。産業歯科健診事業を受診した者で 5 年後を追跡することができた 20 ～ 50 歳代の男性 118 名、女性 23 名を調査した。5 年間で新たなう蝕発病のあった者となかった者について、単ロジスティック回帰分析の結果、調査開始時の年齢群が高く、調査開始時に歯肉退縮が有る者、調査開始時に根面う蝕の経験のある者ほど、有意に 5 年後の根面う蝕の発病が起こることが示された。

平成21-25年度科学研究費助成事業 研究成果報告書

2) 老化促進モデルマウス (SAM) P8 の顎関節軟骨退行性変化における *Ihh* シグナリングの関与

本研究では、下顎頭軟骨の退行性変化や変形性顎関節症の発症、進行における Indian hedgehog (*Ihh*) シグナリングの変化を検討した。変形性顎関節症を自然発症する老化促進モデルマウス (Senescence-Accelerated Mouse : SAM) P8 の下顎頭軟骨を形態、組織学的および分子生物学的に詳細に解析した結果、SAMP8 の下顎頭軟骨における初期の退行性変化には *Ihh* シグナリングの減少が関与し、歯の削合による咬合異常によって下顎頭軟骨の退行性変化が促進されることが示唆された。

J Dent Res 93(3):281-287, 2014.

3) 時計遺伝子 *BMAL1* プロモーター領域の DNA メチル化

近年、すべての生物は体内時計を持ち、それが睡眠や唾液分泌などの生理現象や疾患等にも関与していることが知られている。先の研究よりヒト白血病細胞株 (CPT-K) の概日リズムを測定した結果、リズムが消失しているという新知見を得た。本研究は CPT-K のリズム形成の核となる時計遺伝子 4 種 (*BMAL1*、*PERIOD*、*CLOCK*、*CRYPTOCHROME*) のプロモーター領域 DNA メチル化を解析し概日リズムと時計遺伝子プロモーター領域 DNA メチル化との関係性を検討した。Bisulfite sequence 法にて *BMAL1* プロモーター領域を解析した結果 CpG アイランドが高メチル化されていた。脱メチル化剤 5-aza-2'-デオキシシチジン (aza-dC) によって *BMAL1* の発現が回復することから、CPT-K 細胞における *BMAL1* 遺伝子の発現抑制は、プロモーター領域の高メチル化によるものであることが示唆された。

Biochem Biophys Res Comm 440:449-453, 2013.

3. 学外共同研究

担当者	研究課題	学外研究施設		
		研究施設	所在地	責任者
松久保 隆	日本および韓国の口腔保健状態の比較研究	延世大学歯科大学校	ソウル、大韓民国	Kim BI
松久保 隆	QLF診査機器の予防歯科臨床における有用性	延世大学歯科大学校	ソウル、大韓民国	Kim BI
石塚 洋一	老化促進モデルマウス(SAM)P8の顎関節軟骨退行性変化におけるIhhシグナリングの関与	Children's hospital of Philadelphia	Philadelphia, USA	小山 英樹
佐藤 涼一	時計遺伝子 <i>BMAL1</i> プロモーター領域のDNAメチル化	独立行政法人産業技術総合研究所	つくば市	大西 芳秋

4. 科学研究費補助金・各種補助金

研究代表者	研究課題	研究費
杉原 直樹	根面う蝕のコホート研究に基づいたう蝕予防ガイドラインの作成	文部科学省科学研究費補助金・基盤研究(C)

5. 研究活動の特記すべき事項

学会・研究会主催

主催者名	年月日	学会・研究会名	会場	開催地
松久保 隆	2014. 1.25	第3回口腔保健用機能性食品研究会・総会	東京歯科大学水道橋校舎本館	東京都千代田区

シンポジウム

シンポジスト	年月日	演題	学会・研究会名	開催地
松久保 隆	2013. 5.15	フッ化物含有歯科材料を用いたう蝕ハイリスク部位の歯質強化および再石灰化療法	第62回日本口腔衛生学会・総会自由集会	松本市

学会招待講演・特別講演・教育講演

講演者	年月日	演題	学会名	開催地
松久保 隆	2013.10.19	歯科疾患の疾病構造の変化と口腔衛生	第296回東京歯科大学学会(総会)	東京都千代田区
松久保 隆	2013.10.26	How to Detect Tooth Surfaces with High Caries Risk in a Series of Preventive Procedures in Clinics	大韓口腔保健学会	ソウル、大韓民国

学術学会に相当しない団体が開催するセミナー・研究会・カンファレンス等における発表・講演

講演者	年月日	演題	会合の名称	開催地
-----	-----	----	-------	-----

松久保 隆	2013. 7.25	「口腔衛生学の目指すところ ～むし歯予防から口腔ケアまで～」～疫学・統計調査データの臨床での活用～	滋賀県歯科医師会学校歯科医研修会	大津市
松久保 隆	2013.11.20	歯科口腔保健の新しい潮流	市川市歯科医師会講演	市川市
松久保 隆	2013.12. 8	疫学・統計調査データの臨床での活用	千葉県歯科医師会平成25年度かかりつけ歯科医研修会	千葉市
杉原 直樹	2014. 1.29	歯科疾患予防の科学的根拠を問う	練馬区歯科医師会公衆衛生講演会	東京都練馬区
松久保 隆	2014. 2.24	歯・口腔を清潔に保つことは国民の健康を推進する基本的要素/学校歯科健診と事後措置のための学習Webソフトの紹介	杉並区学校歯科医会講演会	東京都杉並区

6. 教育に関する業績、活動

教育ワークショップ・FD 研修

氏名	年月日	ワークショップ・研修会名	役割	開催地
杉原 直樹	2013. 8.17-18	平成25年度第2回共用試験歯学系OSCE外部評価者養成ワークショップ(ワークショップ2)	受講者	仙台市
杉原 直樹 石塚 洋一	2013. 9.27	平成25年度教育ワークショップ『クリッカー』を含めた新たな能率的学習手法について	委員	東京都千代田区
杉原 直樹	2013.10. 6	第12回東京歯科大学 試験問題作成に関するワークショップ	タスクフォース	東京都千代田区
石塚 洋一	2013. 9.27	平成25年度教育ワークショップ 学生支援・サポート体制のありかたについて	学生サポート委員会委員	東京都千代田区
石塚 洋一	2013.10. 5	第11回 東京歯科大学 試験問題作成に関するワークショップ	受講者	東京都千代田区
石塚 洋一	2014. 2.14-15	ワークショップ 歯科医療人育成におけるプロフェッショナルリズム教育の方略を考える	受講者	北九州市

共用試験

氏名	年月日	種別	役割	開催地
杉原 直樹	2014. 1.11-12	2014年度共用試験歯学系OSCE	外部評価者	名古屋市
杉原 直樹	2014. 2.20	平成25年度東京歯科大学 第4学年CBT	試験問題選定委員 共用試験実施委員会 CBT小部会部会員	東京都千代田区
杉原 直樹	2014. 2.22-23	平成25年度東京歯科大学 第4学年OSCE	課題責任者	東京都千代田区
杉原 直樹	2014. 3.12	平成25年度東京歯科大学 第4学年CBT追・再試験	試験問題選定委員共用 試験実施委員会CBT小部会部会員	東京都千代田区
石塚 洋一	2014. 2.22-23	平成25年度東京歯科大学 第4学年OSCE	補助係	東京都千代田区

杉原 直樹	2014. 3.13	平成25年度東京歯科大学 第4学年OSCE追・再試験	課題責任者	東京都千代田区
-------	------------	----------------------------	-------	---------

教育用ソフトウェア・ハードウェアの開発

氏名	年月日	種別	名称・内容
衛生学講座	2013. 7. 9	Webソフト	歯科健康診断（検診）後の事後措置と保健指導

7. 社会的貢献・社会に対する活動

医学の啓蒙を目的とする講演会（市民を対象とするもの）

講演者	年月日	演題	講演会名	開催地
杉原 直樹	2013.12.14	むし歯と砂糖の話ーむし歯にならないためのお菓子の知識ー	東京歯科大学入試ガイダンス 模擬授業	東京都千代田区
杉原 直樹	2014. 1.24	健康寿命はお口からー口と全身の健康についてー	目黒区高齢者センター公開講座	東京都目黒区
石塚 洋一	2013. 7.16	さわやかなお口で健康ライフ！ ～口臭撃退法と歯周病の予防～	東京歯科大学平成25年市民公開講座	千葉市
石塚 洋一	2013.11.16	歯周病の予防で健康ライフ	東京歯科大学出張公開講座	千葉市
石塚 洋一	2013.11.27	知っていますか？歯周病と糖尿病の深い関係！	足立区足立保健所千住保健総合センター平成25年度歯周病予防セミナー	東京都足立区

原著/原著論文 5

25009019 原著/原著論文

Yoshino K1)2), Ishizuka Y1), Sugihara N1), Kariya N2), Namura D2), Noji I2), Mitsuhashi K2), Kimura H2), Fukuda A2), Kikukawa I2), Hayashi T2), Yamazaki N2), Kimura M2), Tsukiyama K2), Yamamoto K2), Fukuyama A2), Hidaka D2), Shinoda J2), Mibu H2), Shimakura Y2), Saito A2), Ikumi S2), Umehara K2), Kamei F2), Fukuda H2), Toake T2), Takahashi Y2), Miyata Y2), Shioji S2), Toyoda M2), Hattori N2), Nishihara H2), Matsushima R2), Nishibori M2), Hokketo O2), Nojima M2), Kimura T2), Fujiseki M2), Okudaira S2), Tanabe K2), Nakano M2), Ito K2), Kuroda M2), Fukai K3), Matsukubo T1).

Gender difference in tooth autotransplantation with complete root formation: a retrospective survey.

J Oral Rehabil, 40(5), 368-374, 2013.

1) 東京歯科大学歯科学、2) 黒田デンタルクリニック、3) 深井保健科学研究所

DOI : 10.1111/joor.12038 PubMed ID : 23438017

25009021 原著/原著論文

Satou R1), Sugihara N1), Ishizuka Y1), Matsukubo T1), Onishi Y2).

DNA methylation of the BMAL1 promoter.

Biochem Biophys Res Commun, 440(3), 449-453, 2013.

1) 東京歯科大学歯科学、2) 産業技術総合研究所/バイオメディカル研究部門

DOI : 10.1016/j.bbrc.2013.09.124 PubMed ID : 24103761

25104029 原著/原著論文

Ishioka M1), Ishizuka Y2), Shintani S1), Yanagisawa T3), Inoue T4), Sasaki J5), Watanabe H6).

Expression profiles of NOS isoforms in gingiva of nNOS knockout mice.

Tissue Cell, 46(2), 122-126, 2014. 学位論文 (甲)

1) 東京歯科大学小児歯科学、2) 東京歯科大学歯科学、3) 東京歯科大学口腔超微構造学、4) 東京歯科大学臨床検査病理学、5) 新見公立大学看護学部看護学科、6) 奥羽大学歯学部生体構造学口腔組織学

DOI : 10.1016/j.tice.2013.12.003 PubMed ID : 24657074

25108004 原著/原著論文

Takuma Y1), Nomoto S1), Sato T1), Sugihara N2).

Effect of framework design on fracture resistance in zirconia 4-unit all-ceramic fixed partial dentures.

Bull Tokyo Dent Coll, 54(3), 149-156, 2014.

1) 東京歯科大学クラウンブリッジ補綴学、2) 東京歯科大学歯科学

DOI : 10.2209/tdcpublication.54.149 PubMed ID : 24334628

25108008 原著/原著論文

三穂乙暁1)、佐藤亨1)、松久保隆2)、後藤泰信3)

かたさの異なるガムによる咀嚼運動の解析

歯科学報, 113(4), 377-382, 2013.

1) 東京歯科大学クラウンブリッジ補綴学、2) 東京歯科大学歯科学、3) 株式会社ロッテ中央研究所

医中誌 ID : 2014135634

原著/症例報告論文 1

25009020 原著/症例報告論文

Yoshino K1), Taniguchi Y2), Yoda Y2), Matsukubo T1).

Autotransplantation of tooth by osteotome sinus floor elevation technique with beta-tricalcium phosphate (β -TCP) .

J Oral Maxillofac Surg Med Pathol, 25(4), 351-354, 2013.

1) 東京歯科大学歯科学、2) 依田歯科医院

DOI : 10.1016/j.ajoms.2012.08.018

原著/臨床研究論文 1

25206001 原著/臨床研究論文

Kishikawa H1), Kaida S1), Takarabe S1), Miyoshi J1), Matsukubo T2), Miyauchi J3), Tanaka Y3), Miura S4), Nishida J1).

Fundic gland polyps accurately predict a low risk of future gastric carcinogenesis.

Clin Res Hepatol Gastroenterol, 2014.

1) 東京歯科大学市川総合病院消化器内科、2) 東京歯科大学衛生学、3) 東京歯科大学市川総合病院臨床検査科、4) 防衛医科大学校内科

DOI : 10.1016/j.clinre.2014.01.008 PubMed ID : 24637176

解説 2

25009001 解説

吉野浩一、石塚洋一、杉原直樹、松久保隆

歯科医療における疫学データの活用 歯のパーセントイル曲線を用いた口腔保健指導

日本歯科医師会雑誌, 66(4), 365-372, 2013.

東京歯科大学衛生学

医中誌 ID : 2013330193

25009003 解説

吉野浩一

調査結果報告 インプラントは対合歯や隣接歯の喪失を早めるのか？

歯界展望, 122(1), 26-29, 2013.

東京歯科大学衛生学

医中誌 ID : 2013274487

学会発表・口演 4

25009006 学会発表・口演

石塚洋一1)、亀山敦史2)、富田幸代3)、杉原直樹1)、杉山利子2)、齋藤淳3)、松久保隆1)

臨床実習における「口臭に関する講義および口臭検査実習」の教育効果

歯科学報, 113(2), 211, 2013.

第296回東京歯科大学学会（総会） 千葉市

1) 東京歯科大学衛生学、2) 東京歯科大学千葉病院総合診療科、3) 東京歯科大学歯周病学

医中誌 ID : 2013301760

25009011 学会発表・口演

佐藤涼一1)、杉原直樹1)、石塚洋一1)、松久保隆1)、大西芳秋2)

時計遺伝子BMAL1プロモーター領域のDNAメチル化

歯科学報, 113(4), 424, 2013.

第296回東京歯科大学学会（総会） 東京都千代田区

1) 東京歯科大学衛生学、2) 産業技術総合研究所バイオメディカル研究部門

医中誌 ID : 2014135652

25009024 学会発表・口演

石塚洋一1)、亀山敦史2)、杉原直樹1)、杉山利子2)、角田正建2)

臨床実習期間中における「口臭に関する講義および実習」の教育効果

日本口臭学会第4回学術大会プログラム・抄録集, 33, 2013.

日本口臭学会第4回学術大会 横浜市

1) 東京歯科大学衛生学、2) 東京歯科大学千葉病院総合診療科

25114017 学会発表・口演

亀山敦史1)、杉山利子1)、山倉大紀1)、石塚洋一2)、角田正健1)

東京歯科大学千葉病院口臭外来受診者における口臭測定結果と口腔内不快症状との関連性

日本口臭学会会誌, 5(1), 48, 2013.

日本口臭学会第4回学術大会 横浜市

1) 東京歯科大学千葉病院総合診療科、2) 東京歯科大学衛生学

学会発表・示説 10

25009002 学会発表・示説

吉野浩一、松久保隆

成人の咬合支持数のパーセントイル曲線

口腔衛生学会雑誌, 63(2), 193, 2013.

第62回日本口腔衛生学会・総会 松本市

東京歯科大学衛生学

医中誌 ID : 2013267225

25009004 学会発表・示説

浮谷得子1)2)、石塚洋一1)、佐藤涼一1)、今井光枝1)、櫻井美和1)、杉原直樹1)、茂木悦子3)、松久保隆1)

小学生の食品受容応答に関連する要因について 市川市すこやか口腔健診の結果から

口腔衛生学会雑誌, 63(2), 170, 2013.

第62回日本口腔衛生学会・総会 松本市

1) 東京歯科大学衛生学、2) 市川市歯科医師会、3) 東京歯科大学歯科矯正学

医中誌 ID : 2013267179

25009007 学会発表・示説

杉原直樹1)、眞木吉信2)、松久保隆1)

老年者における歯肉退縮の有病と関連する要因

口腔衛生学会雑誌, 63(2), 200, 2013.

第62回日本口腔衛生学会・総会 松本市

1) 東京歯科大学衛生学、2) 東京歯科大学社会歯科学

医中誌 ID : 2013267235

25009008 学会発表・示説

石塚洋一1)、杉原直樹1)、佐藤涼一1)、今井光枝1)、吉野浩一1)、鏡宜昭1)、松久保隆1)、中野田紳一2)

学校歯科保健の教育のためのWeb教材の開発

口腔衛生学会雑誌, 63(2), 166, 2013.

第62回日本口腔衛生学会・総会 松本市

1) 東京歯科大学衛生学、2) 株式会社インサイドフィールド

医中誌 ID : 2013267171

25009009 学会発表・示説

杉原直樹1)、柴田力2)、石塚洋一1)、松久保隆1)

介護施設入所者における歯科訪問診療前後でのADLおよびQOLの変化に影響する要因

老年歯科医学, 28(2), 187, 2013.

日本老年歯科医学会第24回学術大会 大阪市

1) 東京歯科大学衛生学、2) 千葉県

医中誌 ID : 2014135563

25009010 学会発表・示説

石塚洋一1)、江川昌宏2)、野田克哉2)、衣松高志2)、太田幹夫2)、稲垣寛3)、小川貴也3)、松久保隆1)、齋藤淳2)

歯周病学講座ポストグラデュエートコース第15期生による症例提示 広汎型中等度慢性歯周炎患者の2壁性骨欠損に歯周組織再生誘導法を行った一症例

歯科学報, 113(4), 439, 2013.

第296回東京歯科大学学会（総会） 東京都千代田区

1) 東京歯科大学歯生学、2) 東京歯科大学歯周病学、3) 東京都

医中誌 ID : 2014135682

25009022 学会発表・示説

Satou R1), Sugihara N1), Matsukubo T1), Onishi Y2).

DNA methylation of the BMAL1 promoter.

第36回日本分子生物学会年会プログラム, 2013.

第36回日本分子生物学会年会 神戸市

1) 東京歯科大学歯生学、2) 産業技術総合研究所バイオメディカル研究部門

25102017 学会発表・示説

大久保信貴1)、備前島崇浩1)、石塚洋 一2)、齋藤淳1)

ラット口蓋歯肉の創傷治癒へのキトサン由来止血材応用効果に関する研究

日本歯科保存学会2013年度秋季学術大会（第139回）プログラムおよび講演抄録集, 218, 2013.

日本歯科保存学会2013年度秋季学術大会（139回） 秋田市

1) 東京歯科大学歯周病学、2) 東京歯科大学歯生学

医中誌 ID : 2014184443

25104028 学会発表・示説

石岡みずき1)、石塚洋一2)、渡邊弘樹3)、新谷誠康1)

NOS1欠損マウス歯肉における各種NOSおよびSODの発現

小児歯科学雑誌, 51(2), 286, 2013.

第51回日本小児歯科学会大会 岐阜市

1) 東京歯科大学小児歯科学、2) 東京歯科大学歯生学、3) 奥羽大学歯学部生体構造学口腔解剖学

医中誌 ID : 2014043334

25107017 学会発表・示説

戸村恭子1)、大神浩一郎1)、古池崇志1)、横本満洋1)、上田貴之1)、古賀寛2)、眞木吉信3)、櫻井薫1)

象牙質知覚過敏症治療剤によるフッ化物イオン取込み量および深さ

老年歯科医学, 28(2), 206-207, 2013.

日本老年歯科医学会第24回学術大会 大阪市

1) 東京歯科大学有床義歯補綴学、2) 東京歯科大学歯生学、3) 東京歯科大学社会歯科学

医中誌 ID : 2013333011

学会発表・特別講演 1

25009005 学会発表・特別講演

松久保隆

歯科疾患の疾病構造の変化と口腔衛生

歯科学報, 113(4), 412, 2013.

第296回東京歯科大学学会（総会） 東京都千代田区

東京歯科大学歯生学

医中誌 ID : 2014135639

法歯学講座

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

教 授	水口 清	DNAの遺伝的多型の分析と法医学的応用 (A93-0300-11) 唾液の遺伝標識に関する研究 (A75-0300-2)
准 教 授	花岡 洋一	硬組織からのDNA分析に関する研究 (A90-0300-10)
助 教	中村 安孝	X染色体DNAの遺伝的多型の分析と法医学的応用 (A93-0300-11)

2. 成果の概要

1) 18座位のX染色体多型の同時検出法と日本人における出現頻度

X-STR 多型は女性を介した複雑な遺伝関係の証明に特に威力を示す。本研究ではX染色体全体に互って分布する 18 種の X-STR ローカスの PCR 増幅を最適化した。なお、この際に primer 末端に 5 塩基の tail を付加することで不完全な A-addition による電気泳動像のピークを改善した。本システムは一般的な X-STR 多型の応用に加え、特に X 染色体全体における組み換え部位を最初に予測する手段として設計した。378 人の男性と 175 人の女性から日本人における対立遺伝子頻度を算出したところ、これらの座位の総合識別力は男女ともに極めて高かった。この検査法を用いて、常染色体の STR キットでは血縁関係を証明できなかった、従姉妹同士の血縁関係の有無を、組み換え領域の推測と haplotype block の遺伝を含めて有用であった事例を示した。

Legal Med 15:164-170, 2013.

2) X染色体上の近接した1つのSTR blockを含むSNP検査と法医学的応用性の検討

X 染色体多型は mtDNA や Y 染色体多型が利用できない事例において、特に haplotype block の遺伝の応用が役に立つ。しかし、事例によっては 1 箇所の linkage group の haplotype のみで血縁関係を証明したい場合もあり、そのためには現状の STR のみでは必ずしも充分ではない。そこで、これらの linkage group に X-SNP を追加し、情報量を増やすことを試みた。Xq28 領域の 5 座位の STR block の内部と両側に位置する、8 箇所の 1.84Mb に及ぶ X-SNP の多型を検査した。200 人の男性の 8 ローカスの SNP の haplotype は 58 型で、同様の試料で 5 種の X-STR の haplotype は 186 型であったが、両者を総合すると 195 型の haplotype が認められ、そのうち 192 型は unique であった。本検査を、キットによる検査では Xq28 領域のみしか一致しない従姉妹同士の血縁関係検査例に応用した。

DNA多型 21:196-199, 2013.

3) X染色体多型の応用性を拡張する試み

X 染色体上の 8 座位の X-STR haplotype を検査する Argus X-8 キットに加えて、14 ローカスの X-STR を同時検出する multiplex system を構築し、360 人の日本人男性試料を対象に合計 22 ローカスで 6 箇所の haplotype の検査を行った。その結果、3～5 ローカスの haplotype から構成される 6 箇所の hqplgroup は 0.9720～0.9993 の haplotyoe divessity を有し、キットに比べ識別能力が格段に増加することがわかった。これらの hapalogroup の多型検査は X 染色体多型の遺伝に合わせたケースに応用価値が高い。

Foresic Dental Science 6:48-51, 2013.

4) 虐待防止に関する歯科医学生の意識調査-第2報-

近年大きな社会問題となっている虐待の根絶に向けた歯科界の取組を模索すべく、東京歯科大学、岩手医科大学歯学部、奥羽大学歯学部の学生を対象に、虐待問題に関する意識調査を無記名のアンケートにより実施した。

その結果、虐待防止に向けた講義を聴講する前では、虐待を見聞きした頻度は高いものの、自身が防止に取り組む姿勢は低かったのに対し、講義受講後は、虐待防止に積極的に取り組みたいという学生の頻度が著しく上昇した。また、その上昇度は講義時間の長さに比例していたことから、虐待根絶に向けた講義の重要性が再認識された。

Fores Dent Sci 6:48-51, 2013.

5) ITを活用した歯科的個人識別(A03-0300-14)

東日本大震災における個人識別において、歯科的所見は大いにその威力を発揮した。しかしながら歯科所見採取におけるITの活用は、作業の初期段階においては必ずしも有効活用されたとは言い難く、特にデジタルX線画像解析装置や口腔内写真撮影装置デジタルカメラはその有用性を十分謳われていながらも、被災地における準備が十分ではなく、装備の充実と整備が喫緊の課題として残された。

東京都歯科衛生士会学術誌 29:14-19, 2013.

奥羽大学歯学誌 40(1): 1-4, 2013.

3. 学外共同研究

担当者	研究課題	学外研究施設		
		研究施設	所在地	責任者
水口 清	マレー人のDNA多型に関する研究	マラヤ大学歯学部	Kuala Lumpur, Malaysia	Phrabhakaran Nambiar
水口 清	DNA多型データによる集団の比較と系統分化に関する研究	香川大学総合情報基礎センター	高松市	竹崎 直子
花岡 洋一	ITを活用した歯科的個人識別	杏林大学医学部	三鷹市	佐藤 喜宣

4. 科学研究費補助金・各種補助金

研究代表者	研究課題	研究費
中村 安孝	X染色体多型の利点を応用した法歯学的個人識別における弱点の克服	文部科学省科学研究費補助金・若手研究 (B)

5. 研究活動の特記すべき事項

シンポジウム

シンポジスト	年月日	講演演題	学会・研究会名	開催地
花岡 洋一	2013. 12. 1	虐待の根絶を目指して ー今私たちにできることー	子ども虐待防止に向けたシンポジウム	静岡市

学術学会に相当しない団体が開催するセミナー・研究会・カンファレンス等における発表・講演

講演者	年月日	演題	会合の名称	開催地
水口 清	2013. 5.18	法歯学の社会活動の話題から	東京歯科大学秋田県支部同窓会学術研修会	秋田市
花岡 洋一	2013. 6.29	歯科的個人識別の落とし穴と新技術ー東日本大震災における活動報告と共にー	平成25年度 兵庫県警察歯科医会学術研修会	神戸市

花岡 洋一	2013. 7.26	子ども虐待の根絶といじめへの取り組み	東京都品川区荏原学校歯科医師会 学術講演会	東京都 品川区
水口 清	2013. 9. 7	法歯学の社会活動の話題から	東京歯科大学北海道地域支部連合 会同窓会学術研修会	苫小牧市
水口 清	2013.10. 5	法歯学 最近の事例から	群馬県警察医会総会研修会	高崎市
水口 清 花岡 洋一 中村 安孝	2013.10.16	災害時歯科医療救護における身元 確認作業の実務	東京都身元確認に関する歯科医師 研修会	東京都 大田区
花岡 洋一	2013.10.24	大規模災害における検視・検案・身 元確認班の今後の位置づけ	茨城県警察歯科協議会講習会	水戸市
花岡 洋一	2013.11. 3	歯科界の新たな役割	平成25年度山形県警察歯科医会研 修会	山形市
花岡 洋一	2013.11.16	歯科界の新たな役割-子ども虐待の 根絶といじめへの取り組み-	島根県警察歯科医会 平成25年度 法歯学講演会	松江市
花岡 洋一	2013.11.28	大規模災害における検視・検案・身 元確認班の今後の位置づけ	平成25年度警察歯科医会合同研修 会	千葉市
花岡 洋一	2013.12.20	新たな地域防災計画と死因究明関 連2法を受けて	東京都荒川区歯科医師会警察協力医 会講習会	東京都 荒川区
花岡 洋一	2014. 1.15	歯科的個人識別の新たな留意点	平成25年度 練馬区歯科医師会警 察歯科研修会	東京都 練馬区
花岡 洋一	2014. 1.21	歯科的個人識別の新たな留意点	東京都武蔵野歯科医師会身元確認 講習会	武蔵野市
花岡 洋一	2014. 1.29	歯科的個人識別の実際 -東日本 大震災における活動報告と共に-	東京都西多摩歯科医師会警察歯科 講演会	多摩市
花岡 洋一	2014. 2. 5	歯科界の新たな役割-子ども虐待の 根絶といじめへの取り組み-	平成 25年度 浜松市歯科医師会講 演会	浜松市
花岡 洋一	2014. 2.15	歯科的個人識別の新たな留意 点 -東日本大震災における活動 報告とともに-	東京都玉川歯科医師会災害対策講 演会	東京都 世田谷区
花岡 洋一	2014. 2.19	子ども虐待の根絶を目指して	平成 25 年度 第3回児童虐待対応 力向上研修	川越市
花岡 洋一	2014. 3.13	歯科的個人識別の新たな留意 点-東日本大震災における活動報告 とともに-	台東区歯科医師会・浅草歯科医師会 警察歯科医会講演会	東京都 台東区
水口 清 花岡 洋一 中村 安孝	2014. 3.19	災害時歯科医療救護における身元 確認作業の実務	東京都身元確認に関する歯科医師 研修会	東京都 千代田区

6. 教育に関する業績、活動

他の大学・研究機関等における学生・大学院生を対象とする講義・実習

担当者名	年月日	テーマ・演題	大学・機関	所在地
花岡 洋一	2013. 7.23	歯からわかること1	関東管区警察学校	小平市
花岡 洋一	2013. 7.24	歯からわかること2	関東管区警察学校	小平市

水口 清	2013. 9. 4	歯科法医学講義（4コマ）	九州大学・歯学部	福岡市
水口 清	2013.10-11	歯科法医学講義（7コマ）	福岡歯科大学・歯学部	福岡市
花岡 洋一	2013.12. 3	歯からわかること1	関東管区警察学校	小平市
花岡 洋一	2013.12. 5	歯からわかること2	関東管区警察学校	小平市
花岡 洋一	2013.11. 6 – 2014. 1.15	法医学・法歯学16コマ	奥羽大学歯学部	郡山市

7. 社会的貢献・社会に対する活動

鑑定書

鑑定人	提出年月日	種別（鑑定書）	依頼者
水口 清	2013. 6.10提出	戦没者遺骨のDNA鑑定 815-001	厚生労働省外事課
水口 清	2013. 6.10提出	戦没者遺骨のDNA鑑定 815-002	厚生労働省外事課
水口 清 鮫島 道長	2013.10. 9提出	戦没者遺骨家族のDNA鑑定 14461	厚生労働省外事課
水口 清 鮫島 道長	2013.10. 9提出	戦没者遺骨家族のDNA鑑定 11389	厚生労働省外事課
水口 清 鮫島 道長	2013.10. 9提出	戦没者遺骨家族のDNA鑑定 16009	厚生労働省外事課
水口 清 鮫島 道長	2013.10. 9提出	戦没者遺骨家族のDNA鑑定 13365, 14718	厚生労働省外事課
水口 清 鮫島 道長	2013.10. 9提出	戦没者遺骨家族のDNA鑑定 15856	厚生労働省外事課
水口 清 鮫島 道長	2013.10. 9提出	戦没者遺骨家族のDNA鑑定 14785	厚生労働省外事課
水口 清 鮫島 道長	2013.10. 9提出	戦没者遺骨家族のDNA鑑定 14027	厚生労働省外事課
水口 清 鮫島 道長	2013.10. 9提出	戦没者遺骨家族のDNA鑑定 16003	厚生労働省外事課
水口 清 鮫島 道長	2013.10. 9提出	戦没者遺骨家族のDNA鑑定 16009	厚生労働省外事課
水口 清 鮫島 道長	2013.10. 9提出	戦没者遺骨家族のDNA鑑定 11179	厚生労働省外事課
水口 清 鮫島 道長	2013.10. 9提出	戦没者遺骨家族のDNA鑑定 16728	厚生労働省外事課
水口 清 鮫島 道長	2013.10. 9提出	戦没者遺骨家族のDNA鑑定 13812	厚生労働省外事課
水口 清 鮫島 道長	2013.12.16提出	戦没者遺骨家族のDNA鑑定 204-076再検査	厚生労働省外事課
水口 清 鮫島 道長	2013.12.16提出	戦没者遺骨家族のDNA鑑定 067-001再検査	厚生労働省外事課
水口 清 鮫島 道長	2013.12.16提出	戦没者遺骨家族のDNA鑑定 18601	厚生労働省外事課

水口 清 鮫島 道長	2013.12.16提出	戦没者遺骨家族のDNA鑑定 18601	厚生労働省外事課
水口 清 鮫島 道長	2014. 2.27提出	戦没者遺骨家族のDNA鑑定 304-162	厚生労働省外事課
水口 清 鮫島 道長	2014. 2.27提出	戦没者遺骨家族のDNA鑑定 304-166	厚生労働省外事課
水口 清 鮫島 道長	2014. 2.27提出	戦没者遺骨家族のDNA鑑定 304-137	厚生労働省外事課
水口 清 鮫島 道長 中村 安孝	2013.12.12提出	131106Aと131116Aの鑑定	外務省北東アジア課

医学の啓蒙を目的とする講演会（市民を対象とするもの）

講演者	年月日	演題	講演会名	開催地
花岡 洋一	2013.12. 1	虐待の根絶を目指して-情報の提供と共有-	子ども虐待防止に向けたシンポジウム	静岡市

メディア等への掲載・出演

氏名	年月日	タイトル	掲載誌・放送局番組名・URL
花岡 洋一	2013. 7. 2	身元不明遺体の公開捜査	http://www.kyorin-u.ac.jp/univ/user/medicine/legal/FOnet/
花岡 洋一	2013. 7.10	万人一語	新聞QUINT
花岡 洋一	2014. 1. 1	警察歯科医会研修会	形歯会報

その他の活動

講演者	年月日	内容	開催地
花岡 洋一	2013. 9. 1	東京都中央総合防災訓練指導	東京都中央区
花岡 洋一	2013.11.21	埼玉県川口市総合防災訓練指導	川口市
花岡 洋一	2013.11.23	東京都総合防災訓練指導	あきる野市

原著/原著論文 2

25010001 原著/原著論文

鮫島道長、中村安孝、水口清

X染色体上の近接した1つのSTR blockを含むSNP検査と法医学的応用性の検討
DNA多型, 21, 196-199, 2013.

東京歯科大学法歯学

医中誌 ID : 2014081331

25010015 原著/原著論文

NakamuraY1), Samejima M1), Tamaki K2), Minaguchi K1).

Multiplex PCR for 18 X-chromosomal STRs in Japanese population.

Leg Med (Tokyo), 15(3), 164-170, 2013. 若手研究 (B)

1) 東京歯科大学法歯学、2) 京都大学大学院医学研究科法医学講座

DOI : 10.1016/j.legalmed.2012.10.006 PubMed ID : 23218765

学会発表・口演 2

25010004 学会発表・口演

鮫島道長、中村安孝、水口清

高度変性試料を対象とした mtDNA と性別の同時判定法に関する検討
DNA Polymorphism第22回学術集会抄録集, 35, 2013.

日本DNA多型学会第22回学術集会 仙台市

東京歯科大学法歯学

25010007 学会発表・口演

鮫島道長、中村安孝、花岡洋一、水口清

X染色体多型を用いたDNA鑑定の実際について
日本法歯科医学会第7回学術大会プログラム・講演要旨集, 14, 2013.

日本法歯科医学会第7回学術大会 横浜市

東京歯科大学法歯学

学会発表・示説 6

25010002 学会発表・示説

三須博1)、水口清2)

年齢推定の補助としての第3大臼歯の根尖の完成状態の観察と汎用可能な比較資料の作製
第82回日本法医学会学術関東地方集会講演要旨集, 40, 2013.

第82回日本法医学会学術関東地方集会 横浜市

1) 千葉県、2) 東京歯科大学法歯学

25010005 学会発表・示説

小林克男1)、野沢正仁1)、花岡洋一2)

東日本大震災による漂着身元不明遺体の個人識別事例 デンタルインプラントの特定から
日本法医学雑誌, 67(1), 98, 2013.

札幌市

1) 茨城県歯科医師会、2) 東京歯科大学法歯学

医中誌 ID : 2013312898

25010008 学会発表・示説

上田雅康1)、田邊均2)、花岡洋一3)

島根県における大規模災害への取り組み

日本法歯科医学会第7回学術大会プログラム・講演要旨集, 32, 2013.

日本法歯科医学会第7回学術大会 横浜市

1) 島根県歯科医師会、2) 山口県歯科医師会、3) 東京歯科大学法歯学

25010009 学会発表・示説

小林克男1)、野沢正仁2)、花岡洋一2)3)

茨城県沿岸における東日本大震災津波被害者の口腔内所見採取活動

インプラント治療痕からの早期身元判明事例報告

第12回警察歯科医会全国大会抄録集, 27, 2013.

第12回警察歯科医会全国大会 郡山市

1) 茨城県歯科医師会警察歯科医、2) 共同研究者警察歯科医、3) 東京歯科大学法歯学

25010010 学会発表・示説

高橋哲夫1)、山崎一男1)、井上恵司1)、藤原偉旦1)、勝俣正之1)、桎谷憲敬1)、小枝義典1)、小林幸男2)、水口清3)、花岡洋一

3)、都築民幸4)、小室歳信5)、山田良広6)

東京都警察歯科医会15年の歩み

第12回警察歯科医会全国大会抄録集, 30, 2013.

第12回警察歯科医会全国大会 郡山市

1) 社団法人東京都歯科医師会、2) 東京都福祉保健局、3) 東京歯科大学法歯学、4) 日本歯科大学生命歯学部歯科法医学センター、5) 日本大学歯学部法医学講座、6) 神奈川歯科大学社会歯科学講座法医学分野

25010014 学会発表・示説

中村安孝、鮫島道長、水口清

クアラルンプール周辺のマレー人における18X-STRの多型出現頻度

日本法医学雑誌, 67(1), 112, 2013. 若手研究 (B)

第97次日本法医学会学術全国集会 札幌市

東京歯科大学法歯学

医中誌 ID : 2013312953

学会発表・特別講演 1

25010003 学会発表・特別講演

水口清

法歯学の鑑定と研究

歯科学報, 113(4), 415, 2013.

第296回東京歯科大学学会（総会） 東京都千代田区

東京歯科大学法歯学

医中誌 ID : 2014135642

社会歯科学研究室

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

教 授	平田創一郎	東京都における歯科訪問診療の実施に係る因子の解析 歯科診療所における研修歯科医の割合の推移 日本における歯科医師臨床研修の必修化は歯科医師の地域偏在を強めるか
	眞木 吉信	リチウム電池内蔵イオン歯ブラシによる口腔の変化 Monitoring Caries Risk before the Window of Infection and Later Caries Increment: A Caries Prediction Study on Rapid Detection of Streptococcus mutans Using Monoclonal Antibodies 栄養の観点からフッ化物の全身応用を考える 介護予防を目的とした地域支援事業参加者の口腔機能の継続効果に関する評価
助 教	酒寄 孝治	自立高齢者および要介護高齢者の口腔保健および機能の実態とその改善・向上プログラムの検討ー口腔機能の向上を目的とした地域支援事業参加者の口腔機能の継続的評価 リチウム電池内蔵イオン歯ブラシによる口腔環境と唾液分泌の変化
	田代 宗嗣	高齢者における関節可動域と摂食嚥下機能との関連性
大学院生	小川 真	
	平木 圭佑	

2. 成果の概要

1) 東京都における歯科訪問診療の実施に係る因子の解析

歯科訪問診療の実施に影響する因子を解明するために、東京都と東京都歯科医師会が都内の歯科医療機関を対象に調査を実施した結果、50歳代以上の者、主治医との連携をしている者、摂食・嚥下に関する指導や診療を行っている者、誤嚥性肺炎の予防についての周知等を行っている者、要介護高齢者の診療や歯科訪問診療等に関する研修を受講した者、東京都歯科医師会研修会・講習会を受講した者で、歯科訪問診療の実施割合が有意に多かった。ロジスティック回帰分析の結果、年齢以外の5つの項目で有意なオッズ比が得られた。最もオッズ比が高かったのは、要介護高齢者の診療や歯科訪問診療等に関する研修受講であった。この研修を受講した者の方が有意に多く歯科訪問診療を実施していた。東京都心身障害者口腔保健センター、東京都歯科医師会および地区歯科医師会の実施した研修が有意なオッズ比を示し、特に東京都歯科医師会の研修受講が最もオッズ比が高かった。従来の歯科医療や歯科医学教育には無かった知識・技能の習得が歯科訪問診療の実施に結びつくことから、これらを卒前教育・卒後臨床研修で修得することが重要であり、また、歯科医師会の企画する研修が有効であることから、全国的に各道府県歯科医師会が試みるべきものと思われる。

Bull Tokyo Dent Coll 54(2):69-72, 2013.

2) 歯科診療所における研修歯科医の割合の推移

日本では、歯科医師臨床研修必修化後、歯科診療所での臨床研修実施を考慮して、群方式を推奨してきた。これによって、歯科大学病院の協力型臨床研修施設である歯科診療所の数は順調に増加してきた。また、単独型・管理型臨床研修施設の指定を受ける歯科診療所も増加している。しかしながら、臨床研修施設の指定を受けた歯科診療所の増加が、研修歯科医の歯科診療所での研修実施の増加に結びついたかは明らかでなかった。そこで、2006～2010年度における歯科診療所で研修を受けた研修歯科医の割合の推移について研究を行ったところ、①

単独型／管理型／協力型臨床研修施設の指定を受けた歯科診療所数、②歯科診療所の研修プログラム数、③研修歯科医の総募集数に占める歯科診療所の研修プログラムの募集数の割合のいずれとも有意な相関は認められなかった。このことから、従来の協力型臨床研修施設である歯科診療所を増やす施策では歯科診療所での臨床研修の推進には結びついていないことが認められた。歯科診療所での臨床研修の推進のためには、単独型・管理型臨床研修施設である歯科診療所数の増加が重要であると考えられる。

Bull Tokyo Dent Coll 54(3):127-133, 2013.

3) 日本における歯科医師臨床研修の必修化は歯科医師の地域偏在を強めるか

日本では 2006 年から歯科医師臨床研修が必修化され、Hirata らは都道府県別に見た 2006 年の研修歯科医の地域偏在は、診療従事歯科医師のそれより大きいことを報告した。このことから、歯科医師臨床研修制度が歯科医師の地域偏在を強める可能性が示唆された。そこで今回、2006 年～2010 年の研修歯科医と診療従事歯科医師の地域分布をより詳細に検討すべく、Lorenz 曲線と Gini 係数を用いて市区町村単位で検討したところ、研修歯科医の地域偏在の推移に大きな変化がなかったが、他方、診療従事歯科医師の地域偏在は継続的に縮小していることが明らかとなった。臨床研修制度が1年間の有期雇用であり、2 年目以降は歯科医師が市場原理に従い拡散していること、市町村合併により市町村間の地域偏在が減少したことが原因として考えられた。今後、歯科医師数が減少に転じた場合、診療従事歯科医師の地域偏在が拡大することが推測されることから、今後も継続して研修歯科医の分布を検討する必要がある。

Bull Tokyo Dent Coll 54(3):141-148, 2013.

4) リチウム電池内蔵イオン歯ブラシによる口腔環境と唾液分泌の変化

イオン歯ブラシの応用については現在まで、歯肉炎などの歯周疾患に対する治療効果、象牙質知覚過敏症に対する効果、う蝕予防を目的としたフッ化物イオン導入法への応用、歯口清掃効果の向上等について研究が行われている。本研究はイオン歯ブラシを成人および高齢者に応用し、唾液分泌促進効果、歯垢除去効果、歯周病の改善、口腔内細菌数の推移、の 4 項目によりイオン歯ブラシの有効性を検討し、成人と高齢者の比較からイオン歯ブラシによる口腔環境と唾液分泌の改善効果を評価した。

高齢者ではイオン歯ブラシ使用前後で刺激唾液分泌速度の改善が認められたが、健康成人では刺激唾液でも安静唾液でも使用前後の違いは認められなかった。健康成人において効果が最も顕著だったのは歯垢付着の減少であった。その背景には唾液中の総菌数と *Lactobacilli* の減少があると考えられた。その他の唾液中細菌数は試験期間前後では変化が認められなかった。また、歯肉炎および歯周炎といった歯周組織の状態は試験期間前後で明かな変化は認められなかった。

口腔衛生学会雑誌 63(2):218, 2013.

5) 幼児期における唾液中の *Streptococcus mutans* レベルとう蝕発病リスクに関する研究

唾液中の *Streptococcus mutans* の検出のために開発された新しいシステムは、二種類の特異的モノクローナル抗体を用いて、30 分以内に唾液中の *Streptococcus mutans* を検出し、結果を 3 段階に分類することができる。本研究の目的はう蝕発病リスクを決定する際の、この試験キットの可能性を評価することであった。1 歳 6 ヶ月児健診を受診した幼児 56 人の唾液サンプルを集め評価した。幼児は検出された *Streptococcus mutans* レベルに応じて 3 つのグループに分類された。そのうち幼児 36 人に対し、18 ヶ月後に最初に検査した唾液中 *Streptococcus mutans* レベルとその後のう蝕の増加との間に関連性があるかを調査するために 2 回目の検査を行った結果、明らかに相関がみられた。これは感染時期より前の唾液中 *Streptococcus mutans* レベルがう蝕リスクの指標となり、この試験キットを使用することにより迅速にう蝕リスクを検出できることを示している。よって、この迅速検査は幼児の将来のう蝕リスクを評価する上で有用と考えられる。

6) 栄養の観点からフッ化物の全身応用を考える

水道水フッロリデーションはフッ化物の全身応用に位置付けられ、水道水へ人工的にフッ化物を添加しフッ化物イオン濃度を適正な値に調整することによって、最大多数の住民に高いう蝕予防効果をもたらす方法で、全身応用による最も効果的な予防手段であるとされている。

さらに、健康格差や医療・保健の不平等が叫ばれている現代では、地域住民全体が収入、教育レベル、社会階層、その他の社会経済的な要因を解消できる。公衆衛生学的に最も平等な蝕予防手段であり、日常生活の中でなんら特別な行動や行為を意識することなく、水を飲むことや調理された料理を食べることによって誰でも恩恵を受けられるという利点がある。

WHOをはじめ欧米先進諸国ではフッ化物が栄養素として位置付けし、年齢ごとに目安量と上限量を定め、水道水フッロリデーションの導入とそのサプリメントとしてのフッ化物ナトリウム製剤が市販されている。日本においても『日本人の食事摂取基準』の中に「フッ素」を明確に位置付けて、水道水フッロリデーションの実施を期待したいところである。

口腔衛生会誌 63:414-419, 2013.

7) 介護予防を目的とした地域支援事業参加者の口腔機能の継続効果に関する評価

自立高齢者および要介護高齢者の口腔保健および機能の実態とその改善・向上プログラムの検討 — 口腔機能の向上を目的とした地域支援事業参加者の口腔機能の継続的評価

平成 18 年度から介護予防における地域支援事業ではハイリスク戦略として、基本チェックリストに基づいてスクリーニングされた高齢者に対する二次予防事業（旧介護予防特定高齢者施策）が行われている。事業が始まって 7 年目を迎え、二次予防事業に参加した者は要介護認定率が低い等の報告もあり、介護予防の効果が示唆されているが、事業の参加者が少ないこと、事業終了後の継続性などの課題も残されている。今回、口腔機能の向上を目的とした地域支援事業に参加した高齢者の事業終了後の口腔機能の変化の継続的調査を行った。プログラムの継続は口腔機能の向上に一定の効果があることが示唆された。ブラッシング・義歯の手入れはほとんどの者が継続して毎日行っており、健口体操を継続して行うことができるかが今後の課題と考えられる。

日本公衆衛生雑誌 60(10):391, 2013.

8) 摂食・嚥下リハビリテーション臨床における簡易舌圧測定器を用いた舌機能評価の有用性

摂食嚥下障害患者の舌機能評価を行い、摂食嚥下リハビリテーションにおける最大舌圧測定の有用性の検討を行った。対象者には週に 1 回の摂食機能療法を 5 か月行い、1 か月ごとに最大舌圧測定と藤島による摂食・嚥下能力グレード（以下、Gr）の評価を実施した。最大舌圧測定器（TPM-01、JMS 社、広島）を用いて測定した。得られた Gr と舌圧値の変化を検討した。

全ての対象者において、介入期間中に Gr の変化は認められなかった。Gr の高値群、低値群で分類して最大舌圧値の検討を行ったところ、高値群では 3 名中 2 名が最大舌圧も高い値を示した。次に低値群では、4 名中 3 名が最大舌圧値も低い値を示し、値の顕著な変化は認められなかった。以上のことから、Gr が高ければ最大舌圧値も高い傾向にあり、最大舌圧測定は摂食嚥下リハビリテーションの評価に有用と考えられた。

老年歯科医学 28(2):119-120, 2013.

9) 口腔ケアアセスメントシートの活用及び専門職との連携によるモデル検証事業

「介護者のための口腔ケアアセスメントシート」を実際に使用することで介護施設入所者の口腔内の問題が明らかとなり、その改善点を抽出することができた。しかし、長期的にアセスメントシートを使用することで改善が期待されるような項目については検証することができなかった。今後の研究において、アセスメントシートを使用することで期待される肺炎の発症率低下や口腔機能の改善について検討を行っていきたい。

10) 摂食・嚥下リハビリテーション地域歯科診療支援科開設5年間の臨床統計

東京歯科大学千葉病院では、平成 20 年 7 月に摂食・嚥下リハビリテーション地域歯科診療支援科を開設し 5 年が経過した。開設から現在までの 5 年間の活動状況を振り返り、主傷病名、診療依頼元、居住地および診療したのべ患者数、院外患者数と院内患者数の割合を 1 年ごとに集計した。

歯科学報 113(4):439, 2013.

3. 学外共同研究

担当者	研究課題	学外研究施設		
		研究施設	所在地	責任者
平田創一郎	歯科医師および歯科医療施設の地域分布とその影響要因に関する地域構造的分析	千葉県立保健医療大学	千葉市	大川 由一
平田創一郎	今後の歯科医師臨床研修制度の改善のための実態把握及び効果的なプログラム等構築・運用等に関する研究	東京医科歯科大学	東京都文京区	俣木 志朗
平田創一郎	子どものこころと身体を見守り支援する大規模データ収集とリスク予想モデル構築	長崎大学	長崎市	藤原 卓
平田創一郎	わが国における歯科医療倫理学の構築のための基盤的研究	大阪歯科大学	枚方市	樫 則章

4. 科学研究費補助金・各種補助金

研究代表者	研究課題	研究費
眞木 吉信	イオン歯ブラシ(ランパル)の唾液分泌促進効果	フクバデンタル株式会社委託研究費
眞木 吉信	リチウム電池内蔵イオン歯ブラシによる唾液分泌の変化とそれに伴う口腔環境と口腔機能の改善試験(H26.2.1-H27.1.31)	フクバデンタル株式会社委託研究費
眞木 吉信	PRGフィラーを応用した新しい製材とPRG溶液の齲蝕予防に関する評価(H24.10.31-H26.3.31)	株式会社松風委託研究費
眞木 吉信	薄型ヘッド／スリムネック歯ブラシのヒト試験(歯垢除去性)のための評価方法の検討(-H25.12.31)	ライオン株式会社委託研究費

5. 研究活動の特記すべき事項

シンポジウム

シンポジスト	年月日	講演演題	学会・研究会名	開催地
眞木 吉信	2013. 5.16-17	「歯科口腔保健法」の目標を達成するための「フッ化物応用モデル」の提案－ライフステージに応じたフッ化物応用モデル	第62回日本口腔衛生学会総会	松本市
酒寄 孝治	2013. 5.16-17	リチウム電池内蔵イオン歯ブラシによる口腔環境と唾液分泌の変化	第62回日本口腔衛生学会総会	松本市

学会招待講演・特別講演・教育講演

講演者	年月日	演題	学会・研究会名	開催地
平田創一郎	2013. 7.12-13	歯科学生のための倫理・プロフェッショナリズム教育用ツールに関する考察	第32回日本歯科医学教育学会総会および学術大会	札幌市
眞木 吉信	2013. 7.25	食後30分間、ブラッシングを避けることの是非	東京歯科大学千葉病院医療連携講演会	千葉市

学術学会に相当しない団体が開催するセミナー・研究会・カンファレンス等における発表・講演

講演者	年月日	演題	会合の名称	開催地
眞木 吉信	2013. 5.26	フッ素配合歯磨剤が普及した今だからこそ、歯科医院でしか伝えられないフッ素の話	第24回エルバ「眞木吉信教授フッ素セミナー」	東京都中央区
眞木 吉信	2013. 6. 2	カリエスリスク検査評価に基づく予防プログラムの構築	財団法人ライオン歯科衛生研究所「カリエスリスクコントロールセミナー」	大阪市
眞木 吉信	2013. 6.29	歯科衛生士教育の変換と業務の独立性	平成25年度東海地区歯科衛生士教育協議会	名古屋市
眞木 吉信	2013. 7. 7	リスクに基づくフッ化物の臨床応用	財団法人ライオン歯科衛生研究所「カリエスリスクコントロールセミナー」	大阪市
眞木 吉信	2013. 7.26	歯科衛生士教育の変換と新しい課題	平成25年度東北地区歯科衛生士教育協議会総会	郡山市
眞木 吉信	2013. 7.28	リスクに基づく予防処置	財団法人ライオン歯科衛生研究所「カリエスリスクコントロールセミナー」	大阪市
眞木 吉信	2013. 8. 3	歯科衛生士法改正と今後の歯科衛生士教育	平成25年度中国地区歯科衛生士養成機関連絡協議会	松江市
眞木 吉信	2013. 8.22	最近の歯科衛生士教育事情	平成25年度四国地区歯科衛生士教育協議会	徳島市
眞木 吉信	2013. 8.26	医療倫理・医療に関わる臨床研究の倫理	平成25年度歯科衛生士専任教員講習Ⅳ	東京都千代田区
眞木 吉信	2013. 9. 7	歯科衛生課程	平成25年度全国歯科衛生士教育協議会九州地区会	熊本市
眞木 吉信	2013.10.20	フッ素配合歯磨剤が普及した今だからこそ、歯科医院でしか伝えられないフッ素の話	第25回エルバ「眞木吉信教授フッ素セミナー」	東京都中央区
眞木 吉信	2013.11. 9	歯科衛生士の担う役割と資質の向上	山口県高等歯科衛生士学院創立50周年記念式典・記念講演	山口市
眞木 吉信	2013.12.15	フッ素配合歯磨剤が普及した今だからこそ、歯科医院でしか伝えられないフッ素の話	エルバ「眞木吉信教授フッ化物(アドバンス)セミナー」	東京都中央区
眞木 吉信	2014. 2. 9	歯科衛生学の確立へ向けてー歯科衛生課程とフッ化物応用	石川県歯科医師会県内歯科衛生士研修会	金沢市
眞木 吉信	2014. 2.23	カリエスリスク検査評価に基づく予防プログラムの構築	財団法人ライオン歯科衛生研究所「カリエスリスクコントロールセミナー」	東京都品川区
眞木 吉信	2014. 2.26	フッ化物臨床応用のアドバンスな考え方	江戸川区学校歯科医会講習会	東京都江戸川区
眞木 吉信	2014. 2.27	リスクに基づくフッ化物の臨床応用	財団法人ライオン歯科衛生研究所「カリエスリスクコントロールセミナー」	東京都品川区
眞木 吉信	2014. 3. 2	リスクに基づく予防処置	財団法人ライオン歯科衛生研究所「カリエスリスクコントロールセミナー」	東京都品川区

6. 教育に関する業績、活動

医学教育・歯学教育に関連する講演

講演者	年月日	演題	学会・研究会名	開催地
平田創一郎	2013. 9.13	東京歯科大学における6年次教育の現況	日本歯科大学新潟生命歯学部・教員対象(FD)特別講演	新潟市

教育ワークショップ・FD 研修

氏名	年月日	ワークショップ名	役割	開催地
平田創一郎	2013. 8.25-28	歯科医療振興財団「プログラム責任者講習会」	タスクフォース	裾野市
平田創一郎	2013. 9.21-22	東京歯科大学「指導歯科医講習会」	タスクフォース	東京都千代田区
平田創一郎	2013. 9.28	厚生労働省「再教育研修」	講師	和光市
平田創一郎	2014. 2.16	東京都歯科医師会「平成25年度東京都8020運動推進特別事業	講師	和光市

共用試験

氏名	年月日	種別	役割	開催地
平田創一郎	2014. 2.20	平成25年度東京歯科大学 第4学年CBT	問題作成副責任者	東京都千代田区
平田創一郎	2014. 2.23	平成25年度東京歯科大学 第4学年OSCE	実施責任者	東京都千代田区

他の大学・研究機関等における学生・大学院生を対象とする講義・実習

担当者名	年月日	テーマ・演題	大学・機関	所在地
眞木 吉信	2013. 5.20	歯科管理学	東北大学歯学部・4年生	仙台市
眞木 吉信	2013. 6.24	医事法制	東北大学歯学部・4年生	仙台市

7. 社会的貢献・社会に対する活動

医学の啓蒙を目的とする講演会（市民を対象とするもの）

講演者	年月日	演題	講演会名	開催地
眞木 吉信	2013. 6.19	「フッ化物ってなあに？フッ化物の基礎知識」～こどもに利用したい！むし歯予防にこうかのある使い方～	千葉市・保健福祉局健康部 講演会	千葉市
眞木 吉信	2013. 8. 8	フッ化物洗口事業に関する講演「鴨川市フッ化物洗口事業に係る乳歯へのむし歯予防効果について」	鴨川市健康推進課「フッ化物洗口事業研修会」	鴨川市
眞木 吉信	2013. 9.11	フッ化物洗口のむし歯予防効果と安全性について	鎌ヶ谷市健康増進課母子保健係、鎌ヶ谷市立五本松小学校「小学校におけるフッ化物洗口説明会」	鎌ヶ谷市
眞木 吉信	2013.10.29	フッ化物洗口のむし歯予防効果と安全性について	鎌ヶ谷市健康増進課母子保健係、鎌ヶ谷市立道野辺小学校「小学校におけるフッ化物洗口説明会」	鎌ヶ谷市

眞木 吉信	2014. 2. 6	フッ化物洗口のむし歯予防効果と安全性について	鎌ヶ谷市健康増進課母子保健係、鎌ヶ谷市立道野辺小学校「小学校におけるフッ化物洗口説明会」	鎌ヶ谷市
眞木 吉信	2014. 2.12	フッ化物洗口のむし歯予防効果と安全性について	鎌ヶ谷市健康増進課母子保健係、鎌ヶ谷市立南部小学校「小学校におけるフッ化物洗口説明会」	鎌ヶ谷市
眞木 吉信	2014. 2.13	フッ化物洗口のむし歯予防効果と安全性について	鎌ヶ谷市健康増進課母子保健係、鎌ヶ谷市立中部小学校「小学校におけるフッ化物洗口説明会」	鎌ヶ谷市
眞木 吉信	2014. 2.26	歯・口の健康とフッ化物応用	千葉県平成25年度8020運動推進特別事業「フッ化物洗口普及事業」千葉県歯科衛生士会「フッ化物洗口研修会」	船橋市
眞木 吉信	2014. 3.19	歯・口の健康とフッ化物応用	千葉県平成25年度8020運動推進特別事業「フッ化物洗口普及事業」千葉県歯科衛生士会「フッ化物洗口研修会」	南房総市

その他メディア等への掲載・出演

氏名	年月日	タイトル	掲載誌・放送局番組名・URL
眞木 吉信	2013. 9.25	むし歯予防にフッ化物洗口	教育医事新聞349号

原著/原著論文 5

25011007 原著/原著論文

Hirata S1), Sakayori T1), Maki Y1), Takano N2), Ishii T1).

Factor analysis on implementation of domiciliary dental care in metropolitan Tokyo.

Bull Tokyo Dent Coll, 54(2), 67-72, 2013.

1) 東京歯科大学社会歯科学、2) 東京都歯科医師会

PubMed ID : 23903576

25011020 原著/原著論文

Hirata S1), Sugito H2), Takahashi T3), Mataka S4), Fujii K5), Akiyama H6), Okawa Y7), Sakayori T1), Maki Y1), Ishii T1).

Trends in percentage of postgraduate dental trainees at dental clinics.

Bull Tokyo Dent Coll, 54(3), 127-133, 2013.

1) 東京歯科大学社会歯科学、2) 東京歯科大学口腔健康臨床科学・歯科保存、3) 東京歯科大学千葉病院総合診療科、4) 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科全人の医療開発学系専攻包括診療歯科学、5) 日本歯科大学新潟生命歯学部歯科麻酔学全身管理科、6) 日本歯科大学附属病院総合診療科、7) 千葉県立保健医療大学健康科学部歯科衛生学科

PubMed ID : 24334625

25011021 原著/原著論文

Hirata S1), Okawa Y2), Sugito H3), Mataka S4), Sakayori T1), Maki Y1), Ishii T1).

Does mandatory postgraduate clinical training worsen geographic distribution of dentists in Japan?

Bull Tokyo Dent Coll, 54(3), 141-148, 2013.

1) 東京歯科大学社会歯科学、2) 千葉県立保健医療大学健康科学部歯科衛生学科、3) 東京歯科大学口腔健康臨床科学・歯科保存、4) 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科

PubMed ID : 24334627

25011022 原著/原著論文

恒石美登里1)、山本龍生2)、酒寄孝治3)、平田創一郎3)、眞木吉信3)、平田幸夫2)、石井拓男1)3)

外来歯科医療費の10年間の推移における都道府県の類型化とその要因

日本歯科医療管理学会雑誌, 43(3), 196-203, 2013.

1) 日本歯科総合研究機構、2) 神奈川歯科大学大学院歯学研究科社会歯科学、3) 東京歯科大学社会歯科学

医中誌 ID : 2014057109

25302019 原著/原著論文

Miyake N1), Sato T2), Maki Y3).

Effect of zeta potentials on bovine serum albumin adsorption to hydroxyapatite surfaces.

Bull Tokyo Dent Coll, 54(2), 97-101, 2013.

1) 東京歯科大学口腔健康臨床科学・歯科補綴、2) 東京歯科大学クラウンブリッジ補綴学、3) 東京歯科大学社会歯科学

DOI : 10.2209/tdcpub.54.97 PubMed ID : 23903580

原著/臨床研究論文 4

25011036 原著/臨床研究論文

Okawa Y1)2), Hirata S2).

Trends in the geographic distribution of dental clinics in Japan.

Community Dent Health, 31(1), 62-64, 2014.

1) 千葉県立保健医療大学健康科学部歯科衛生学科、2) 東京歯科大学社会歯科学

PubMed ID : 24741897

25011037 原著/臨床研究論文

Maki Y1), Sakayori T1), Hirata S1), Ishii T1), Tachino A2).

Monitoring caries risks before the window of infection and later caries increment: a caries prediction study on rapid detection of Streptococcus mutans using monoclonal antibodies.

Bull Tokyo Dent Coll, 55(1), 19-23, 2014.

1) 東京歯科大学社会歯科学、2) 株式会社GC

PubMed ID : 24717926

25108001 原著/臨床研究論文

Hisanaga R1), Takahashi T2), Sato T1), Yajima Y3), Morinaga K4), Ohata H5), Hirata S6), Mamiya H7), Kinumatsu T8), Yakushiji T5), Hagita K9).

Accidental ingestion or aspiration of foreign objects at Tokyo Dental College Chiba Hospital over last 4 years.

Bull Tokyo Dent Coll, 55(1), 55-62, 2014.

1) 東京歯科大学クラウンブリッジ補綴学、2) 東京歯科大学千葉病院総合診療科、3) 東京歯科大学口腔インプラント学、4) 東京歯科大学歯科保存学、5) 東京歯科大学口腔外科学、6) 東京歯科大学社会歯科学、7) 東京歯科大学歯科麻酔学、8) 東京歯科大学歯周病学、9) 東京歯科大学千葉病院医療安全管理室

DOI : 10.2209/tdcpublish.55.55 PubMed ID : 24717931

25114003 原著/臨床研究論文

Takahashi T1), Furusawa M2), Katakura A3), Sugito H4), Hirata S5), Ishii T5), Kameyama A1), Noro A1), Yamakura D1), Kondou Y1), Sugiyama T1), Sugiyama S1), Haruyama A1), Asami M1).

Recent trends among dental residents at Tokyo Dental College.

Bull Tokyo Dent Coll, 54(3), 187-194, 2013.

1) 東京歯科大学千葉病院総合診療科、2) 東京歯科大学歯科保存学、3) 東京歯科大学オーラルメディシン・口腔外科学、4) 東京歯科大学口腔健康臨床科学・総合歯科、5) 東京歯科大学社会歯科学

DOI : 10.2209/tdcpublish.54.187 PubMed ID : 24334633

調査報告書（分担） 1

25011035 調査報告書（分担）

石井拓男

食（栄養）および口腔機能に着目した加齢症候群の概念の確立と介護予防（虚弱化予防）から要介護状態に至る口腔ケアの包括的対策の構築に関する調査研究事業 事業実施報告書, 2014.

東京歯科大学社会歯科学

解説 8

25011001 解説

眞木吉信

フッ化物をめぐる誤解をどう解く？ 「栄養」としてのフッ化物応用の健全な考え方 フッ化物摂取基準の策定と『日本人の食事摂取基準』

歯界展望, 121(4), 766-767, 2013.

東京歯科大学社会歯科学

医中誌 ID : 2013222003

25011009 解説

石井拓男

8020運動の新たな展開を目指して 8020運動の歴史

社会保険旬報, 2539, 18-19, 2013.

東京歯科大学社会歯科学

医中誌 ID : 2013305698

25011014 解説

眞木吉信

歴史と栄養の観点から水道水フロリデーションの実現を考える

口腔衛生学会雑誌, 63(5), 414-419, 2013.

東京歯科大学社会歯科学

25011016 解説

石井拓男

8020運動の成果

日本歯科医師会創立110周年記念誌, 9-12, 2013.

東京歯科大学社会歯科学

25011017 解説

石井拓男

日本歯科総合研究機構の設立

日本歯科医師会創立110周年記念誌, 19-20, 2013.

東京歯科大学社会歯科学

25011023 解説

田中晃伸1)2)、平田創一郎3)

歯科臨床次の一手 少子化時代の小児歯科 今こそ小児歯科! 魅力ある歯科医院づくりの活力にする

DENTAL DIAMOND, 39(1), 50-55, 2014.

1) 茨城県タナカ歯科、2) 日本大学松戸歯学部、3) 東京歯科大学社会歯科学

医中誌 ID : 2014088474

25011027 解説

眞木吉信

「いまの教育」何が違うの? 歯科衛生士教育が変わった!

①いまの学生は何を学んでいるの? -「歯科衛生学」の確立に向けた歯科衛生士教育の変遷-

デンタルハイジーン, 34(1), 91-93, 2014.

東京歯科大学社会歯科学

25011033 解説

眞木吉信

専門基礎分野「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み」 歯と口の病気に対する科学的予防の基礎を学ぶ

歯科衛生士になるためのオリエンテーション2014, 8, 2014.

医歯薬出版株式会社 東京都文京区

東京歯科大学社会歯科学

単行図書 (分担) 7

25011024 単行図書 (分担)

眞木吉信

Chapter12 「栄養」としてのフッ化物応用の健全な考え方 -フッ化物摂取基準の策定と「日本人の食事摂取基準」-

フッ化物をめぐる誤解を解くための12章, 60-65, 2014.

医歯薬出版株式会社 東京都文京区

東京歯科大学社会歯科学

25011025 単行図書 (分担)

眞木吉信

2章 高齢者にかかわる法制度 1. 老人保障・医療・福祉対策の経緯 2. 介護保険制度

高齢者歯科 第2版, 14-23, 2013.

医歯薬出版株式会社 東京都文京区

東京歯科大学社会歯科学

25011026 単行図書 (分担)

眞木吉信

3章 高齢者の居住形態・施設および入院設備の特徴 2.高齢者施設 3.介護保険制度で規定された介護保険施設

高齢者歯科 第2版, 27-30, 2013.

医歯薬出版株式会社 東京都文京区

東京歯科大学社会歯科学

25011034 単行図書 (分担)

石井拓男

第1章 歯科保健の現状 1. 歯科口腔保健法の成立

歯科医療白書2013年度版, 6-11, 2014.

社会保険協会 東京都品川区

東京歯科大学社会歯科学

25011038 単行図書 (分担)

眞木吉信

Ⅱ編 歯・口腔の健康と予防 5章 フッ化物によるう蝕予防

歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学第2版, 155-181, 2014.

医歯薬出版株式会社 東京都文京区

東京歯科大学社会歯科学

25011039 単行図書 (分担)

眞木吉信

Ⅲ編 健康に関わる地域の役割 7章 精神保健

歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学第2版, 309-316, 2014.

医歯薬出版株式会社 東京都文京区

東京歯科大学社会歯科学

25011040 単行図書 (分担)

眞木吉信

第3版学校教育辞典, 2014.

教育出版株式会社 東京都千代田区

東京歯科大学社会歯科学

学会発表・口演 6

25011004 学会発表・口演

恒石美登里1)、向井美恵2)、角町正勝3)、池山豊子4)、佐藤保5)、石井拓男1)6)

口腔保健センターにおける要介護高齢者への対応状況ー歯科医師会開設口腔保健センター調査結果よりー

口腔衛生学会雑誌, 63(2), 147, 2013.

第62回日本口腔衛生学会・総会 松本市

1) 日本歯科総合研究機構、2) 昭和大学歯学部スペシャルニーズ口腔医学講座口腔衛生学、3) 角町歯科医院、4) 愛知県歯科医師会、5) 佐藤たもつ歯科医院、6) 東京歯科大学社会歯科学

25011028 学会発表・口演

田代宗嗣1)、酒寄孝治1)、原睦喜2)3)、大平真理子4)、大久保真衣3)、杉山哲也3)、石田瞭3)、平田創一郎1)、眞木吉信1)、石井拓男1)

摂食・嚥下リハビリテーション臨床における簡易舌圧測定器を用いた舌機能評価の有用性

日本老年歯科医学会第24回学術大会プログラム・抄録集, 116, 2013.

日本老年歯科医学会第24回学術大会 大阪市

1) 東京歯科大学社会歯科学、2) 東京歯科大学解剖学、3) 東京歯科大学千葉病院摂食・嚥下リハビリテーション・地域歯科診療支援科、4) 東京歯科大学クラウンブリッジ補綴学

医中誌 ID : 2013332891

25011029 学会発表・口演

兼田陽介1)、本多真由美1)、五十嵐博恵1)、平田創一郎2)、藤井一維3)、越智守生4)、國島広之5)

歯科診療所における環境汚染度に関する研究 間接接触感染のリスク調査について

日本歯科医療管理学会雑誌, 48(1), 35, 2013.

第54回日本歯科医療管理学会総会・学術大会 瑞穂市

1) Uクリニック五十嵐歯科、2) 東京歯科大学社会歯科学、3) 日本歯科大学新潟病院歯科麻酔・全身管理科、4) 北海道医療大学歯学部インプラント補綴学、5) 東北大学大学院感染症診療地域医療連携

医中誌 ID : 2013301559

25011030 学会発表・口演

兼田陽介1)、伊藤茉莉恵1)、五十嵐博恵1)、平田創一郎2)、望月聡一郎3)、國島広之4)

歯科領域における医療用マスクの汚染度に関する実態調査

日本環境感染学会誌, 29(Suppl), 361, 2014.

第29回日本環境感染学会総会・学術集会 東京都港区

1) Uクリニック五十嵐歯科、2) 東京歯科大学社会歯科学、3) 東京医療保健大学東が丘看護学部看護学科、4) 聖マリアンヌ医科大学内科学総合診療内科
医中誌 ID : 2014111551

25108025 学会発表・口演

高市真之1)、大平真理子1)2)、高松ユミ1)、高松和広1)3)4)、眞木吉信5)、佐藤亨2)、山根源之6)、片倉朗7)

慢性期病院における摂食嚥下機能療法チームの取り組み

老年歯科医学, 28(2), 132-133, 2013.

日本老年歯科医学会第24回学術大会 大阪市

1) 千葉県、2) 東京歯科大学クラウンブリッジ補綴学、3) 日本歯科大学付属病院、4) 東京都、5) 東京歯科大学社会歯科学、6) 東京歯科大学、7) 東京歯科大学オーラルメ
ディシン・口腔外科学
医中誌 ID : 2014135487

25404002 学会発表・口演

望月隆二1)8)、平田創一郎2)8)、山本仁3)8)、加藤哲男4)、橋本正次5)、河田英司6)8)、井出吉信7)

高学年で伸びるための初年次教育

第32回日本歯科医学教育学会総会および学術大会プログラム・抄録集, 77, 2013.

日本歯科医学教育学会 札幌市

1) 東京歯科大学物理学、2) 東京歯科大学社会歯科学、3) 東京歯科大学口腔超微構造学、4) 東京歯科大学化学、5) 東京歯科大学法人人類学、6) 東京歯科大学歯科理工学、7)
東京歯科大学、8) 東京歯科大学医学教育開発センター
医中誌 ID : 2014045858

学会発表・示説 15

25009007 学会発表・示説

杉原直樹1)、眞木吉信2)、松久保隆1)

高齢者における歯肉退縮の有病と関連する要因

口腔衛生学会雑誌, 63(2), 200, 2013.

第62回日本口腔衛生学会・総会 松本市

1) 東京歯科大学衛生学、2) 東京歯科大学社会歯科学
医中誌 ID : 2013267235

25011005 学会発表・示説

酒寄孝治、眞木吉信、平田創一郎、石井拓男

リチウム電池内蔵イオン歯ブラシによる口腔環境と唾液分泌の変化

口腔衛生学会雑誌, 63(2), 218, 2013.

第62回日本口腔衛生学会・総会 松本市

東京歯科大学社会歯科学

医中誌 ID : 2013267271

25011008 学会発表・示説

平田創一郎1)2)3)、小川哲次2)、尾崎哲則2)、樫則章2)、木尾哲朗2)、山本龍生2)、
平田幸夫1)、山本仁3)4)、高橋俊之3)5)、杉原直樹3)6)、上田貴之7)、河田英司3)8)

歯科学生のための倫理・プロフェッショナリズム教育用ツールに関する考察

第32回日本歯科医学教育学会総会および学術大会プログラム・抄録集, 104, 2013.

第32回日本歯科医学教育学会総会および学術大会 札幌市

1) 東京歯科大学社会歯科学、2) 日本歯科医学教育学会、3) 東京歯科大学歯科医学教育開発センター、4) 東京歯科大学口腔超微構造学、5) 東京歯科大学千葉病院総合診療
科、6) 東京歯科大学歯科衛生学、7) 東京歯科大学有床義歯補綴学、8) 東京歯科大学歯科理工学
医中誌 ID : 2014045907

25011018 学会発表・示説

酒寄孝治、眞木吉信、平田創一郎

口腔機能の向上を目的とした地域支援事業参加者の口腔機能の継続的評価

第72回日本公衆衛生学会総会抄録集, 391, 2013.

第72回日本公衆衛生学会総会 津市

東京歯科大学社会歯科学

医中誌 ID : 2014151270

25011019 学会発表・示説

大川由一1)、平田創一郎2)、平田幸夫3)、那須郁夫4)

臨床研修歯科医師の進路希望と就業地域選択の影響要因

第72回日本公衆衛生学会総会抄録集, 497, 2013.

第72回日本公衆衛生学会総会 津市

1) 千葉県立保健医療大学健康科学部歯学衛生学科、2) 東京歯科大学社会歯科学、3) 神奈川歯科大学社会歯科学講座歯科医療社会学、4) 日本大学松戸歯学部公衆予防歯科学

医中誌 ID : 2014151691

25011031 学会発表・示説

平木圭佑1)、杉山哲也2)、大久保真衣2)、山本昌直2)、原睦喜3)、大平真理子4)、酒寄孝治1)、眞木吉信1)、石田瞭2)、平田創一郎1)

摂食・嚥下リハビリテーション地域歯科診療支援科開設5年間の臨床統計

歯科学報, 113(4), 439, 2013.

第296回東京歯科大学学会（総会） 東京都千代田区

1) 東京歯科大学社会歯科学、2) 東京歯科大学千葉病院摂食・嚥下リハビリテーション・地域歯科診療支援科、3) 東京歯科大学解剖学、4) 東京歯科大学クラウンブリッジ補綴学

医中誌 ID : 2014135683

25107017 学会発表・示説

戸村恭子1)、大神浩一郎1)、古池崇志1)、横本満洋1)、上田貴之1)、古賀寛2)、眞木吉信3)、櫻井薫1)

象牙質知覚過敏症治療剤によるフッ化物イオン取込み量および深さ

老年歯科医学, 28(2), 206-207, 2013.

日本老年歯科医学会第24回学術大会 大阪市

1) 東京歯科大学有床義歯補綴学、2) 東京歯科大学衛生学、3) 東京歯科大学社会歯科学

医中誌 ID : 2013333011

25108022 学会発表・示説

Ohira M1), Ishida R2), Maki Y3), Okubo M2), Sugiyama T2), Sakayori T3), Sato T1), Fujishima I4).

Evaluation of screening system for dependent elderly with dysphagia.

The Dysphagia Research Society 22nd Annual Meeting Program, 102, 2014.

The Dysphagia Research Society 22nd Annual Meeting Nashville, USA

1) 東京歯科大学クラウンブリッジ補綴学、2) 東京歯科大学千葉病院摂食・嚥下リハビリテーション・地域歯科診療支援科、3) 東京歯科大学社会歯科学、4) 浜松市リハビリテーション病院

25108023 学会発表・示説

大平真理子1)、石田瞭2)、眞木吉信3)、大久保真衣2)、杉山哲也2)、酒寄孝治3)、佐藤亨1)、藤島一郎4)

要介護高齢者における誤嚥および咽頭残留に関するMASA の評価項目の有用性の検討

第19回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会プログラム, 469, 2013.

第19回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会 倉敷市

1) 東京歯科大学クラウンブリッジ補綴学、2) 東京歯科大学千葉病院摂食・嚥下リハビリテーション・地域歯科診療支援科、3) 東京歯科大学社会歯科学、4) 浜松市リハビリテーション病院

25108026 学会発表・示説

卯田淑子1)、渡辺裕美1)、高市真之1)、大平真理子1)2)、高松ユミ1)、高松和広1)3)4)、眞木吉信5)、佐藤亨2)、山根源之6)、片倉朗7)

地域包括的ケアシステムにおける歯科衛生士の役割

老年歯科医学, 28(2), 174-175, 2013.

日本老年歯科医学会第24回学術大会 大阪市

1) 千葉県、2) 東京歯科大学クラウンブリッジ補綴学、3) 日本歯科大学付属病院、4) 東京都、5) 東京歯科大学社会歯科学、6) 東京歯科大学、7) 東京歯科大学オーラルメディシン・口腔外科学

医中誌 ID : 2014135547

25108027 学会発表・示説

渡辺裕美1)、卯田淑子1)、高市真之1)、大平真理子1)2)、高松ユミ1)、高松和広1)3)4)、眞木吉信5)、佐藤亨2)、山根源之6)、片倉朗7)

当院における口腔ケアアセスメントシートの有効性

老年歯科医学, 28(2), 224-225, 2013.

日本老年歯科医学会第24回学術大会 大阪市

1) 千葉県、2) 東京歯科大学クラウンブリッジ補綴学、3) 日本歯科大学付属病院、4) 東京都、5) 東京歯科大学社会歯科学、6) 東京歯科大学、7) 東京歯科大学オーラルメディシン・口腔外科学

医中誌 ID : 2014135614

25114010 学会発表・示説

高橋俊之1)、古澤成博2)、片倉朗3)、杉戸博記4)、平田創一郎5)、石井拓男5)、亀山敦史1)、野呂明夫1)、山倉大紀1)、春山亜貴子1)、近藤祥弘1)、杉山利子1)、杉山節子1)

東京歯科大学臨床研修歯科医の動向

第32回日本歯科医学教育学会総会および学術大会プログラム・抄録集, 165, 2013.

第32回日本歯科医学教育学会総会および学術大会 札幌市

1) 東京歯科大学千葉病院総合診療科、2) 東京歯科大学歯科保存学、3) 東京歯科大学オーラルメディシン・口腔外科学、4) 東京歯科大学口腔健康臨床科学・歯科保存、5) 東京歯科大学社会歯科学

医中誌 ID : 2014046028

25114014 学会発表・示説

亀山敦史1)、春山亜貴子1)、加藤広之2)、大久保信貴3)、武本真治4)、服部雅之4)、河田英司4)、小田豊4)、高橋俊之1)、石井拓男2)5)、齋藤淳3)

保存科臨床実習における「歯科理工学と保存修復学との連携講義」および「個別問題演習とグループ討議を組み合わせた協同学習」について

歯科学報, 113(2), 211, 2013.

第295回東京歯科大学学会（例会） 千葉市

1) 東京歯科大学千葉病院総合診療科、2) 東京歯科大学歯科保存学、3) 東京歯科大学歯周病学、4) 東京歯科大学歯科理工学、5) 東京歯科大学社会歯科学

医中誌 ID : 2013301761

25114023 学会発表・示説

高橋俊之1)、古澤成博2)、片倉朗3)、杉戸博記4)、平田創一郎5)、石井拓男5)、亀山敦史4)

東京歯科大学歯科医師臨床研修修了後の研修歯科医の進路および進路志向

歯科学報, 113(4), 428, 2013.

第296回東京歯科大学学会（総会） 東京都千代田区

1) 東京歯科大学千葉病院総合診療科、2) 東京歯科大学歯科保存学、3) 東京歯科大学オーラルメディシン・口腔外科学、4) 東京歯科大学口腔健康臨床科学・歯科保存、5) 東京歯科大学社会歯科学

医中誌 ID : 2014135660

25115008 学会発表・示説

山本昌直1)、大久保真衣1)、杉山哲也、本多康聡1)、大平真理子2)、原睦喜3)、田代宗嗣4)、石田瞭1)

在宅療養中の多系統委縮症 (MSA) 患者における嚥下内視鏡検査所見

第19回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会抄録集, 562, 2013.

第19回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会 倉敷市

1) 東京歯科大学千葉病院摂食・嚥下リハビリテーション・地域歯科診療支援科、2) 東京歯科大学クラウンブリッジ補綴学、3) 東京歯科大学解剖学、4) 東京歯科大学社会歯科学

学会発表・シンポジウム/パネルディスカッション 2

25011002 学会発表・シンポジウム/パネルディスカッション

眞木吉信

「歯科口腔保健法」の目標を達成するための「フッ化物応用モデル」の提案 ライフステージに応じたフッ化物応用モデル

口腔衛生学会雑誌, 63(2), 131, 2013.

第62回日本口腔衛生学会・総会 松本市

東京歯科大学社会歯科学

医中誌 ID : 2013267134

25011012 学会発表・シンポジウム/パネルディスカッション

桃井保子1)、眞木吉信2)

歯みがきを再考する ―エビデンス (根拠) とコンセンサス (合意) ―

日本歯科保存学会2013年度秋季学術大会 (第139回) プログラム, 4, 2013.

日本歯科保存学会2013年度秋季学術大会 (139回) 秋田市

1) 鶴見大学歯学部修復学、2) 東京歯科大学社会歯科学

学会発表・特別講演 1

25011015 学会発表・特別講演

眞木吉信

リチウム電池内蔵イオン歯ブラシによる口腔の変化

第13回マイナスイオン応用フォーラムプログラム, 11-12, 2013.

第13回マイナスイオン応用フォーラム 東京都文京区

東京歯科大学社会歯科学